

# 建築設計製図優秀作品集 2018

「コネクト ―価値を交換するまち―」 勝部秋高・篠原 健・高橋遼太郎・笹川雄基

「親水公園と美術館に隣接する都市型集合住宅」 佐俣夏子・天谷 光

「変幻自在」 森山美波

「カンボジア王国シュムリアップ州における観光施設計画  
―トンレサップ湖の複合水上交通拠点の設計―」 上田紗矢香

「海老川の水を使い倒して健康なまちに。―FUNABASHI HEALTH TOWN PLAN―」  
D班 / 田中孝登・野中康太郎・中田佳宏・鈴木海人・坂口翔太

「統合型リゾートとしての横浜市山下ふ頭開発計画  
―日本文化をテーマとした複合観光施設の設計―」 蒲生良輔

「なんとか stage」 齋藤瞬汰

「生業団地 ―リノベーションでイノベーションする―」 山本淳樹・吉本麗音・Lunenkova Anastasia・渡辺真理恵・三枝 晃

「街のアーティミュージウム」 中村正基・鈴木亜実

「光の空間」 越原瑞樹・丸山奈々葉・岩井紫苑・小川香奈・森山美波・小林 葵・西辻優世・北川涼雅

「Singapore Aquatecture」 服部 立

「浮かぶ瀬を 墓地スラムの居住権獲得へ」 三枝 晃

「機械仕掛けの小宇宙」 川内俊太郎

「水辺に佇むマイ・スペース+ others」 小林 葵・田畑 輝・山田遊耶

「プレゼンテーション」

中村美月・金子 真・宮本大河  
中村数基・郎 敬萬・西村寿々美  
石川敦大・藤島健英・山本裕貴

「水族館」 中村美月・藤島健英

「パン粉の景色」 小川香奈

「横浜新山下 海の駅計画」 小山田駿志・西 遼

「WALK UP ―WALK + STEP UP―」 吉澤果南・秋元千秋・佐藤耕里・藤城佑里花・藤田優美

## 平成30年度 設計製図担当教員一覧

### 1年生（ベーシックデザイン演習）

佐藤信治（ベーシックデザイン演習）／海洋建築工学科  
菅原 遼（ベーシックデザイン演習）／海洋建築工学科  
川久保智康（ベーシックデザイン演習）／川久保智康建築設計事務所  
木内厚子（ベーシックデザイン演習）／STUDIO 8  
佐藤浩平（ベーシックデザイン演習）／佐藤浩平建築設計事務所  
玉上貴人（ベーシックデザイン演習）／タカトタマガミデザイン  
筒井紀博（ベーシックデザイン演習）／筒井紀博空間工房  
鶴田伸介（ベーシックデザイン演習）／熊工房

### 2年生（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）

佐藤信治（デザイン演習Ⅰ）／海洋建築工学科  
小林直明（デザイン演習Ⅱ）／海洋建築工学科  
菅原 遼（デザイン演習Ⅰ）／海洋建築工学科  
安藤 亮（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／株式会社環境システム研究所  
内海智行（デザイン演習Ⅱ）／ミリグラムスタジオ  
小野和幸（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／KAJIMA DESIGN  
勝又 洋（デザイン演習Ⅰ）／大成建設株式会社  
高野洋平（デザイン演習Ⅱ）／高野洋平建築設計事務所  
神野郁也（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／神野郁也アーキテクト  
新田知生（デザイン演習Ⅱ）／向日葵設計  
間田真矢（デザイン演習Ⅰ）／MAMM DESIGN  
水野吉樹（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／株式会社竹中工務店

### 3年生（デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン）

佐藤信治（デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン）／海洋建築工学科  
小林直明（デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン）／海洋建築工学科  
内海智行（デザイン演習Ⅲ）／ミリグラムスタジオ  
桔川卓也（デザイン演習Ⅲ）／ナスカ  
高野洋平（デザイン演習Ⅲ）／高野洋平建築設計事務所  
新田知生（デザイン演習Ⅲ）／向日葵設計  
光井 純（デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン）／光井 純アンドアソシエーツ建築設計事務所株式会社  
山田晶子（デザイン演習Ⅲ）／かめ設計室

### 4年生（総合演習）

佐藤信治（総合演習）／海洋建築工学科  
小林直明（総合演習）／海洋建築工学科  
桜井慎一（総合演習）／海洋建築工学科  
山本和清（総合演習）／海洋建築工学科  
菅原 遼（総合演習）／海洋建築工学科  
穴澤順子（総合演習）／光井 純アンドアソシエーツ建築設計事務所株式会社  
吉田郁夫（総合演習）／清水建設株式会社

「福産漁耕 — 工業温排水を熱源とした都市型二次産業の提案 —」  
根本一希・山本壮一郎・桜井南実・服部立・住吉文登

「意職住 — 意思のある人々が住み職で復興する —」 渡辺真理恵

「水都の樹冠」 勝部秋高

「痕跡の行方 生を具現化した風景がつくる死と人との新しい距離」 根本一希

「危険な新築」 森田光奎

「環境と住空間を考える」 親水公園沿いに建つ住宅」 澤田実和・神林慶彦・福田晃平

「連鎖する食欲」 三好将斗

「雲の紡ぎ手 — ソマリアに建つ水を自給自足するウェルネスキャンプの提案 —」 高橋遼太郎

「沖合漁業を対象とした浮体式水産基地の提案  
— 小笠原諸島父島沖における物流及び観光拠点の設計 —」 永冨 快

日本大学理工学部 海洋建築工学科

# 建築設計製図優秀作品集 2018

---

## CONTENTS

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 1年生 (ベーシックデザイン演習) .....        | 2  |
| 2年生 (デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ) .....    | 8  |
| 3年生 (デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン) ..... | 16 |
| 4年生 (総合演習) .....               | 27 |
| 卒業設計 .....                     | 33 |
| 修士設計 .....                     | 42 |
| コンペ受賞歴一覧 .....                 | 46 |

# 1年生（後期：ベーシックデザイン演習）

【担当】 佐藤 信治  
菅原 遼  
川久保智康  
木内 厚子  
佐藤 浩平  
玉上 貴人  
筒井 紀博  
鶴田 伸介

## ベーシックデザイン演習 （後期）

### 第1課題

「ミクロの世界に立ってみよう」  
（出題：佐藤信治）

#### 【課題趣旨】

課題は普段見慣れたものの視点を変える訓練から始まります。皆さんの体が身長15～18mm位の大きさにまで小さくなったとします。見慣れていた文具や家電など手に取ることでできる小さなものがまるで未来都市や巨大な構築物のように見えるでしょう。ミクロの大きさになった皆さんは普段は外側から見ているものの中に自由に入りし内部空間をじっくりと眺めることができます。見たことのない空間に入り周りの質感や表情を見つめます。細部まで想像してください。さまざまな驚きや発見があるでしょう。内部空間にあなた自身が立ち最も魅せられた光景を表現してください。空間は意外なところにも存在します。あなたが見つけたこの内部空間を丁寧に描いてください。そして絶妙のタイトルをつけその空間の特質を説明してください。

#### 【提出物】

- (1) ケント紙に描いた作品。裏面に①担当講師氏名、②学生番号＋氏名、③描いた対象物とタイトルを記入
- (2) 作品タイトルと空間の説明文を記したA4サイズレポート用紙1枚。レポート用紙の最初に、同じく上記を記入

#### 【採点基準】

- (1) 描く対象物への着眼点（誰でも知っている身近なものでありながら、一見とてものようには見えないという視点を選んでください）
- (2) 表現の密度
- (3) 説明の適切さ
- (4) 必ずどこかに立っていることがわかるような視点であること

### 第2課題

「光の空間」

（出題：玉上貴人、木内厚子）

#### 【課題趣旨】

空間をデザインする上で、「光」は大切な要素の1つです。人間が視覚から得る情報の多くは、可視光線によるものです。私たちは「光」を手掛かりに、かたちや空間を認識しています。たとえば天井や壁で覆われた内部空間において、採り込まれる自然光を遮ったり反射させたりすることで、明るさや陰影を折り合わせた場所をつくり出すことができるのです。つまり、光と影を操作することは、空間をつくる行為そのものなのです。

『Structure gives light makes space 構造は光を与え 光は空間をつくる』

これは20世紀の巨匠建築家ルイス・カーンの言葉です。構築物が重力を支えるだけではなく、光の受け手であり、光を可視化できるものであるということを表しています。彫刻家は石を削り、画家はキャンバスに絵の具をのせていきます。建築家はいかにして「空間」をつくるのか？ それは、そこに導く「光」によるという視点なのです。

#### 【提出物】

- (1) 模型：1/20、「光の空間」を表現した模型（必ず内部に1体の人物を入れ込む。6面のうち1面はない状態で作成）
- (2) 図面：以下をA2判2枚にまとめる  
・平面図：1/20（2面、切断位置GL+1,000、GL+3,000）  
・断面図：1/20（1面）  
・模型写真：2L判以上  
・タイトル＋設計趣旨：300字程度

#### 【評価基準】

- (1) 光の現象や表情の面白さが、空間に活かされているか。
- (2) 光の採り込み方に工夫や独自性があるか。

- (3) 使用する材料をうまく加工できた模型かどうか。
- (4) 空間の表現にどのような意味（コンセプト）を与えたか。
- (5) 光と影の操作に関係のない平面的な装飾は求めません。

### 第3課題

「水辺に佇むマイ・スペース  
+ others」

（出題：川久保智康、筒井紀博）

#### 【課題趣旨】

マイ・スペースは文字通り自分のための空間でありながら、「+」の要素が求められます。それは自分以外の誰かとの接点を想定し、その場所を共有できることです。誰は1人でも複数人でもかまいません。人間はそもそも共同体です。そうしたコミュニケーションにこそ、「空間」や「場所」の意味があるのです。その場所を訪れる人々に「素敵なん何かを」与える提案を期待します。

#### 【設計条件】

計画地は、本学キャンパスより東陽高速線船橋日大前の北約600mの坪井近隣公園内に位置する。北西側は遊歩道に、南東側は調整池に面した、間口20m×奥行15mのなだらかな傾斜をもつ水辺空間である。休日はジョギングする人、家族で憩う人など、公共な広場や公園的な機能として賑わいがある。該当敷地は公園広場と水辺との間の水際に位置し水陸の環境要素と計画内容がどのような関係をもって魅力ある場所と成り得るかを計画するものとする。

- (1) 「マイスペース」という定義は住まうスペースではなく、趣味や遊び、自身のアトリエやギャラリー、リスニングルームなどプライベートに活動する場所をイメージする。各自でストーリーを設定すること。自身がかわるスペースであれば

設定は自由。

- (2) 「+」はマイスペースにパブリックスペースをプラスすることを意味する。例えば誰かを招いたり、皆でくつろいだり、地域の人たちが休憩できる場所でもよい。誰かと共有される価値を付与すること。
- (3) 水辺を積極的に利用。水辺の水質はきれいな状態であると想定する。建物と水辺との動線は必ず確保し、水辺と岸辺、陸地など場所性をとらえ、関係を深める提案を行う。
- (4) 計画地：千葉県船橋市坪井町1371
- (5) 敷地面積：300㎡（約90坪）
- (6) 延床面積：30～100㎡（ピロティ・外部階段・テラス・バルコニー・庇等は面積不算入）
- (7) 構造：自由
- (8) 階数：自由  
・地盤は表層から支持地盤となり得る良好なものとする。  
・電気・ガス・上下水道は供給済み。  
・建築基準法、都市計画法などの関係法規は適用外とする。

#### 【提出物】

- A2判ケント紙横使い4枚。以下のうち①に1枚、②～⑤に3枚を割り当て。
- ①表紙：設計趣旨や計画説明を文、図（スケッチ・パース等）、写真で構成。
  - ②配置図：1/100（建築物を屋根伏で表現し、道路、隣地、遊歩道、池との位置関係を示す）
  - ③平面図：1/50（各階平面図。1階平面図には外構計画を表現する）
  - ④断面図：1/50（2面以上。1面は水際線を横断し、水域と建物との関係を表現する）
  - ⑤立面図：1/50（各面4面以上）
  - ⑥模型：1/50（プレゼンテーション用。池・遊歩道など周囲もきれいに作成し、建築はこの地盤にしっかり固定すること。現物提出、採点後返却。写真は①に貼付）  
図面は鉛筆描きを原則とするが、彩色（インキング）も可。

ベーシックデザイン演習 第1課題  
**ミクロの世界に立ってみよう**

■講評

- 「危険な新築」：一見工場のようながらんどうの空間です。よく見るとそれはなんだか見慣れた風景のようにも思えます。これは電子レンジの中から外をみた景色です。そうするとマイクロマンは弁当の中なのでしょうか。電子レンジ内部の金属の質感などが丁寧に描かれています。一見で電子レンジと分かりすぎてしまうことが残念です。
- 「変幻自在」：謎の円盤かエイリアンの卵のようなものが光っています。こ

れらは逆光の中で丁寧なタッチで描かれています。マイクロマンはどこにいるのでしょうか。それは、たぶん冷蔵庫の中の卵パックの中にあるのでしょうか。これはエイリアンの卵ではなく鶏卵でした。丁寧に描かれています。すぐに卵とわかってしまう点はマイナスでしょう。もっと見え方を工夫してもよかったのではないのでしょうか。

- 「機械仕掛けの小宇宙」：機械式時計の文字盤の様子が丁寧に描かれています。これは近年の定番の構図になってきています。ガラスの風防からその下に広がる円形の文字盤を丁寧に描写しています。しかしながら、マイクロマンではなく、作者自身が文字盤を除いているような、どこか客観的な印象

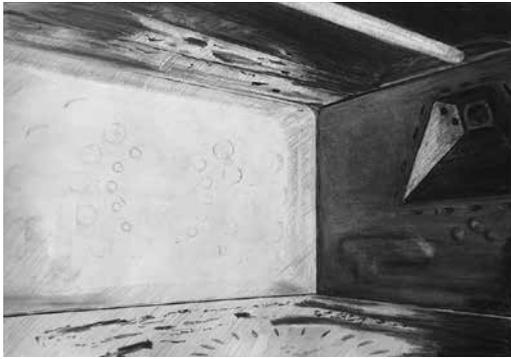
を受けてしまいます。マイクロマンの影が文字盤に映っているとか、長針と短針が覆い被さってくるような構図になるとよかったと思われたいです。

- 「なんとか stage」：よく描けたスケッチです。これは一体何を表しているのでしょうか？ そのヒントは上空に開いた丸い穴とそれを横切る線です。よく見るとその線は細い線から太い線まで綺麗に並んでいます。そうマイクロマンは、アコースティックギターの胴の中にいるのです。これは正確に描いている点ではいいのですが、見る人に驚きを与えません。もっとダイナミックな構図をとっていたらさらによかったでしょう。
- 「連鎖する食欲」：マイクロマンは敵の

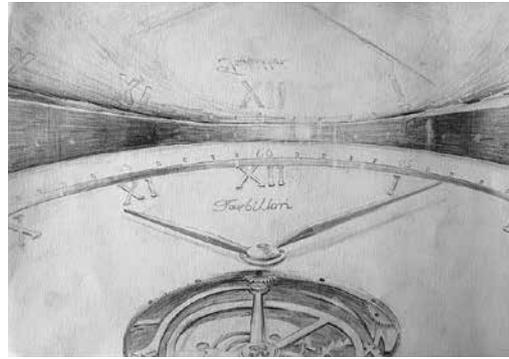
基地をようやく突き止めたのでしょうか。金属を思わせる空間には、無機質な格子のようなものがあり一見、身の危険を感じそうになります。しかし、よく見るとこれはトースターの内部空間のようです。金属の質感とプロポーションがよく描けているため、迫力ある空間を描写した作品となっています。

- 「パン粉の景色」：この作品は、SF映画に出てくるような未来的な構図です。さらに用紙を縦使いにしており、上空にあるパンチングメタルと下部に残された残骸が丁寧に描かれています。マイクロマンはそう、オープンの中にいるのです。上下を俯瞰した構図がそのダイナミックさをよく表現しています。

(佐藤信治)



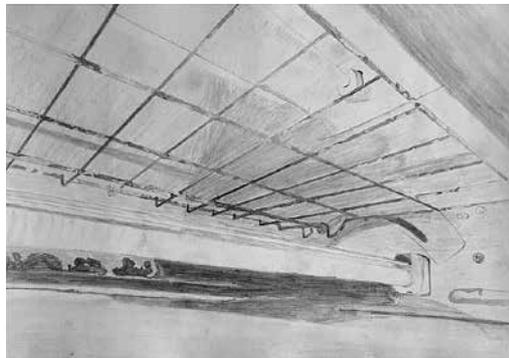
森田光奎「危険な新築」



川内俊太郎「機械仕掛けの小宇宙」



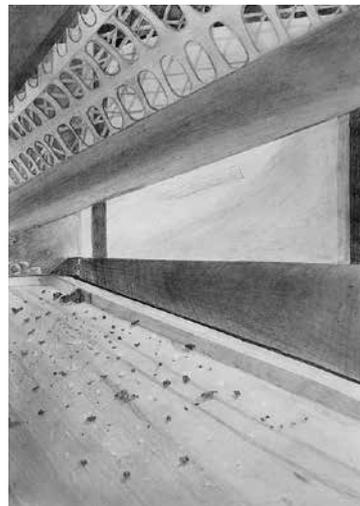
齋藤瞬汰「なんとか stage」



三好将斗「連鎖する食欲」



森山美波「変幻自在」



小川香奈「パン粉の景色」

■講評

●越原瑞樹：構成要素は繊細さを演出することを意識して細く、外周部は均一に抑制され、また太陽の動き（方向・高度）により影と光が移り変わっていくという、建築空間がイメージできていることも大変よいと思います。

●丸山奈々葉：四角いフレームの大きさを変え、フレームの角度をずらしていくことで奥へと自然と誘い込まれるようなダイナミックな作品です。この作品ができた過程は、当初は前後の関

係が逆であったそうで、建築空間の外部と内部の関係も学んだのではないかと思います。

●岩井紫苑：中央の曲線を描く立体に光をあてることで、やわらかな空間を演出した作品です。夏至の高度に合わせて設定された上面は、建築的な思考であり好感が持てますが、外周の壁の扱いなど、もう一工夫必要なのにも感じます。

●小川香奈：「本の世界へ」というタイトルと、本を広げたような空間構成の組み合わせ方がとても上手く、本をモチーフにした構成要素が、引き込まれるような光を演出している、また床面が階段状になっていることで、奥行きを感じるものとなり、考え抜かれた優れた作品です。  
(木内厚子)

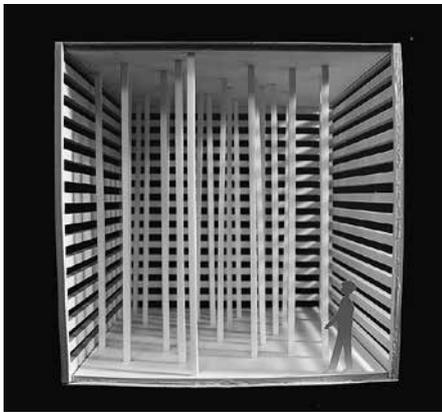
●森山美波：螺旋階段のようなオブジェクトを壁から持ち出すことで、動きのある生き生きとした表情を醸し出している。しかし光よりは装飾の印象が強く、空間というよりはディスプレイのように見えてしまうのが惜しい。限られた空間に奥行きを感じさせることには成功しているので、今後に期待したい。

●小林 葵：一見装飾のためだけに設けられたように見えるつる状の部材は、花びら形を浮遊させるための構造となっている。こうした発想と繊細な加工によって連結部材を無くし余計な影のない美しい光のグラデーションを実現している。アールヌーボー的なクラフトマンシップを想起させる秀作

である。

●西辻優世：棒材を交差させただけのシンプルな構成にもかかわらず、光の濃淡と隙間から漏れる光が美しい。中心に十字型を据えながらも四隅へとパースペクティブが効くため、視点が定まらない不思議な感覚を覚える。スケール感と比例を工夫すれば人が介在する空間として昇華できたと思う。

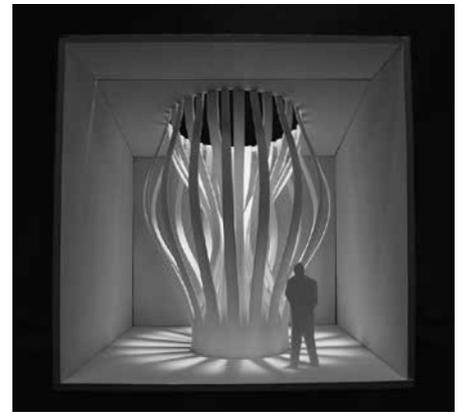
●北川涼雅：スチレンボードにいくつもの切り込みを入れ隆起させることで3次元曲面を作り出している。透光性のあるスチレン部分から光を取り込んだことは、「開口」から採光を確保するという建築の常識を良い意味で裏切っている。模型だからこそできた、という面もあるが可能性を感じさせる良案である。  
(玉上貴人)



越原瑞樹



丸山奈々葉



岩井紫苑



小川香奈



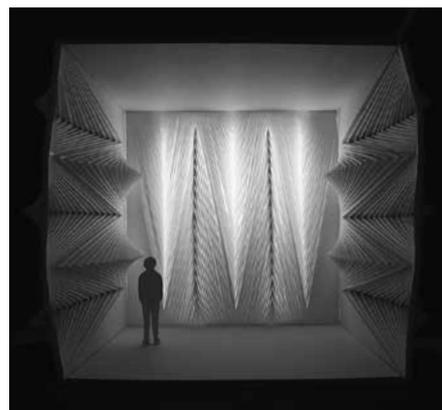
森山美波



小林 葵



西辻優世



北川涼雅

ベーシックデザイン演習 第3課題  
水辺に佇むマイ・スペース  
+ others

小林 葵

■コンセプト

マイスペースは、地下1階に設置し自分だけの空間を作り出せるよう正面の湖と接する面だけを外部と触れるようにした。また、正面全体をガラス張りにする事で、水との表面積を増やし、より近くに湖を感じられるようにした。さらに、自分だけの空間だけでなく、学生同士の交流の場として最上階に「学生の間」を設けた。

「学生の間」を最上階に設けた理由

としては主に2つある。1つ目は、他者とのコミュニケーションの機会を増やすため、入口から「学生の間」に行くまでに3つの空間を通過する。この3つの空間は、だれでも利用することのできるパブリックなスペースであり、地域の人々との交流の機会をつくることのできる。2つ目は、景色を良くするためである。建築はその場所にその空間に新しいものを生み出し、周囲にどんな影響を与えるかでその建築の魅力が決まってくる。つまり、周囲の環境を崩さずにどれだけ良いものを生み出すかということ。

■講評

大胆さや奇抜さをあえて避けるように空間をひっそりと連ねた作品である。「光の空間」では艶やかな具象作品を造り、本課題では対極的に抽象性にチャレンジしてみせる幅広さは見事である。

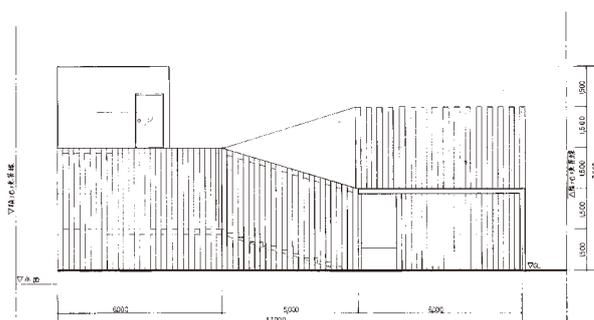
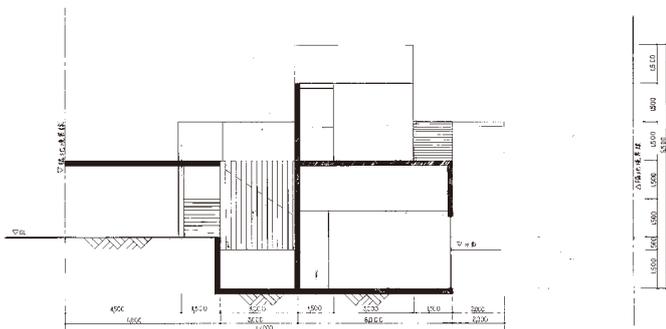
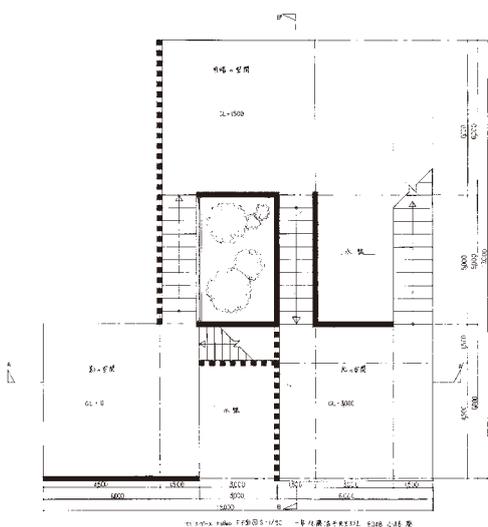
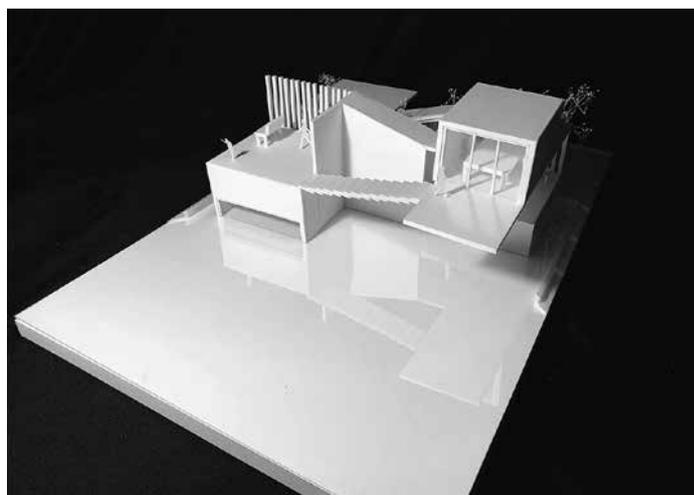
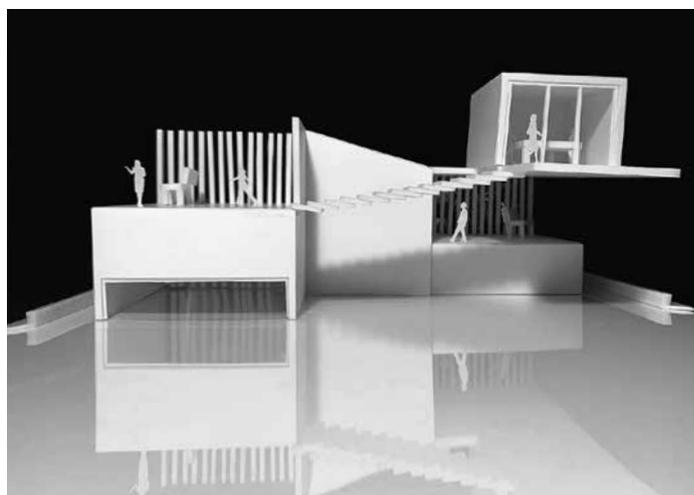
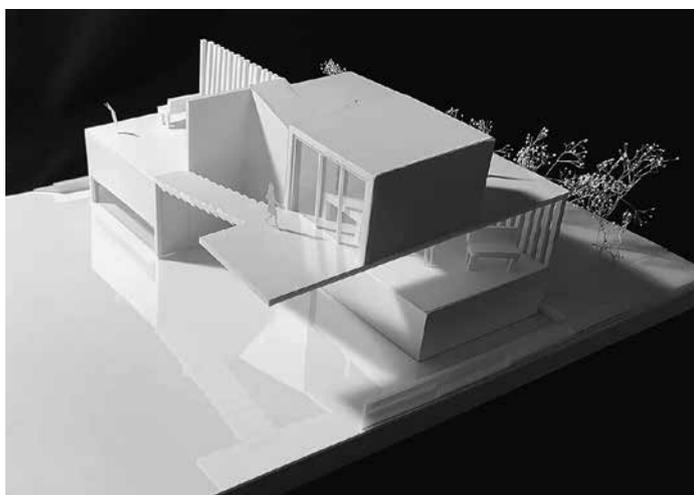
マイスペースは地下にあるのだが、ここを「瞑想空間」などと大げさに呼ばず、最上部の池への眺望が開けた場所を女学生との談話の場と言っている。何ともおだやかではないか！

入口から続く緩いスロープで進行方向を変えながら上がってゆくのであるが、おそらくこの建築のもっとも見るべき、評価すべきはそこで展開されるシークエンスを主役にしたところである（おそらく学生には理解しにくい

もしれない）。つまらない裏道をだらだらと歩かせ、その先のお目当ての眺望を突然見せつけて驚かせるといったことはそれこそ名の知れた建築家でもよくやることであるが、その上をいっているように思える。

昨今のデザインの仕方はひたすらスマホ画像からヒントを漁るということになるのであろうが（それ自体は悪いことではない）そういった方法からは本作品は生み出しようがない。

他教科の成績も優れており、今後の成長がとても楽しみである。また、私のできの悪い学生と戯れている様を冷やかに見ながら作業を淡々と進めている姿は私などよりよっぽど「先生」であった。（佐藤浩平）



ベーシックデザイン演習 第3課題  
**水辺に佇むマイ・スペース  
 + others**

田畑 輝

■コンセプト

千葉県は、地産地消をもじって「千産千消」を提唱している。そんな「千産千消」の食材である千葉県や船橋市の農産物を使ったレストランをつくり、市民と自然と農業を結びつける場とした。建築物の全体像は「木」をモチーフとしたデザインとしており、子どもからお年寄りまで、昔から暮らしていた人から移住してきた人についても、すべての人々が郷土愛を深められる場

としている。

■講評

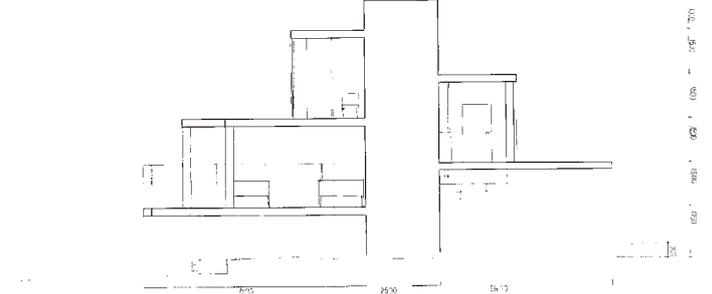
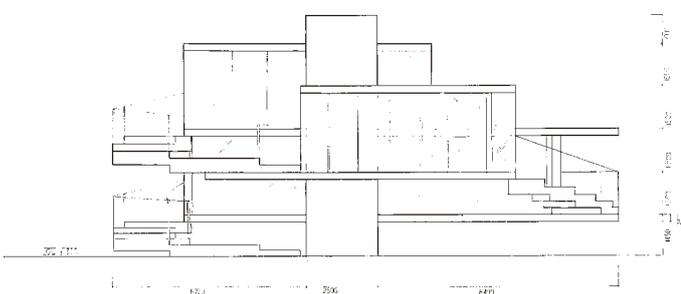
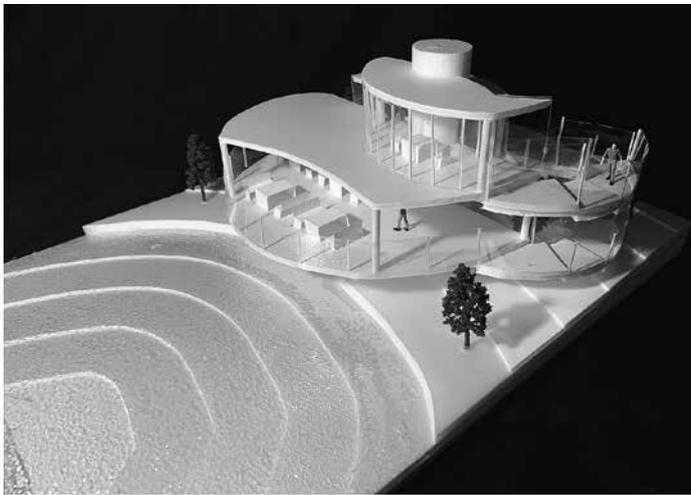
この課題は公園という公共性の高い場所の中の、水辺に面した敷地に、「マイスペース+ other」を計画するという、敷地環境を考察することからはじまり、「マイスペース」という自

分の場所を、どのような用途・機能に設定するかを考える課題です。自由度が高く、取り組み方に戸惑う学生も多いですが、「マイスペース」だからこそ、リアリティを持って進めてほしい課題でもあります。

田畑輝くんの作品は、木をデザインモチーフにしたいという考えは、当初から一貫していて、それをどのように計画におとし込んでいくかが課題であったように思います。最終案は、幹の廻りに、水平性の高い空間を半階ごとに上がっていく構成となっています。水面との関係については、地盤面は建物浮かせることで開放され、水面まで見通すことができ、上階では水面に大きく張り出すという、レベルによる

関係が異なるのも、魅力の1つになっています。今後期待されることとしては、構造や断面計画をさらに学び、より精度の高い建築をつくってほしいと思います。

それから、最終的な作品からだけでは読み取れませんが、田畑くんは、毎週の授業には大変意欲的で、必ず複数案検討した模型を持ってきました。案を一度つくってしまうと、なかなかその形に固執しがちになることが多い中で、毎週ブラッシュアップさせながら、違った形・案を持ってくる姿はすばらしく、今回の作品の評価につながったと考えています。後に必ず自分の力になるものと信じて、継続してほしいと願っています。(木内厚子)



山田遊耶

■コンセプト

この建築物のコンセプトは、三角形である。建物内部の空間は3:4:5の直角三角形で構成された三角柱であり、それを4つ設け、屋上を支える柱としている。また、屋上は三角形のタイルをつなげてつくられており、そのタイルにさまざまな角度をつけることによって、高低差を生み出し、誰でも楽しむ、くつろげる空間をつくっている。三角柱の中には、トイレ、階段、口

ツカールーム、マイスペースを設けている。マイスペースでは、本を読んだり、仮眠をとったりできることを目的としている。また、マイスペースは天井と調節池側へのみ開口部（窓）を設けているため、プライベートな空間が確保されている。

■講評

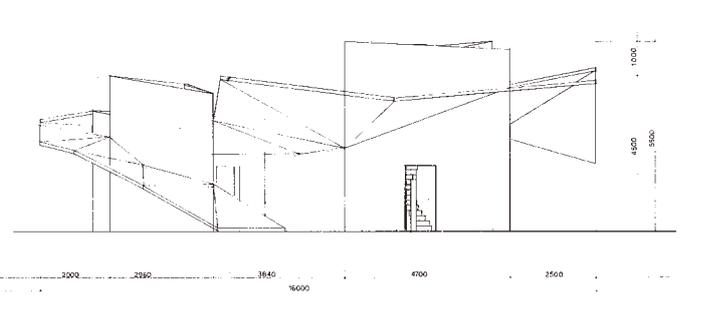
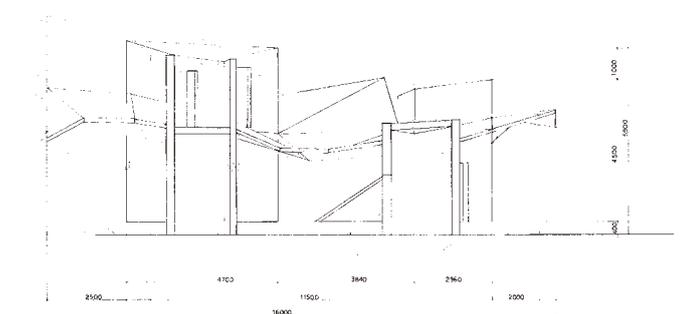
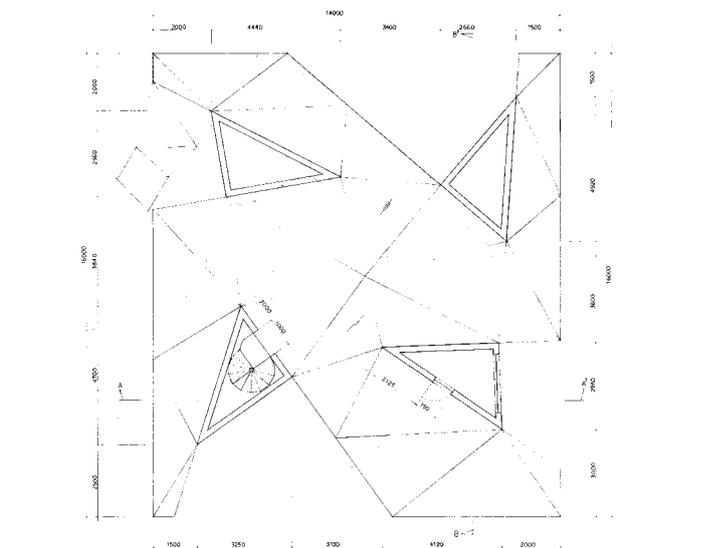
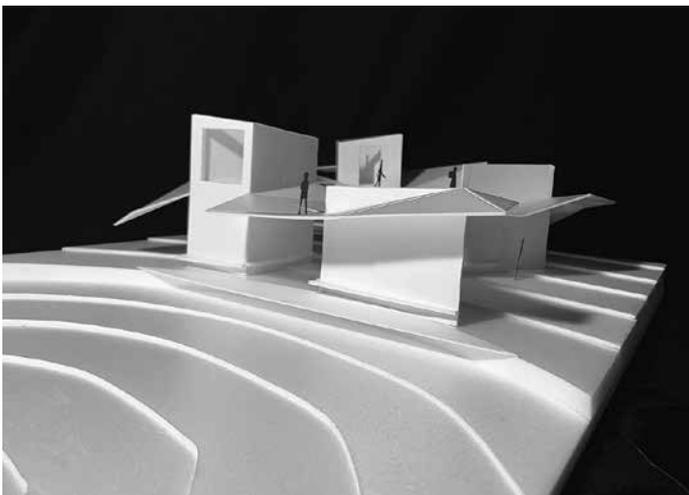
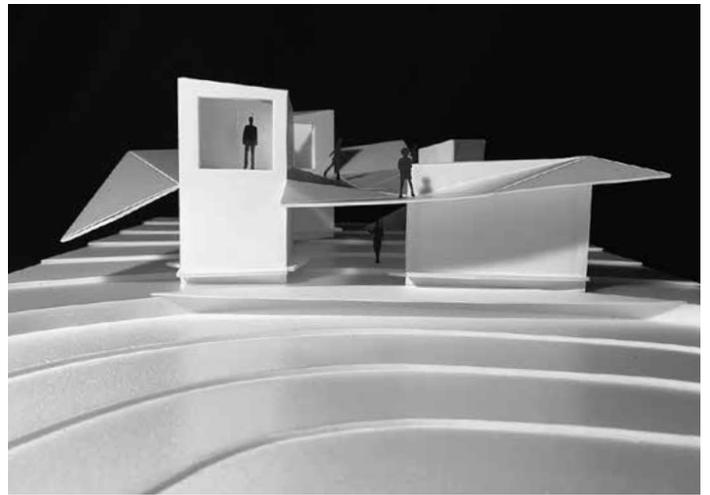
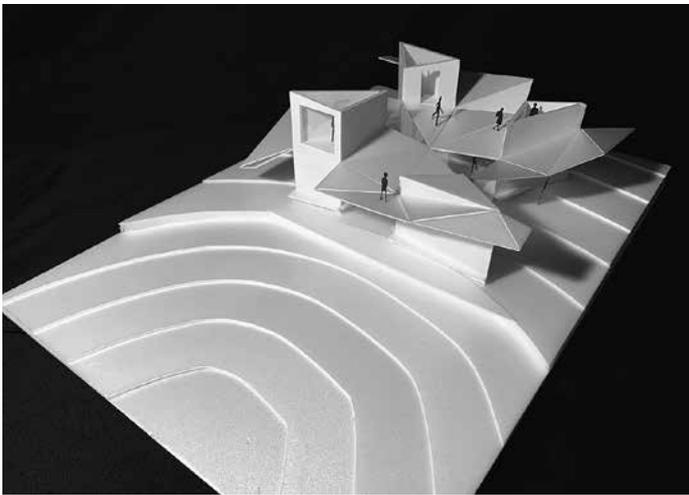
例年マイスペースの課題は、自分の建築を具体的な敷地を与えられて設計する初めての機会です。この勇気と困難な心もちの彼、彼女らの中に初めて建築青春が芽吹く瞬間を見逃さないた

めの大切なセッションであると考えています。

多くの生徒が悩むように、山田くんはエスキースから、課題の自分への動機付けについて悩んでいました。本来この課題の「マイスペース」は自分の認識できる単位スペースを建築的に表現することを目的としています。山田くんの場合、自分自身の「マイ」よりもこの場所が多くの人に役立つ「others」の場所であることに重きを置いていました。この彼自身の人に対するホスピタリティーが、課題のテーマやフォルムに表現された作品となり、その形態の表現方法に、彼の建築への芽生えを感じます。

ここに訪れる人たちの寄り添いの場

所としての「第二の地面」は4本の三角のコアで支えられ、グランドラインの雨宿りの場として利用されます。三角のポリゴン状の形態は、人工地盤をより立体的な表現とし敷地の修景に馴染ませる努力がなされており、フォルムとしての美しさとともに、現代建築のトレンドとなる3Dフォルムの建築表現へとつながる強い意識を感じます。この作品表現が一過性のアイデアでいことが、図面表現からもその緻密な作業内容に何うことができます。1つひとつの制作プロセスを地道に積み上げながら、最終的に説得力のある形態へと導きだした忍耐力も、彼自身の建築を創る上での重要な資質を感じた秀逸な作品となっています。(鶴田伸介)



# 2年生（前期：デザイン演習Ⅰ、後期：デザイン演習Ⅱ）

【担当】 佐藤 信治  
小林 直明  
菅原 遼  
安藤 亮  
内海 智行  
小野 和幸  
勝又 洋  
神野 郁也  
高野 洋平  
新田 知生  
間田 真矢  
水野 吉樹

## デザイン演習Ⅰ（前期）

### 第2課題

「環境と住空間を考える」  
親水公園沿いに建つ住宅」  
（出題：安藤 亮、勝又 洋）

#### 【課題趣旨】

社会的な背景を踏まえて現代の家族像や生活スタイルを考慮しつつ、周辺環境や景観を配慮した住宅の設計を行います。住まい手の個性を最大限に活かす住空間をイメージし、これからの『住まい方』の提案を求める課題です。敷地は江東区門前仲町付近、都心に近く生活の利便性が高い、いわゆる江戸の下町の風情を残した地域です。

今回の敷地は古石場川親水公園に面してあります。それぞれ一方方向で接道し、運河跡をなぞる親水公園の散歩道や広場とは視覚的なつながりを持っています。公園と敷地は約1.2~2.5mのレベル差があります。

#### 【学習目標】

- ・現代の家族のありかたや生活スタイルを考える。
- ・住宅空間のスケール感、単位空間や基本寸法を習得する。
- ・エスキースからプレゼンテーションまで、設計プロセスを学ぶ。
- ・住宅としての機能を満足するだけでなく、空間的魅力を考察する。
- ・製図記号等の図面表記のルールを理解し、建築図面の作図および表現の方法を習得する。

#### 【敷地条件】

- (1) 東京都江東区牡丹3丁目24-6周辺
- (2) 準工業地域
- (3) 建ぺい率60%、容積率300%
- (4) 最高高さ制限10m以下
- (5) 第3種高度地区、準防火地域、下町水網地域
- (6) 構造は自由。地盤は良好

#### 【設計条件】

- (1) 生活スタイルは各自自由に設定。

- (2) 家族構成は夫婦+子2人の4人以上の家族を想定。2世帯も可。
- (3) 駐車スペースは1台以上設置する。
- (4) 家族それぞれの寝室（個室）、および居間、食堂、台所のほか、収納等生活に必要な諸室を計画する。
- (5) 各室への動線をよく考えて計画する。とくに家事動線に配慮する。
- (6) 各屋の大きさは適宜設定を行う。
- (7) 家族の距離感や関係を配慮する。
- (8) 内部と外部の関係や、親水公園や近隣住民との関係を十分考慮する。
- (9) 各敷地にはそれぞれ特徴があり、その敷地を活かした計画を行う。
- (10) 延床面積120㎡~150㎡程度。階数制限なし、最高高さの制限を守る。

## デザイン演習Ⅱ（後期）

### 第1課題

「街のアートミュージアム」  
（出題：小野和幸）

#### 【課題趣旨】

東京・門前仲町エリアの、都心のオープンスペースである都市公園に隣接した計画地において、街のアートミュージアムを計画するものである。課題タイトルに「街の」とつけているのは、街の顔となり、地域とつながりを持つ建築の提案を求めるためである。敷地の特性を読み取り、どのような展示コンテンツと建築がこの場所にふさわしいか、さらにはアートとは何か、イメージを膨らませてほしい。これからの東京において唯一無二な体験ができるアートミュージアムを提案してほしい。

#### 【計画敷地および周辺条件】

- 計画地面積：2,451.91㎡
- (1) 敷地形状、接道条件、周辺状況等は添付資料敷地図を参照。
  - (2) 現況は地盤の起伏が3mほどある。設計においては更地として計画。
  - (3) 敷地内の切土・盛土は可能。

- (4) 用途地域：準工業地域、建ぺい率60%、容積率300%、準防火地域。
- (5) 電気・ガス・上下水道完備、地盤良好。

#### 【計画建物設計条件】

- ・延床面積：約1,000㎡する。
- ・構造形式は自由。地上2階建て程度、必要によって地階も可とする。
- ・隣接する公園との関係性を活かした外構計画をすること。
- ・つながりを高めるための擁壁の形状変更や、敷地内へ公共空間を引き込むことは可。ただし、敷地内のアプローチ動線、用途との関連、地盤の高低差、セキュリティラインに配慮。
- ・車いす来客用兼作品搬出入用として、駐車場1台分を設けること。
- ・一般来客用駐車場は設けなくてよい。計画する場合は適宜とする。
- ・1台当たり必要面積は設計資料集成などを参照のこと。
- ・駐輪場を10台以上設ける。必要面積は設計資料集成等を参照のこと。
- ・広場、テラス、中庭、水盤、東屋、屋上庭園等、適宜自由に設けてよい。

### 第2課題

「親水公園と美術館に隣接する都市型集合住宅」  
（出題：水野吉樹）

#### 【課題趣旨】

本課題は、古石場川親水公園沿いの敷地に集合住宅を、隣接する公園および美術館との関係性を配慮して計画するものである。

敷地北側に隣接する古石場川親水公園には、牡丹町公園とともにすでにアクティブな親水公園の公共空間が形成されている。下町情緒ある都心の住宅エリアにおいて、そこで暮らす人々が快適に過ごせる魅力的な都市型の集合住宅の提案を求める。

#### 【計画敷地および周辺条件】

- 計画地面積：1,482㎡
- (1) 敷地は、添付資料敷地図参照のこと。

- (2) 敷地条件は準工業地域（建ぺい率60%・容積率300%）。防火地域。
- (3) 電気・ガス・上下水道などは整備されている。地盤は良好である。
- (4) 現在、区立児童館・福祉会館が建っているが、更地として計画する。

#### 【計画建物設計条件】

- (1) 鉄筋コンクリート造、地上3階建て以上5階建て程度の中層集合住宅。
  - (2) 総戸数は20戸以上、1戸の床面積は50㎡~75㎡程度、入居者設定によって床面積と間取りの提案は可。
  - (3) 住戸形式はフラットタイプのほか、メゾネットタイプ、トリプレットタイプ等、立体的な住戸形式としてもよい。
  - (4) 住空間の魅力をも高める地域開放施設を設け、入居者同士の交流や広く地域に開放できる利用方を提案。
  - (5) 共用エントランスには、メールコーナーを設ける。
  - (6) 共用部として、管理員室・ゴミ保管庫・ポンプ室などを設ける。
  - (7) 設備として、空調調和設備、エレベーターを必ず設置する。
  - (8) 延床面積を算定すること。外気に有効に開放され、屋内的用途に供しないピロティ・バルコニー・吹きさらしの共用廊下・屋外階段などは延床面積に算入しなくてよい。
- ・屋外施設
  - (1) 駐車場は平面駐車とし、来客用兼搬入用1台分を必ず設ける。その他台数は適宜とする。
  - (2) 駐輪場を20台分以上設ける。
  - (3) 親水公園との関係性を活かした外構計画をすること。つながりを高めるための擁壁形状の変更や、敷地内へ公共空間を引き込むことは可とする。敷地内のアクセス動線、用途との関連性、地盤高低差、セキュリティラインに配慮すること。
  - (4) 広場、テラス、中庭、水盤、東屋、屋上庭園などは、適宜自由に設けてよい。

「環境と住空間を考える」  
親水公園沿いに建つ住宅

澤田実和

■コンセプト

住宅を設計するにあたり「家族と過ごす時間を大切に」をテーマに内部空間を考えた。家族と過ごす時間について考え思い浮かんだのは、家に帰ってきてすぐに自分の部屋に入ると家族と会うことが少なくなってしまうということ。そこで、そうした機会を少なくするために部屋を区切る壁をなくし、そのかわりに、ステップを設けることで部屋を分けた。ステップによって

きた下の空間も利用して駐車場を設置した。また、今回の課題は親水公園沿いに建つ住宅なので、ステップの終着点を親水公園に向けて開くテラスのあるリビングとした。リビングのガラスは全開口サッシになっているため、公園に向けて開け放つことができる。玄関は親水公園からの視線を遮るようになっている。住宅の周りには植栽を植えることによって隣の家からの視線を遮っている。天井には南からの太陽の光が入るように中心がガラスになっている。住宅全体は吹き抜けになっており、開放的な空間を演出するようにした。

求心性を持つ配置を提案し、家族のふるまいと空間の関係を、間仕切りにより区分するのではなく、らせん状の立体的な断面構成による距離感に置換している。場を規定するのではなく、暮らしの過ごし方に適した居場所を住み手が自ら選択していく緩やかさを持つ。

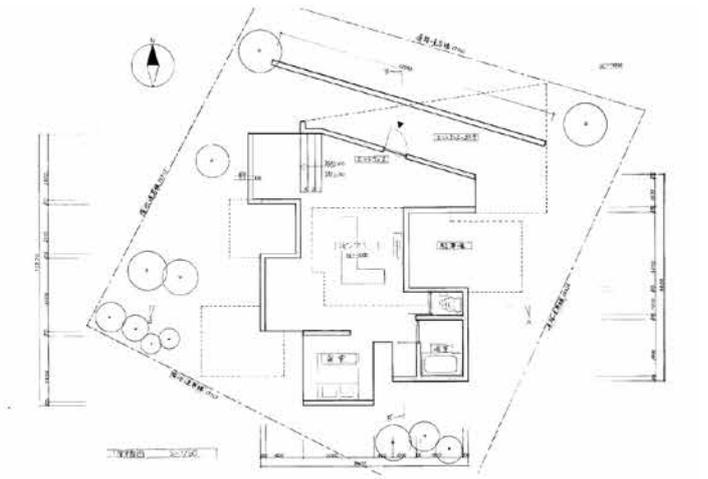
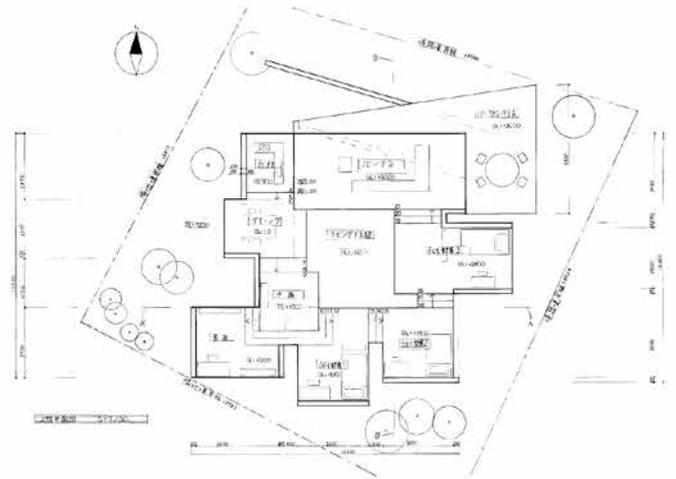
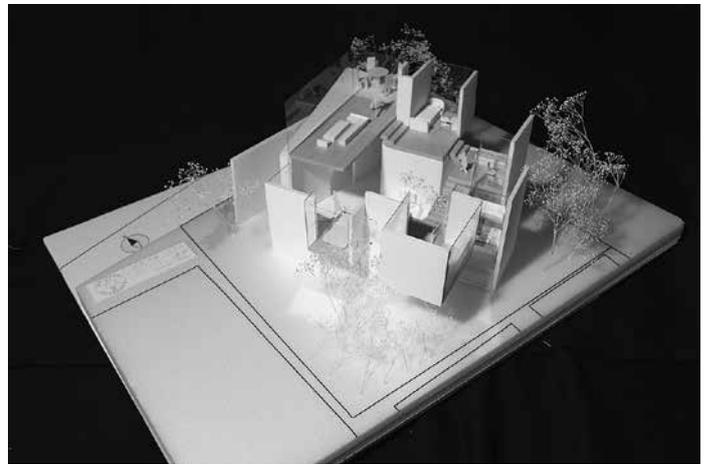
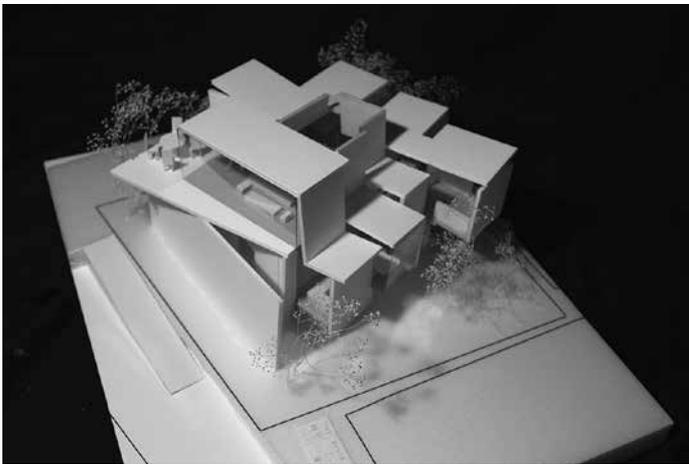
螺旋という自己の仮説を俯瞰的に見ながらも、ズレにより生じる間合いには、庭の風景を描く情緒的なデザインが垣間見える。空間構成の原則の単純化と、複雑系都市の最適化を目指す建築の在り方の呼応を、反復しながら思考している。湧き上がる素直な発想から、アンバランスさを持ちながらも総体として結実した秀逸な提案である。

(小野和幸)

■講評

これからの家族像と暮らしを考えることは、住み手の関係性と距離感を、身体感覚を持ってデザインすることにある。そこには空間を共有し、かつ区分する対比的なテーマが介在する。

澤田案は、分棟形式でありながらも



デザイン演習 I 第2課題  
**「環境と住空間を考える」  
 親水公園沿いに建つ住宅**

神林慶彦

■コンセプト

外と内、庭と家の関係を考える上で“自然”がキーワードになると考えた。親水公園が目の前にあり緑を多く配することで柔らかい雰囲気を外につくり出すことができるのではないかと。ならばより際立たせるためにも建物との対比を表そう。そうした考えから曲線を使わず打ちはなしのコンクリートを用いることで家には固い印象をもたせた。内と内、内部の空間のつくり方に

おいてつながりを感じるため、私は“壁”を取り除くことにした。各部屋、スペースを視覚的にも境界がないように配することで、より家族同士近い距離感で過ごしてもらいたいことを願う。部屋ごとに区切りとして階高に変化をもたせることで、家内部の空間の変化を生み出している。これが各部屋に、家にとどのような印象を与えるのか注目したい。

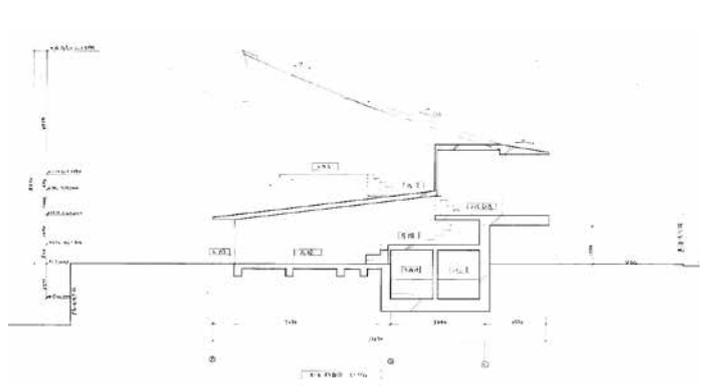
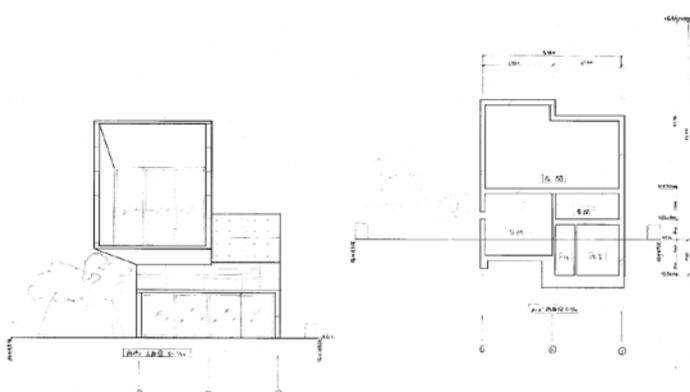
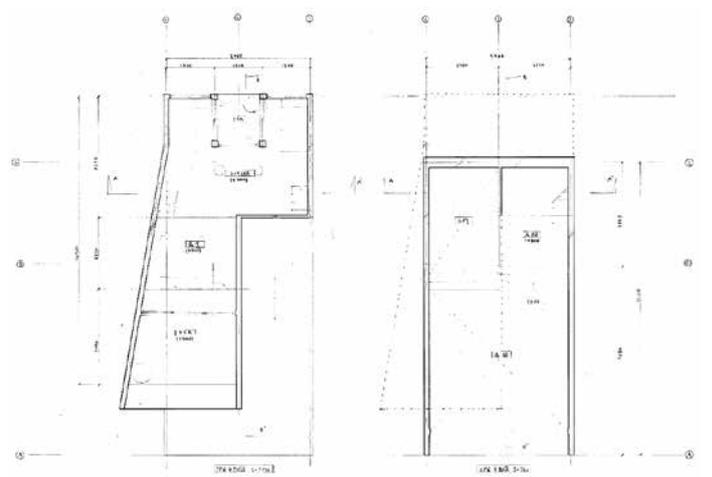
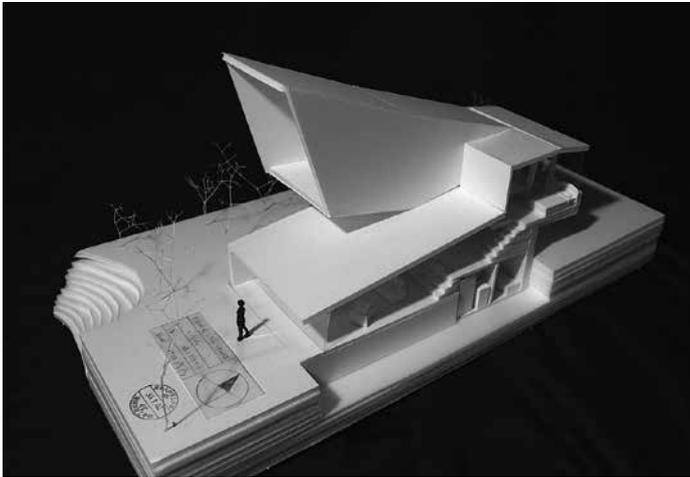
■講評

「向こう三軒両隣」という言葉を聞かなくなって久しい。閉塞する現代社会において住宅を設計するというこ

は、快適な住空間を提案するだけではなく、周辺環境をいかに読み解き、地域と住民との関係性をどのように築き上げるかが重要なポイントとなる。それは設計者に与えられた最低限の社会的責任であることを自覚してもらいたい。本人が意識的だったのか無意識だったのかはさておき、“つながり”をテーマに内と外の関係性について熟考を重ね、これを力強い建築として表現した作品として「神林案」を高く評価したい。

敷地の半分を地域に解放し、公園を挟んで対面にある緑道と連続する庭を設け、人や風の抜け道を計画した案は他になく、住宅の範囲をあえて狭めることで独自性を追求している。内部空間

間は間仕切りのない空間を立体的に連続させていくことで、個々のプライバシーを保ちながら緩やかに家族のつながりを感じることができる構成とし、空間のボリュームをそのまま建物の姿として明快に表現しており、印象的な外観デザインとなっている。その佇まいは個性的ではあるものの、街の風景を破壊するような虚栄心を感じさせることなく、周辺環境に馴染んでいるようにすら感じられる。固い印象の建物と有機的な通り庭を対比させているが、その境界で住人の生活と地域の人々がどのように関わりあうのか、外構のデザインを含めて丁寧に描くことができれば、より魅力的な作品に仕上がっていたに違いない。(勝又 洋)



「環境と住空間を考える」  
親水公園沿いに建つ住宅

福田晃平

■コンセプト

私は今回の敷地となった親水公園沿いの土地にあまり魅力を感じなかった。

水には気持ちを癒してくれる力があると私は思う。しかし、今回の親水公園はとてもシンプルなデザインで、用水路のようにしか私には見えなかった。また、住宅も密集しており広々とした空間には感じなかった。

そのため、今回、私は敷地の半分を庭にして自分が癒される、そして、和

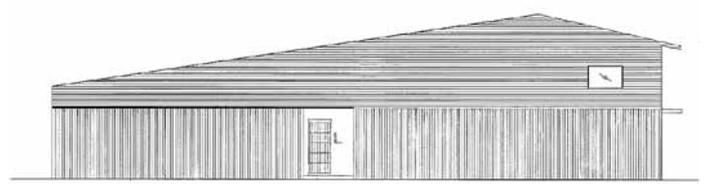
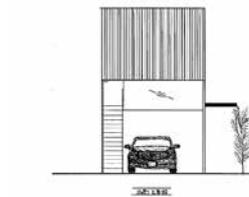
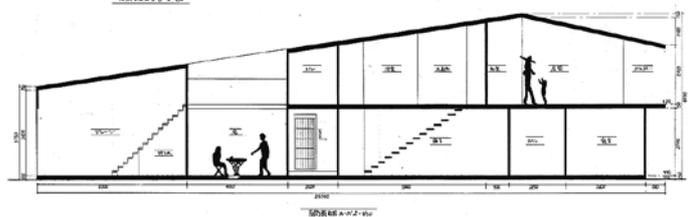
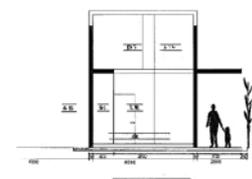
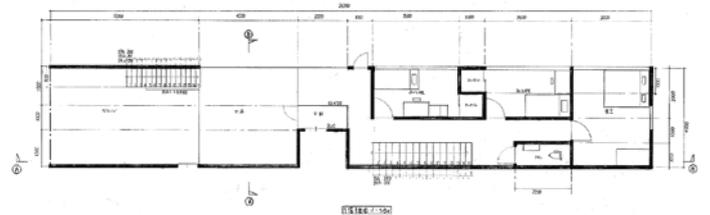
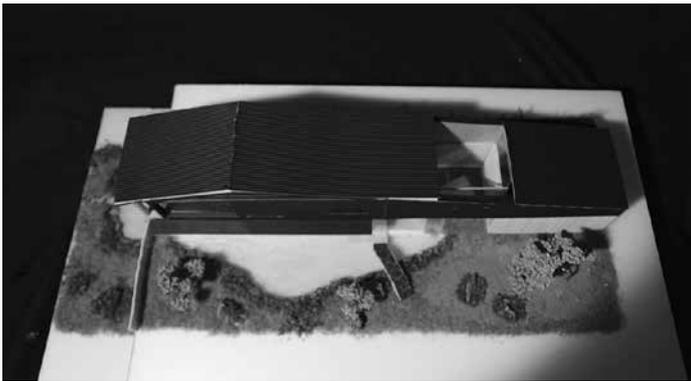
の心地の良い雰囲気味わえる空間を創った。

■講評

江東区門前仲町付近、江戸の下町の風情を残した古くからある街区の中で、古石場川親水公園に高低差を持って面する3つの敷地が与えられ、その1つを選択し住宅を設計するという課題で

ある。「用水路にしか見えなかった」と本人が言うように、魅力を感じることができなかった親水公園の環境に頼らず、自らの敷地内に魅力的な水辺空間をつくらうと試みたところから福田君の設計はスタートしている。彼は大胆にも敷地の半分を庭とし、和のテイストを持った癒しの庭園をつくり出した。そして、この庭園の池から水を建物内外に展開させることで、その場所ごとに異なる印象の空間をつくり出し、住人と水との豊かな関係性を生み出すことに成功している。軒の深い庇に覆われたアプローチ空間では、足元でスリット状に流れる水は静謐さを醸し出している。玄関のドアを開けると一転して眼前に広がる水景は、吹抜けとの

相乗効果で圧倒的な解放感を感じさせるであろう。また、水を引き込んだ中庭を介して建物内の部屋と部屋、つまりここに住む家族同士の関係性も積極的につくり出そうとしている。特筆すべきは、この水をキッカケとした環境づくりを敷地内に留まることなく、公園の環境づくりにまで広げたことである。公園とのレベル差を利用した小さな滝をつくり、水の循環をつくり出すことで、通りがかる人の感覚を刺激する水音や飛沫などのダイナミックな要素を公園にもたらした。当初は魅力を感じなかった公園に自らが魅力とを感じる水の様相を加え、それを地域の人たちにも享受してもらおうという意欲的な提案となっている。(間田真矢)



また、庇を重ね合わせ隙間を生み出すことで、内部への採光を設けている。

を周辺敷地と一体化しシームレスにたく大胆なランドスケープデザインにまとめ上げた。

ピラミッド型の四角錐の頂点を中心からずらすことで、4面の屋根の傾斜角度も変化し、建築が接する児童公園や親水公園などへの関わり方に応じて表情を変えている。スロープで地下レベルへ導かれる搬入動線はそのさりげなさが絶妙だ。

### 中村正基

「大地の美術館」

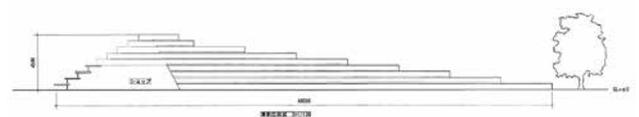
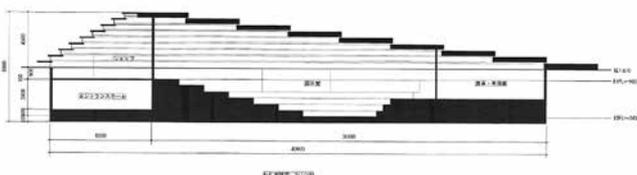
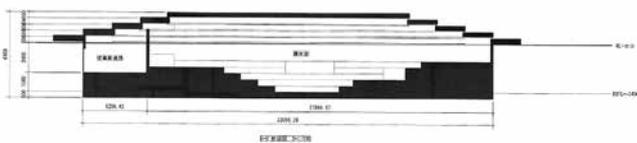
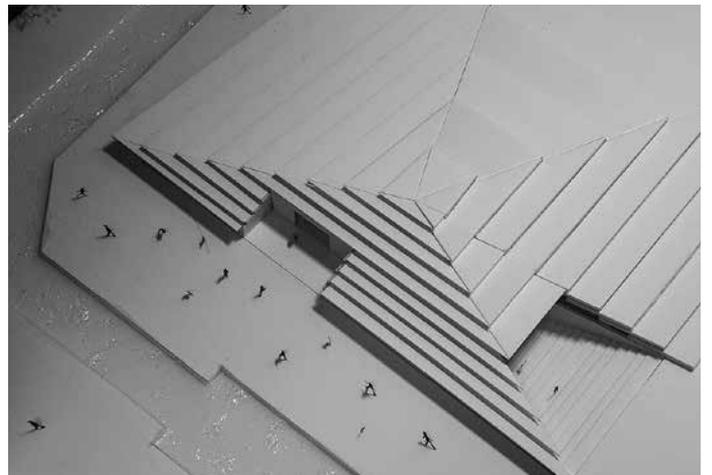
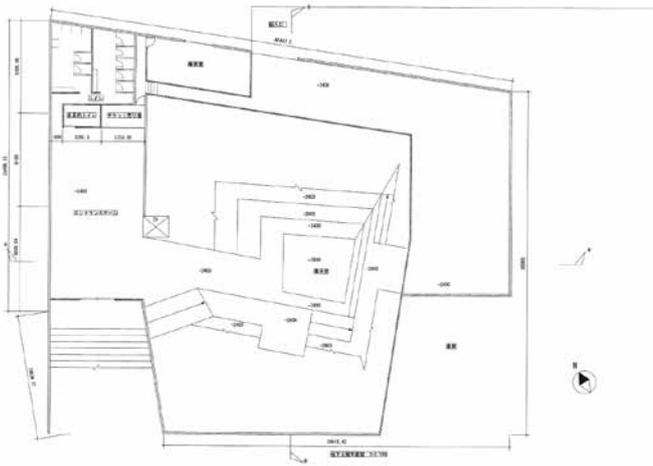
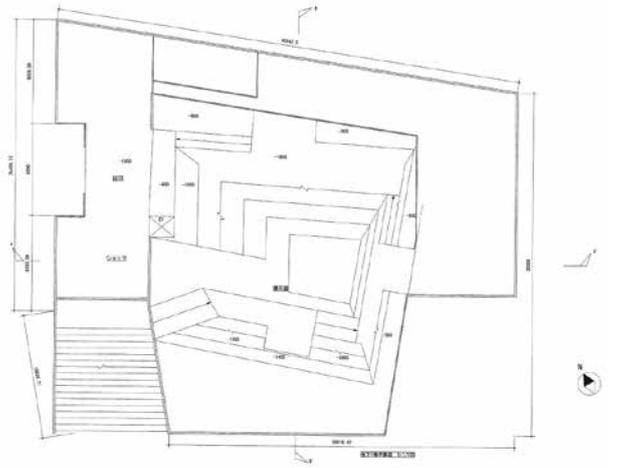
#### ■コンセプト

従来の地形に代わる新しいランドスケープを創造し、子どもの遊び場をつくることを本設計のコンセプトとした。展示プログラムとして、イサム・ノグチの彫刻作品を展示し、加えて、屋外空間に子どもたちが遊ぶことができる作品も展示する。この美術館は、展示室自体に段差を設けることでさまざまな角度から作品を観ることができる。

#### ■講評

計画敷地内の児童公園で遊ぶ子どもたちの居場所を、新しく建つ美術館が奪ってしまうのではなく、むしろその活動領域を拡げてあげたいと考えた中村君は、建築の屋根のすべてを起伏のある屋上庭園とするアイデアで、建築

大地の起伏を造形に生かすコンセプトは外観デザインにとどまらず、そのまま建築の内部にも入り込んで、連続するさまざまなレベル差が空間に振幅や律動を与え、4種類の勾配の異なる傾斜天井と呼応して、豊かな内部空間を演出している。(水野吉樹)



デザイン演習Ⅱ 第1課題  
街のアートミュージアム

鈴木亜実

「浮き世の美術館 一街と共に生きる」

■コンセプト

毎日子どもたちの遊び場となっている山の滑り台。いままで利用されてきた山の外部空間から内部空間へと移動し、従来から存在する公園の面影と一体化することを目指した。設計に際しては、敷地である牡丹町には牡丹が数多く生息していることから、花をイメージし、建築に対して変化を加えていった。建築の中央には円錐台を設け、

エオタリー兼展示室の役割を担わせることで、鑑賞者が自由に通路を選択できるようにした。

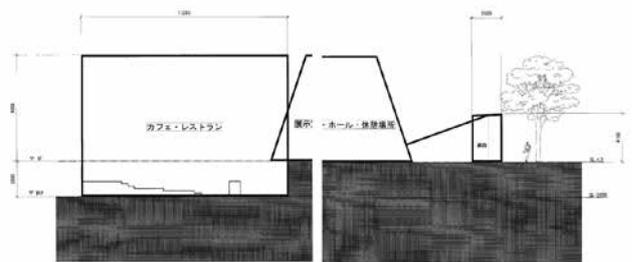
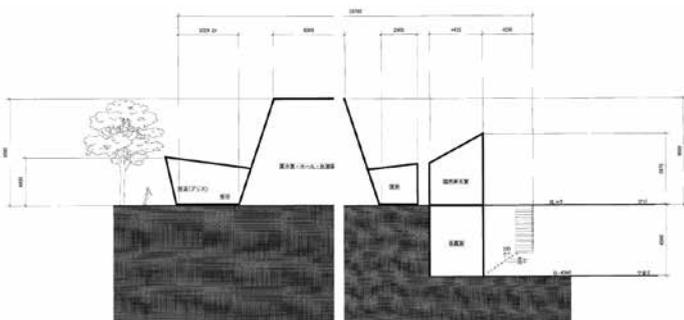
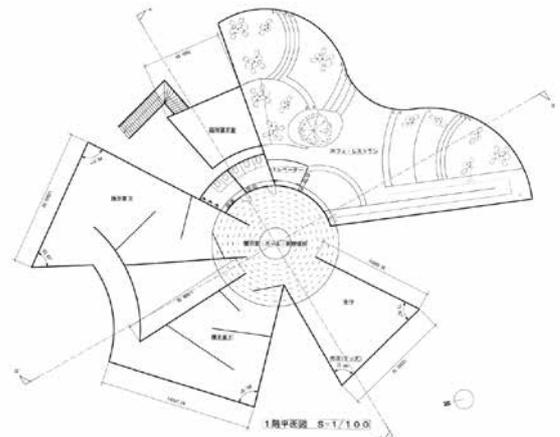
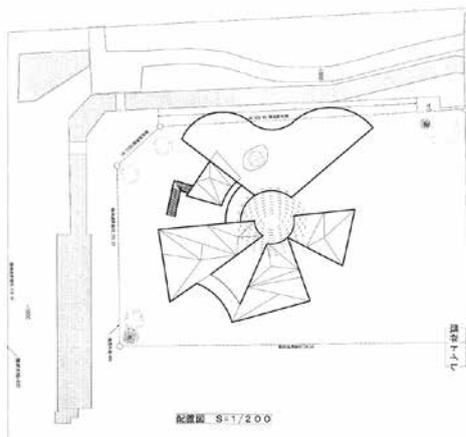
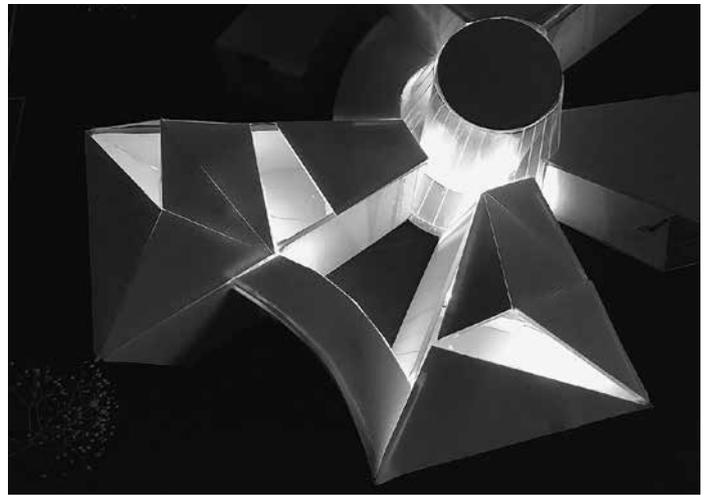
展示コンセプトとして、門前仲町には江戸の名残が多く残っていることに着目し、江戸時代に生まれた「浮世絵・江戸着物」、江戸時代に初めて制作された「ドライフラワー」の3点をアートとして認識してもらうようにした。

ートの在り方、さらには美術館から考える新しい公共性について問う課題でもある。

鈴木案は、優美な展示テーマの設定に対して、具象的な造形イメージに基づいた大らかな建築の構成を提案しており、さらに細分化しながらシークエンスを発想していくプロセスである。放射状の空間形式には、中央からの探索と選択としての機能的な構成を持つことから、美術館として知の集積となるアーカイブ性を持つことにもつながっている。おのおのの展示テーマの設定にやや連続性に欠ける印象であるが、周辺環境へのコンテクスチャリズムを超えて全体を統合していく、提案に対する強い想いを感じる。 (小野和幸)

■講評

近年の美術館は、日常的な親しみやすさと非日常としてのアート空間を横断的に体験できることに魅力がある。この設計課題は、都市環境におけるア



A-A' 断面図 ② 1/100

B-B' 断面図 ② 1/100

デザイン演習Ⅱ 第2課題  
**親水公園と美術館に隣接  
 する都市型集合住宅**

佐俣夏子

「外を取り入れた集合住宅」

■コンセプト

本計画地は幼稚園や児童館が近接しているため、子どものいる家族が暮らすことを想定して設計を行った。提案した集合住宅では、ここで暮らす家族の「関わり」を重視し、共用部を囲むように部屋を配置した。また、敷地が親水公園に隣接しているため、共用部のかたちを河川のような滑らかなに曲線を描くように設計し、1階の共用部

から流れるように親水公園へとアクセスできるようにした。

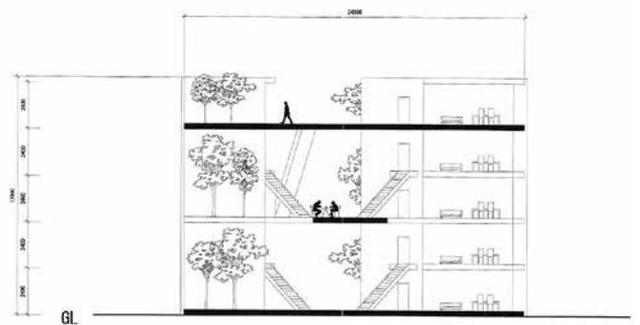
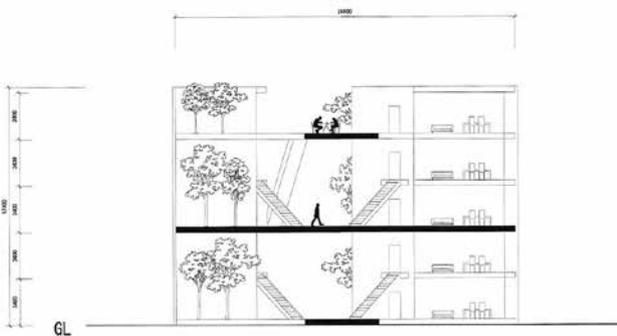
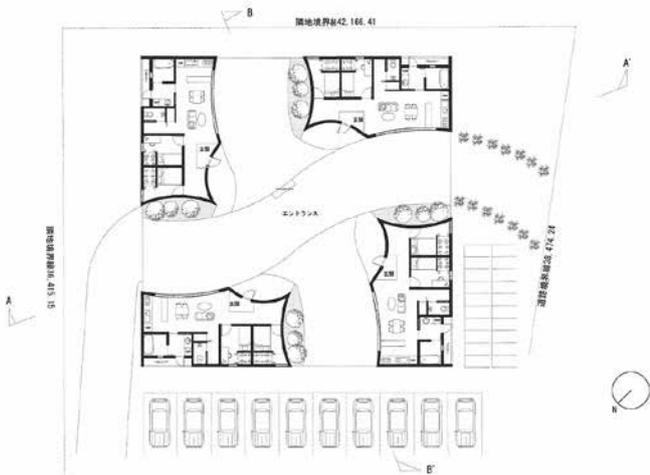
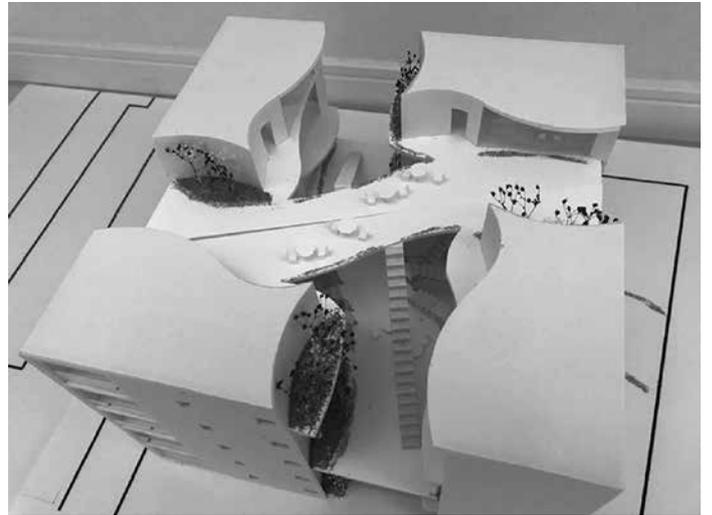
住戸タイプはフラットタイプを採用しており、1、3、5階に共用部を設け、2、4階からは階段を通じて共用部にアクセスできるようにした。また、各住戸のリビングは、共用部を囲むように配置し、リビングから中庭の緑を眺めることができ、外部環境を感じることができる空間設計とし、加えて、住戸配置を工夫することで、各リビングからは各住戸との視線が合わないようし、プライバシー性を確保するようにした。

築的に扱われる機能上の共用部とは明確に異なる。作者の言うところの「川のように滑らかな曲線」という共用空間の形態的な比喩も、二軸対象と階層の交差によって幾何的にパターン化されている。つまりこの案の魅力は、長屋的な共用路地を立体化し、明快な単純な立方体に収めることで、ある種のプロトタイプを感じさせるところにある。こうした概念は1つの敷地に1つの建物という原則や機能的な合理性を超えて、未来の都市環境への応用を予感させる。住宅という前世紀の形式に囚われながら不可能性を議論するのはなく、こうした柔軟な発想が次世代の手法を生み出していく可能性に期待したい。

(小野和幸)

■講評

建築計画は場所性に拘束されるが「外を取り入れる」という普遍性のある考え方の中で、方位性がないこの案は一見すると違和感がある。佐俣さんの案における外とは、各住戸による「外部の占有」ではなく、むしろ共用部の内部化であるが、それは従来、建



親水公園と美術館に隣接する都市型集合住宅

天谷 光

「The House in the house」

■コンセプト

本計画地は、地域の商店街近くに立地し、目の前には美術館が建設されており、終日人通りが多い環境であることが予想された。そのため、「プライバシー性を確保する」という点を重視しつつ、かつ、「開放的な空間をつくる」ことを意識し、各住戸を三層のトリプレットタイプとし、住戸内に吹き抜けによる中庭を配置した。

本提案の住民のターゲットとしては、主に恋人や夫婦などの2人世帯や子どもがいる4~5人世帯を想定しており、6人のルームシェア用の住戸も加えた3つの住戸タイプの規模を設計した。

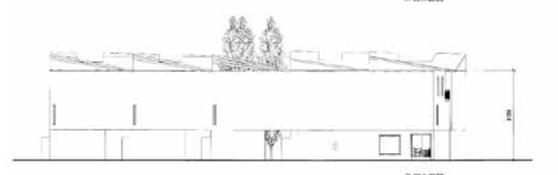
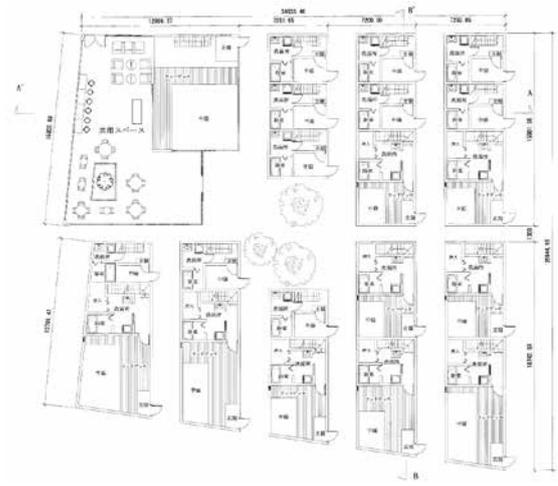
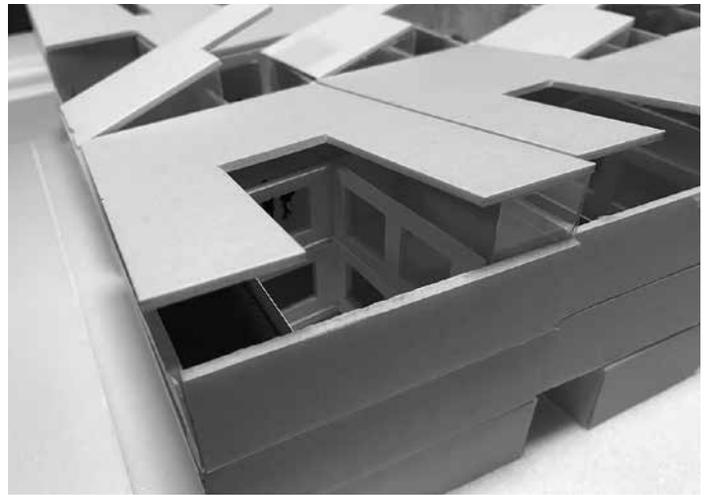
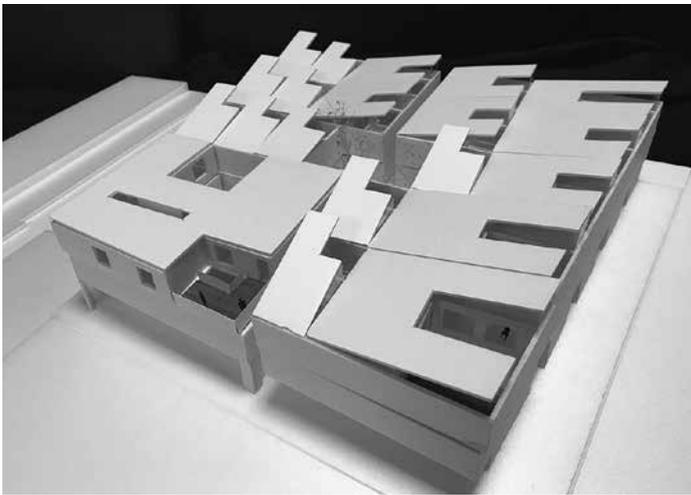
河川側に面した住戸の1階部分には、共用スペースを設け、河川や美術館、公園を訪れる人びとを眺めながらくつろぐことができるよう設計した。

多様なライフスタイルに応え得る集合住宅として、居住者の単位を1人から4、5人のファミリーまで幅広く想定した。それぞれが専有の中庭を持つ、広さの異なる住戸タイプとシェアハウスの組み合わせとなっていて、そのすべてがトリプレットで解かれているところがユニークだ。

天谷さんは、自ら課した難問に挑戦し、見事に複雑なパズルを完成させて、すべてのフロアに光がふりそそぎ風の吹き抜ける、極めてリアリティのある魅力的な都市の住まいを実現した。動線計画にも破綻がない。さまざまなタイプの住戸プランの1つひとつにもアイデアが満載で、この集合住宅の中で住み替えも楽しそうだ。(水野吉樹)

■講評

不特定多数の人が集まる美術館や児童公園、密集する商店や住宅。そんな周辺環境の中であって、プライバシーを確保しながら、吹き抜ける風とふりそそぐ光の心地よさを享受できる都市型集合住宅とはどうあるべきかとの問いに、真摯に取り組んだ作品である。



# 3年生（前期：デザイン演習Ⅲ、後期：建築メディアデザイン）

## デザイン演習Ⅲ（前期）

### 第1課題

#### 「横浜新山下 海の駅計画」

（出題：内海智行）

#### 【課題意図】

海の駅とは、国土交通省により登録された、「海から、誰でも、いつでも、気軽に、安心して立ち寄り、利用でき、憩える」船舶係留施設である。離島振興策からスタートして、当初は大型のヨット、モーターボート等の利用環境整備や情報のネットワーク化・提供を目的に設置が推進された。誰でも利用できる船舶係留施設、施設の予約受付案内担当者の配置、公衆便所の設置の3点が必要最低登録要件となっている。この様な行政的解釈から「海の駅」とは、休憩施設と地域振興施設が一体となった施設であり、単体としての機能に加えて海の駅ネットワークの構築が図られるものと考えられる。加えて以下の3つの機能が浮かび上がってくる。

- (1) 休憩機能 海路利用者の誰もが24時間自由に利用できる休憩施設の提供
- (2) 情報発信機能 来館者に対してその地域の文化・名所・特産物などを活用したサービスの提供
- (3) 地域連携機能 それぞれの地域（町）の核となり、海路を介した地域（町同士）連携の促進

課題である「海の駅」は、この新山下の突端で内水面の地形と眺望を生かしながら、将来の周辺開発を見据えた海上からの交通拠点としての機能を拡充する。設定敷地エリアは陸上で約11,000平米。内水面を挟んだ両岸を再開発し、新たな都市の結節点として、賑わいを演出することのできる施設計画を求めらるものである。

#### 【設計条件】

- (1) 敷地条件 敷地形状、接道条件、周辺状況は、

別添図面を参照。電気・ガス・上下水道は整備されている。地盤は軟弱であり、杭基礎とするが、耐圧盤下の表現は不要。敷地設定範囲外への提案については、各班ごとの指導による。

#### (2) 建築条件

構造形式は自由。下記程度の規模であれば、建ぺい率・容積率の考慮は不要。基本的に隣地および道路境界より1m以上セットバックさせる。

#### (3) 計画諸元

- ① 建築諸室：延べ面積 約2,000㎡（各室面積の±10%を許容範囲とする）  
・客用部門（計1,450㎡）：玄関ロビー（200㎡）、休憩ラウンジ（100㎡）、レストラン・カフェ（300㎡）、物産販売店舗（400㎡）、展示スペース（250㎡）、来館者用化粧室（80㎡）、廊下・階段・客用EV（120㎡）  
・管理部門（計550㎡）：事務室（170㎡）、会議室・応接室（50㎡）、宿直室（15㎡）、給湯室・従業員トイレ（15㎡）、管理エントランス・廊下・階段・人貨用EV（100㎡）、倉庫（100㎡）
- ② 屋外施設：アプローチ、広場、散策路、植栽などを建築と一体のランドスケープとしてデザイン。来館者用駐車場は島の駐車場を利用することとし、専用駐車場として大型専用5台、身障者用5台、サービス用10台程度の駐車スペース確保。

#### 【提出物】

- (1) 表紙：作品タイトル、設計趣旨（テキスト・ダイアグラム、パース、スケッチ、模型写真等で明快かつ視覚的に表現）
- (2) 配置図（縮尺1/500）：建築物は屋根伏とし、外構計画を表現
- (3) 平面図（縮尺1/200）：各階平面、室名は凡例をつけて略号も可。1階平面図には周辺の外構も記載
- (4) 立面図（縮尺1/200）：4面すべて、影や素材等を表現
- (5) 断面図（縮尺1/200、1/300）：2面

以上、水域と建物との関係がわかること（南北、東西）

- (6) 模型（縮尺1/200）：模型提出のほか、模型写真2カット以上を表紙にレイアウト
- (7) 内観パース：手描きでもCGでも表現方法は自由。1カット以上

### 第2課題

#### 「水族館」

（課題担当：神野郁也、筒井紀博）

#### 【課題趣旨】

海の駅に引き続き、新山下埠頭の敷地内に水族館を計画します。山下埠頭は、横浜市によるIR（Integrated Resort：統合型リゾート）計画の下、世界が注目し、横浜が目的地となりえるハーバーリゾートの形成を目指しています。横浜を代表するこの地域にふさわしいコンセプトを立案し、都市型である敷地の特徴を捉えた、魅力的な水族館の設計提案を求めます。

また、周辺施設である第1課題の「海の駅」からの導入や、後期の課題で予定している「都市型ホテル」との連続性に配慮し、一体的なランドスケープを描いた上で、来客機能、飼育・研究機能、設備機能、管理機能のソフトとハードの関係性を考慮した総合的な計画を求めています。

#### 【設計のポイント】

- (1) 敷地条件の把握 立地、敷地の大きさ、施設規模、既存動線の位置を把握し、計画概要を捉える。
- (2) 基本的な構成の把握 来館者スペースと管理スペースの関係性を捉える。
- (3) 水族館機能の検討 教育、研究、展示、アミューズメント機能の各ボリューム、動線を検討する。
- (4) コンセプトの立案 課題の趣旨に応じた明快なコンセプトを上げる。
- (5) コンセプトの表現 コンセプトを具現化した水際空間の設計、屋外

を含む造形を行う。

- (6) プレゼンテーション 上記各段階で何を考え選択したか、過程と結果を表現する。

#### 【計画諸元】

- (1) 敷地面積：約12,880㎡
- (2) 延床面積：5,000㎡～6,000㎡程度
- ① 来館者部門：約3,000㎡（エントランスゲート、観覧室、展示水槽、レクチャールーム、レストラン・カフェ、ミュージアムショップ、休憩コーナー、化粧室、退館ゲート）
- ② 管理部門：約2,500㎡（作業室、飼育室・研究室、事務室、会議室、館長室、宿直室、シャワー室、給湯室、更衣室・従業員用化粧室、管理用エントランス・廊下、荷解きスペース、設備機械室）
- ③ 屋外部門：（アプローチ、来館者駐車場、サービス駐車場）

#### 【提出物】

- (1) 図面 表紙 配置図：縮尺1/500 各階平面図：縮尺1/200 立面図（2面以上）：縮尺1/200 断面図（2面以上）：縮尺1/200
- (2) 模型および写真 ① 模型 縮尺1/300 ② 写真 キャビネ判4点程度とする。
- (3) 図面提出仕様 A1判横使い、左綴じ。コンセプトおよびダイアグラム、面積表並びに写真を貼ったものを表紙とし、レイアウト、着色は自由。図面表現はCADを基本とし他の表現との併用も可とする。

## 建築メディアデザイン（後期）

### 第1課題

「都市型リゾート機能を有したホテル」

【担当】 佐藤 信治  
小林 直明  
内海 智行  
桔川 卓也  
高野 洋平  
新田 知生  
光井 純  
山田 晶子

（出題：小林直明）

【課題趣旨】

計画地は前期課題と同様の新山下埠頭です。

観光の旅行者に留まらずビジネス等にも利用され、都心に居住すると共に余暇の過ごし方・ライフスタイルに対するこだわりがある人も週末などに利用する短期滞在型ホテルの利用も考慮に入れます。一方、周辺地域の住民は、子ども連れの家族、高齢者も多く2世代にわたって居住していると思われることから、サービスの多様性が求められると思われます。現在のマリンスポーツ施設を超える付加価値と、リラクゼーション&ホスピタリティを感じさせ、周辺環境に呼応しかつ、海の駅や水族館との相乗効果を図った魅力的なホテルの設計提案を求めます。

【設計条件】

- (1) 計画地 敷地面積：約24,170㎡
- (2) 計画内容
  - ・延床面積：21,000㎡程度、建物の高さは、31m内とするが、さらなる高層、一部客室コテージタイプ（平屋・メゾネット）も可
  - ・一部海側に張り出した施設計画、または敷地内に海水を入り込ませたラグーン形成も可
  - ・構造形式は自由。木耐火構造集成材または木とS造・RC造とのハイブリット構造等も可
- (3) 計画諸元
  - \*各部門、各室面積は参考例とし、適度な設定を行うことは可
  - \*駐車場50台、サービス用5台（屋外及び屋内・地下階の複合も可）駐車場：50台。サービス用5台（屋外および屋内・地下階の複合も可）
- ①宿泊エリア：8,500㎡  
ツイン・ダブルルーム100室程度（40～45㎡）、スイートルーム（コテージ可）10室（120～150㎡）、通路、階段等

- ②パブリックエリア：8,300㎡  
ロビー・共用スペース、レストラン、ショップ、宴会場・会議場（室）、ジム・スパ
- ③管理エリア：4,200㎡  
裏方サービス諸室、機械室、廊下他

【提出物】

- (1) 図面  
配置図：縮尺1/400、各階平面図：縮尺1/200、客室平面図・パース：縮尺1/50、立面図（2面以上）：縮尺1/200、断面図（2面以上）：縮尺1/200
- (2) 計画概要（表紙）  
①計画コンセプトに合致したタイトル。  
②設計趣旨は簡潔に分かりやすく、ダイアグラム、フロー図などを交えて、ビジュアルに表現。  
③各階の床面積（部門別）および延べ面積を表としてまとめる。
- (3) 模型および写真  
①模型は、全体：1/400、部分：1/100程度、A1判サイズ仕上げ。  
②写真は、キャビネ判4点程度。

第2課題

「マスタープランとランドスケープ」  
（出題：光井 純）

【課題趣旨】

今課題では計画地全体を扱います。計画地は日本有数のマリナーであり観光地・リゾート地として非常にたくさんの人を集めています。海の駅と水族館そしてこの課題の後で設計するホテルとをマスタープランによって一体的な開発としてまとめ上げてください。さらにはランドスケープデザインを加えることによって魅力ある屋外空間をデザインし、海の駅と水族館そしてホテルが、一つの街のように相乗効果を生み出すことを目指してください。

【課題のポイント】

- ①車輻動線と人の動線を明確に分離、安心して歩くことのできる開発②客動線とサービス動線、観光バス動線を整

理した交通計画③駐車場を海の駅、水族館、ホテルそれぞれに配置④屋外空間において樹木の粗密感に配慮。散歩やジョギング空間にふさわしい小路の曲線形を考える。ベンチ、水景、四阿を適度に配置。楽しい空間を創出⑤建築空間とランドスケープ空間が一体的に連続した空間をデザイン⑥水際への人のアクセスを促進。歩行者動線や親水空間の魅力を生み出す⑦マスタープランづくりでわかりやすい骨格を創出。さまざまなデザインで魅力ある外部空間をデザイン⑧相模湾・伊豆半島や三浦半島・富士山の眺望を借景として利用

【提出物】

- (1) 図面
  - ・マスタープラン平面図：縮尺1/500
  - ・部分断面図（2面以上）：縮尺1/200または1/100
  - ・共通：通り心を明記。縮尺、主要寸法（パースケールは認めない）
  - ・全体模型：縮尺1/1500
  - ・屋外空間イメージスケッチ：複数点
- (2) 計画概要（表紙）  
①計画コンセプトに合致したタイトル。  
②設計趣旨をわかりやすく的確に文章化、ダイアグラム、フロー図などを交

- えて簡潔かつビジュアルに表現する。  
・計画の全体像がわかる大型の模型写真を1点入れる。
- (3) 模型および写真  
①模型は縮尺1/1000、敷地内外を含めて仕上げる。  
②写真は開発全体の特徴をよく表現するものを選び表紙全体に使う。

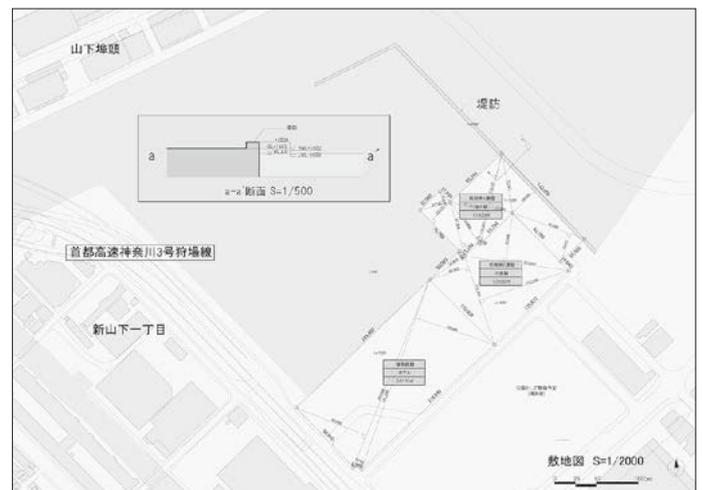
第3課題  
「プレゼンテーション」  
（出題：光井 純）

【課題趣旨】

年度を通じて学習したことを総括する学習として位置づけ、これまでのすべての課題の成果を一つのプレゼンテーションとしてまとめて説明する技術を学ぶための演習です。

【課題の想定】

課題敷地のマスタープランおよび三施設の建築の設計者となり、東京オリンピックに向けてこの山下埠頭の敷地を開発して環境の充実を図り、集客を図りたい開発者に対してデザインプレゼンテーションを行う設定とします。



全体敷地図

小山田駿志

■コンセプト

「鉄道に駅があるように道路や陸路にも駅があっても良いのではないか」という発想から、『道の駅』そして『海の駅』が生まれた。

「海から・誰でも・いつでも・気軽に・安心して立ち寄り・利用でき・憩える」環境を海から陸、陸から海へのゲートとして海の駅は担っていく。船舶係留施設とともに周辺施設との水上交通発展により『海の駅』が新山下を

活性化させる新たな糧となる。本提案は横浜市新山下地区に位置する。向かいにある山下埠頭はIRの開発予定地である。水上交通ネットワークを計画敷地へ引き入れることで海からのアクセスに優れた『海の駅』が新山下の門となり賑わいをもたらしていく。

計画敷地である横浜市中区は5つの地区に分かれており、建築の造形は各地区の面積比より形付けられた。また、現在はヨットハーバー、過去に貯木場として利用されていたことに着目した。ヨットハーバーは船のマストによる縦方向の軸線が強いため、それに従う形で過去に貯木場に存在した丸太を立ち上げ、建築の構造体、空間の仕切り、利用者の視線や行動を誘導する役割と

して利用している。三施設連携の提案であったため、各施設をデッキでつなぎ施設間のアクセスを容易とした。

■講評

木の葉のような海の駅の計画である。

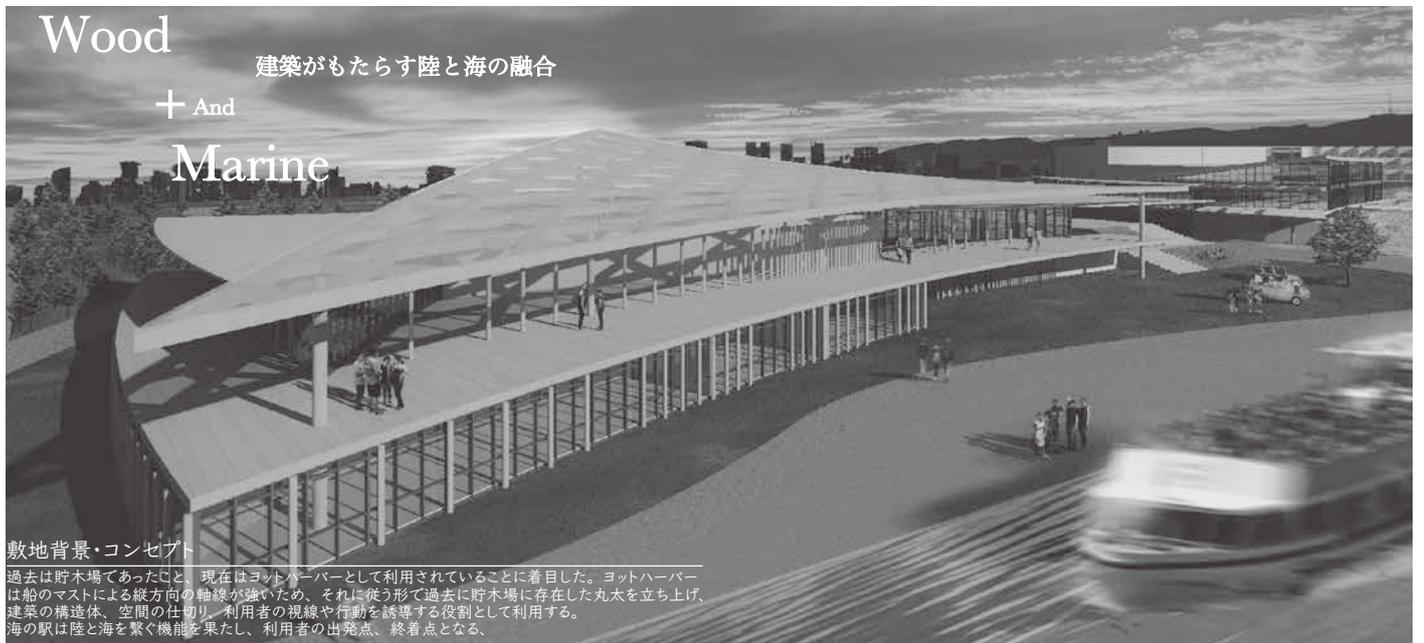
計画敷地は、横浜港の東端の山下埠頭の対岸にある。かつてこの地には貯木場や検疫所があり現在は船だまりがある。この計画ではこうした海岸線から延びているアクティビティをうまく取り込んだところが評価された。

具体的には、円弧状に伸びる船着き場の延長に海の駅を設置し、船をおりた人はそのまま海の駅の中に入ることができる。その後は、目的に応じて近隣公園や、その後続く水族館・ホテ

ルへ容易に向かうことができる。山下埠頭から新山下埠頭を散策してきた人は、自然にこの施設内に取り込まれていき、埋め立て地から遠望できる風景を眺めることができる。

東側の公園から続く緑のプロムナードを施設に取り込むように内装は木を主体として作られている。このため、空間の上部は木のトラス構造にガラス屋根で作られており、この施設を訪れた人は自然光を浴びながら湊の風景を堪能することができる。

配置形態は、銀杏のような三角形のプランを重ねたような形態をしており、海からのアプローチと陸からのプロムナードをうまく融合させた施設となっていることが評価された。(佐藤信治)

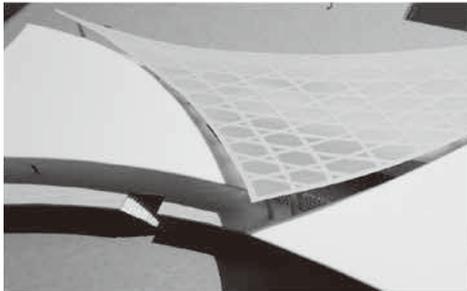


敷地背景・コンセプト

過去に貯木場であったこと、現在はヨットハーバーとして利用されていることに着目した。ヨットハーバーは船のマストによる縦方向の軸線が強いため、それに従う形で過去に貯木場に存在した丸太を立ち上げ、建築の構造体、空間の仕切り、利用者の視線や行動を誘導する役割として利用する。海の駅は陸と海を繋ぐ機能を果たし、利用者の出発点、終着点となる。

三枚の屋根

3枚の屋根で構成。中央の屋根は木組みと白い半透明な膜屋根である。光彩が空間に落ち、空間にコントラストによる動きを与える。



木質空間

木組みの膜屋根の下に生まれる空間は木質空間を演出。柱によって仕切られた空間と障子のような屋根により和を彷彿させる。



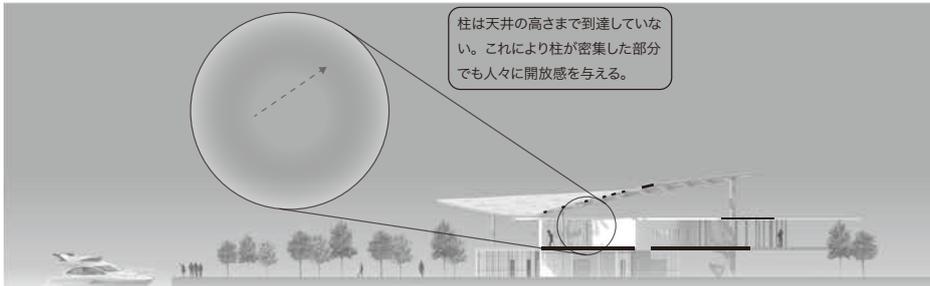
回廊

横浜を360度見渡すことのできる回廊は夏になれば花火の観覧会場となる。水族館、ホテルヘデッキから直接アクセス可能である。



断面計画

空間を構成する柱の間隔は異なる。粗密を与える事により、視覚的な空間の仕切りと共に無意識に動線を誘導する効果を与える。IR計画による水上交通ネットワークを海の駅へ引き入れることで新山下地区へのアクセスを容易にする。海の駅が新山下の門と化し賑わいをもたらす。



柱は天井の高さまで到達していない。これにより柱が密集した部分でも人々に開放感を与える。

発展とこれから

海の駅の存在により新山下地区の新たなランドマークが横浜に加わる。ヨットハーバーの機能とともに新たな観光地として発展していく。



## 西 遼

### ■コンセプト

一枚の屋根によってなされる広いピロティ上の空間。従来の海の駅の多くは海の駅の機能部分と着岸、停泊する場所が分かれており、海の駅と船舶との行き来が大変なのはもちろんのこと船や海との距離感が生まれていることが否めない状況であった。海の駅の機能と船の着岸点を屋根でつなぐことにより問題を解決しその副産物として修理やメンテナンス、荷物の積み込みな

どが天候に左右されず快適に行うことが可能となった。また半屋外的空間を生かし野外でのイベントや物品販売により、より多くの人を引き込む魅力ある海の駅となる。

多くの船舶が行き交う海の駅の運営をより円滑に行うために水上バスのバス停や遊漁船の待ち合わせ場所として利用される短期停泊エリアと船舶の修理や保管、クルージングの際の停泊などに利用される長期停泊エリアに分かれている。機能はこれだけにとどまらない。海の駅を訪れる人の中には船舶が好きの人、興味がある人、購入を考えている人などの船を見たい人々も多くいるだろう。しかし船舶が多く行きかうところでは危険も多く安全に見る

ことは難しい。これをエリア分けにより解決し船を見ることができ一種の展示場の役割も果たしている。

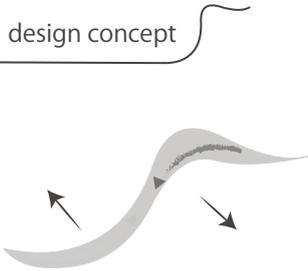
### ■講評

陸上交通と海上交通の接点の基本機能を持つ海の駅であるが、その機能が建築デザインに具現化された作品である。陸と海を柔らかにつなぐ曲線上の海側に延長された平面計画は海上交通を優しく向かい入れる。アーチ構造の大きな膜屋根は、陸から海からの両方のランドマークになり、アーチ連続構造は、陸側と海側からのテンション構造により片持ち化されることにより、開口部が海側と陸側に設けることがで

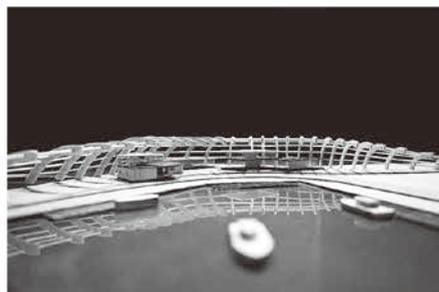
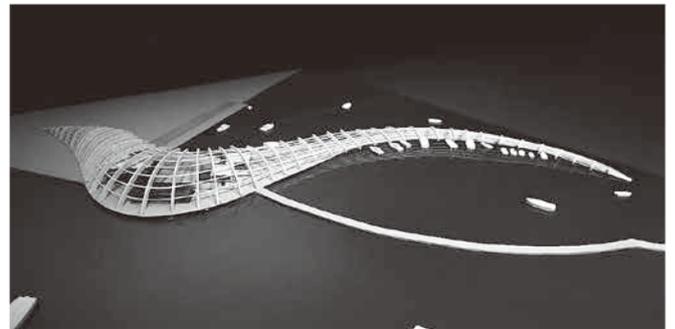
きた。陸上交通と海上交通の接点であることを構造形式とともに美しく表現されている。これらは意匠デザインと構造デザインを上手く融合した作品といえる。大屋根の下に各施設を点在させ、余剰のピロティとなる半屋外空間を人のさまざまなアクティビティに答えるスペースとし、海の駅にプラスの機能を与えることで、埠頭全体の活性化を目論んでいる。設計者は人のさまざまなアクティビティを、野外でのイベントや物品販売等により多くの人を引き込むことを想定している。海の駅の機能を建築計画および施設デザインとして表現し、さらに構造形態と調和させることで計画の昇華につなげていることは高く評価できる。(小林直明)



### design concept



陸と海は隔てられたものであってはならない。双方を結びつける場所として海の駅が存在する。この建築は海に開かれた側と陸に開かれた側を流動的かつ連続的な一枚の大屋根で覆うことにより海の駅の意味を表現している。



中村美月

■コンセプト

海を不自然に切り取った箱を順路に沿って並べるのではなく、もっと自由に、さながら海を漂い泳ぐように海そのものを体感できるような水族館があってもいいのではないだろうか？ そうして水族館そのものを仮想の海に見立てる構想は生まれた。

海を体感するための要素として、海の「深さ」「水面越しの光」「地形の凹凸」の三点を抽出し、それらを建築空間

間として実現するために、薄い水槽のレイヤーを何層にもわたって地下に重ねていく設計手法を採用した。この手法によって、海中の地形が模された内部空間に水槽越しの揺らめく光が降り注ぐ、これまでに例を見ない神秘的な内部空間が生み出された。建築的な境界はそこになく、人々は凹凸を足がかりにして階層の概念に囚われずに自由に上下を移動し、居場所を見つけて腰掛け、寛ぐことができる。

■講評

この作品は、一見、「海の中を体現した鑑賞方法の水族館」ということがコンセプトに見えるが、自ら「建築の

作り方」の概念を変えることを試みた提案でもある。

通常であれば、展示物と動線空間の関係を壁（水槽）によって区切っていくような平面計画によって空間を構成しがちだが、中村案の場合には、垂直方向の壁が一切ない。

断面方向に水槽と動線のレイヤーをひたすら重ねることで、空間を作り出している。

そのレイヤーは、奥行きの違いや外光の効果などを用いることによって、天候の違いや人や魚の密度によって、常に空間の質が変化していくような、環境とともに変化していく建築でもある。

平面計画を主としたような建築では、

どうしても動線に縛りがちになるところを、中村案は、断面操作のみで、魚が平面・断面方向に自由に泳ぐことと同じように、人々が自由に空間の中を歩き来できるような動線・鑑賞空間を実現し、レベルの変化とともに不思議な体験ができるような面白い空間を獲得している。

水槽が構造的に支持できるのか、裏動線はきちんと構成されているのか、といった懸念も出たが、自ら命題を設定し、モノの見方を変え、独自の提案に結びつけ、1つの作品としてまとめる能力こそが、学生に求められる重要な要素の1つであり、今後の建築家としての人生で最も重要であると考えている。  
(植村卓也)

## 積層する水族館

海を「見る」のではなく 海に「潜る」水族館

あらかじめ定められた順路に沿わなければならない水族館は窮屈だ。海という広大な自然を、ちっぽけな水槽に閉じ込めてしまうのも勿体無い。もっと自由に、さながら海を漂い泳ぐように、海そのものを体感できるような水族館があってもいいのではないだろうか？

### 海を閉じ込める水族館からの開放

従来の博物館的展示方法から脱却し、水族館全体を仮想の海と見立て、層を積み重ねる設計方法を採用

空間において海を感じるための三要素

- 深さを感じる
- 光を感じる
- 地形を感じる

水族館のダイアグラム

泳ぐ海 → 薄い層に切る → 層をずらす 隙間をつくる

### 内観パース

水槽を通して太陽の光が降り注ぎ、床には本物の海中のように揺らめきが映る。人々は海中を漂うように上下を移動し、自由に空間を楽しむことができる。

GL 池の畔のような心地よい空間  
水面 水槽越しに光が降り注ぐ

0m  
-6.4m  
-12.8m  
-18.0m

浅瀬  
中層  
深海

藤島健英

■コンセプト

本計画では水族館の役割を満たしつつ都市と海辺をつなぎ、さらには海の駅、リゾートホテルをつなぐランドスケープ的デザインを提案する。

ランドスケープコンセプトとして岩礁を決定した。これは岩礁の持つ役割や特徴が海の駅、水族館、リゾートホテルそれぞれと共通する部分があり、立地も都市と海辺の中間地点に位置するためである。本計画では岩礁の持つ

魚の住処的要素、レジャー要素を共通項として見つけた。

魚の住処となり得る岩礁は岩が入り組んでいたり、岩で囲われているような場所である。これを利用し、岩礁の中で繰り広げられる非日常的な場面展開を味わえる水族館を計画した。

水槽の形状は簡素な形ではなく客用導線にはみ出すような形状にし、平面的な視覚ではなく奥行きのある3次元的な視覚で楽しむことができる。またメイン水槽部分では水槽同士が折り重なり、高さのある水槽を設けることで水中の渓谷を歩いているかのような体験ができる。また、水槽だけでなくフロアレベルにも変化をつけることで上下の視覚変化も狙っている。

■講評

海と陸地の境界の中で岩礁という多様な生物が共存する地形を水族館のデザインに当てた作品です。展示空間を「常設水槽」「メイン水槽」「ふれあい水槽」「ペンギン山」「企画水槽」の6つのカテゴリに分類し、大小13の水槽で計画しています。

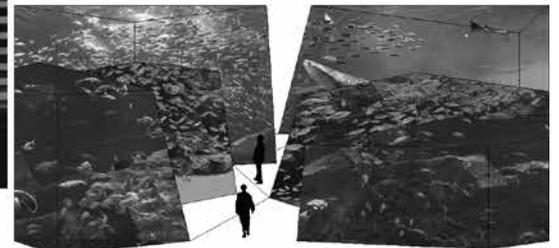
客用動線はとぐるを撤くようにして長い鑑賞動線を確保する一方、管理動線は飼育・研究に関する諸室を中央に寄せ短く構成するなど、実例から研究した内容を実践するとともに、岩礁

をモチーフにした複雑な形状のために作り、静かに鑑賞できる空間を折り込むなどモチーフを活かしたデザインがされています。各所で間の取り方に工夫がみられ、事務室や会議室などの管理諸室までデザインを踏襲しつつ、いびつな形態を納まりの良いインテリアでカバーしまとめていることも評価しました。1F平面においては、企画水槽群からレストランに向かって適切に開いていく壁の作り方と、レストラン側でゲストを迎え受けるカウンターの角度がその後の水辺へ続くアプローチに効いていくあたり、テーブルの向きや間隔まで計算にいった、拘ったプランニングと適切なバランスを感じることが出来ます。(高野洋平)



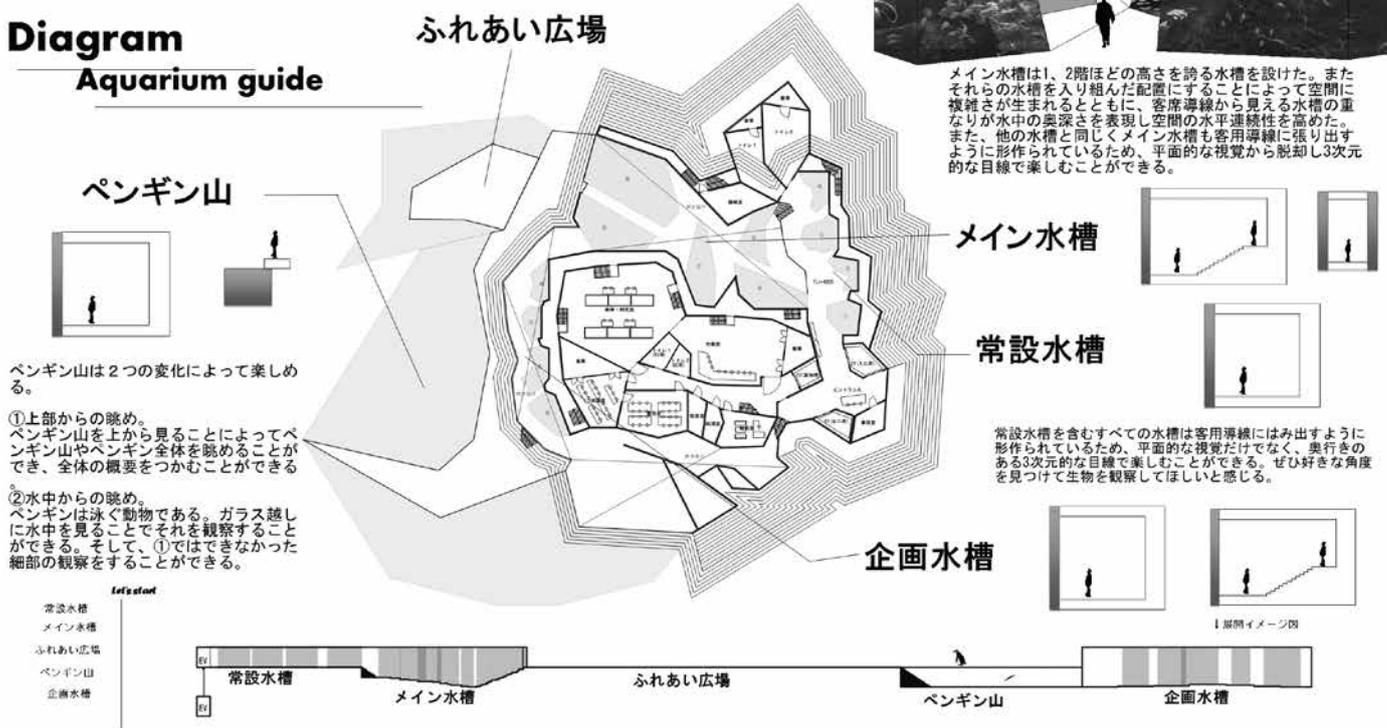
↑海の駅(手前)越しから見た水族館  
←北側下方向から見た水族館

↓メイン水槽イメージ図



メイン水槽は1、2階ほどの高さを誇る水槽を設けた。またそれらの水槽を入り組んだ配置にすることによって空間に複雑さが生まれるとともに、客席導線から見える水槽の重なりが水中の奥深さを表現し空間の水平連続性を高めた。また、他の水槽と同じくメイン水槽も客用導線に張り出すように形作られているため、平面的な視覚から脱却し3次元的な目線で楽しむことができる。

Diagram  
Aquarium guide



横畑佑樹

■コンセプト

保養地や観光地にあり、非日常を感じる宿泊施設がリゾートホテルの定義である。そこで遊園地に焦点を当てて、宿泊施設と遊園地が融合した遊園地一体型ホテルを計画する。従来のホテルと遊園地の関係は薄い。遊園地の夢の世界からホテルに戻ると現実に戻されてしまうことがほとんどである。そのためホテルを遊園地で包み込み、夢の雰囲気のまま宿泊でき

るように設計した。敷地である横浜市は人口374万人で日本の市町村の中で最も人口が多い。しかし、海外の観光客は東京都、大阪府、京都府に比べて少ない実態がある。そこで近年、訪日外国人が増加しているテーマパークの要素を取り入れて横浜の土地に外国人観光客を増やしていく。またコンセプトである「包む」という言葉は思いやり、やさしさなど気持ちのこもったものがたくさん連想できる。「包む」というひと工夫をすることによって温かみのあるものが生まれる。「包む」とは日常に多く存在し、モノに新たな要素を追加してより良くする力がある。そういった日本古来の文化を建築に応用した。建築によって包まれた空間は

見上げるとジェットコースターや観覧車が視界に入り、まるで遊園地の中のような不思議な感覚になる。

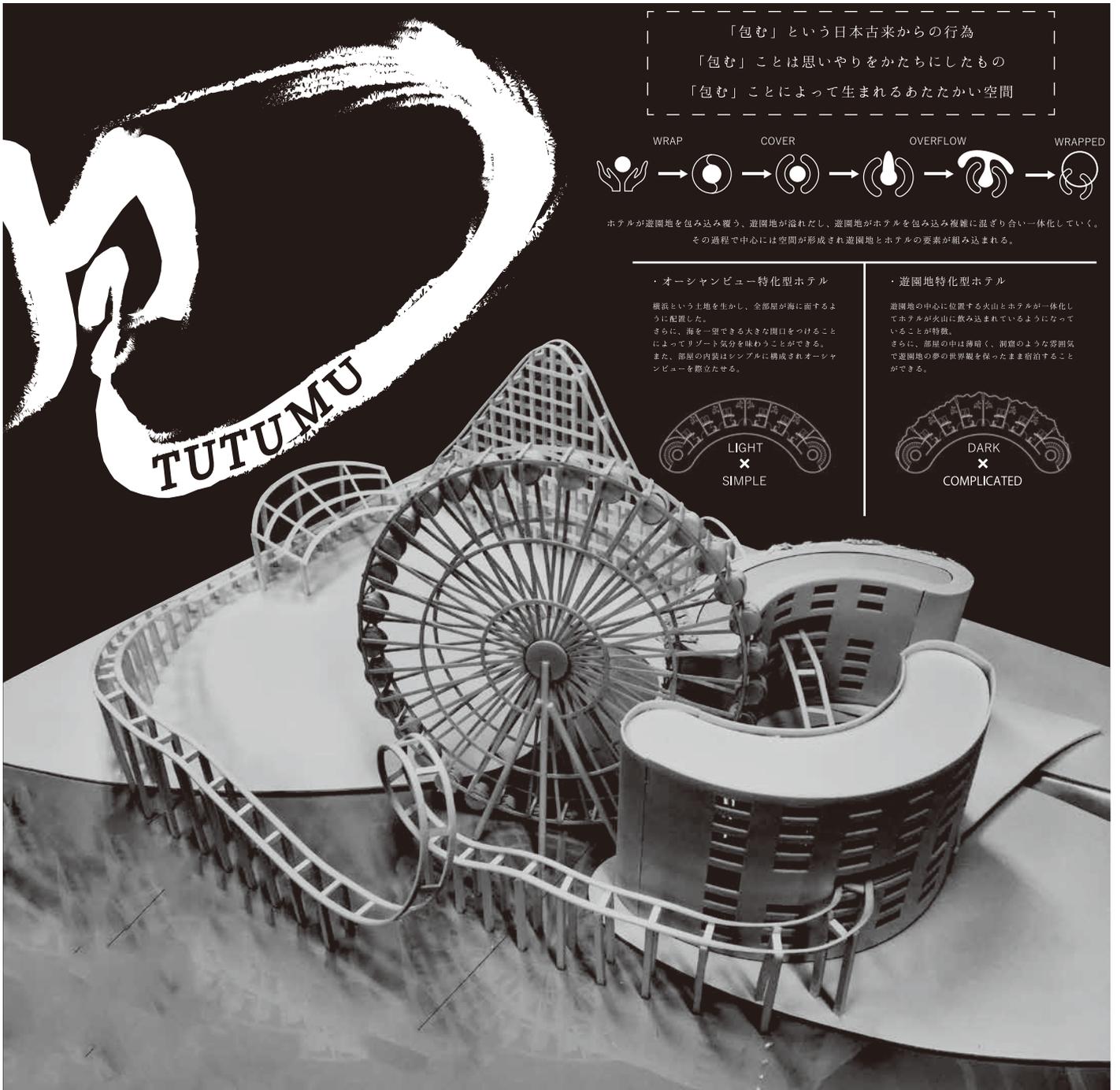
■講評

これはホテルなんだろうか？ 一見するとこれは、アミューズメントとともに過ごすこととホテルの宿泊施設とを融合させた計画なのである。

具体的な空間構成としては、ホテルの宿泊部門はひらがなの「こ」の字型の客室棟からなり、アミューズメント部門はその客室棟を貫くジェットコースターや観覧車などから形成されている。ホテルに宿泊するというよりは、遊園

地に泊まることができるといった方がいいかもしれない。客室を詳しく見ると、2棟あるうちの片方は海側に面しているためオーシャンビューを望むシンプルな客室になっている。もう片方は海を見ることはできないもののそれゆえアミューズメント的な演出と融合した客室となっている。それは、遊園地内にもうけられた火山と一体的な構成となっている。このため、夜間でもアミューズメントを楽しむことができるように設計されている。

しかしながら、レストランや宴会場などの計画は、それほど魅力的ではなく詰め甘い部分も散見されるなど本計画の魅力を保てていないところが残念な点である。 (佐藤信治)



宇津里 諸菜

■コンセプト

現在ホテルは泊まるだけになっている。

日本人から外国人まですべての人が交流できる新たな溜まり場を提案する。横浜には山下埠頭や赤レンガ倉庫、新港中央広場などスポットがいくつもある。そして、スポットごとに特徴があり人々は歩いて回り街を観察する。今回のホテルは、横浜に新たな1つのスポットとなる空間を創る。ホテルには

コミュニティ棟と客室棟に分けて考えている。コミュニティ棟は日本人と外国人が交流し日本の良さを伝える。そして、四季を感じ自然を体験できる「風・光・空・緑・水」をテーマとした空間を創る。客室棟は、家族と過ごすホテルとたまり場を掛け合わせ宿泊者が遊べる客室を考える。また、遊べる客室はテーマ設定を行い同じ趣味同士が意見交換できる。さらに、空間の仕切りとして手摺だけの解放された空中廊下を設ける。客室は家族単位で部屋のレイアウトを考え、宿泊者が遊べるたまり場は同じ趣味を持った人々が会話しやすい範囲となる。

「1日観光して夜戻ってくる場所」から「1日ホテルに滞在して楽しむ場

所」と思える空間に。そして「自然と集まる溜まり場」から「進んで集まるタマルバ」へ変わっていく。

■講評

都市型リゾートの新たな解釈を提案した計画といえる。新山下埠頭という産業優先のエリアのなかで、既存陸上エリアには緑豊かなランドスケープを構築しその中にエントランスおよびレストラン等の共用施設を、海上部分に突堤を設け、そこには客室エリアを集中配置させた、突堤形式でありながら客室棟の下部は水盤を持つピロティ空間を有し、まるで海の上に浮遊しているような効果も併せ持つ建築計画である。また大都市周辺立地なので、あら

ゆる目的を持ったユーザーが存在するなかで、客室エリアはテーマ設定し同じ趣味同士がコミュニケーションできるような建築提案が新たな都市型ホテルの在り方を提案している。また外国人客利用も多い都市型ホテルの特徴を反映するために、コミュニティ棟という施設も設定していて、日本人と外国人の交流を目指し、四季を感じ自然を体験できる「風・光・空・緑・水」日本らしさを伝えることをテーマとした空間を有する。都市型リゾートホテルの機能の既成概念を超えた解釈で、想定するホテル運営・提供するアクティビティと建築計画が上手く融合し、それが施設全体のデザインにつながっていることが高く評価できる。(小林 直明)

コミュニティ棟

日本人と外国人の交流  
↓  
日本の良さを伝える  
↓  
四季を感じる  
↓  
「風・光・空・緑・水」  
をテーマとした空間へ

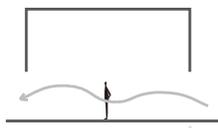
空



水



風



光

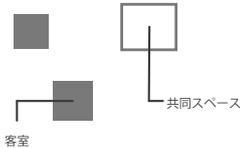


緑



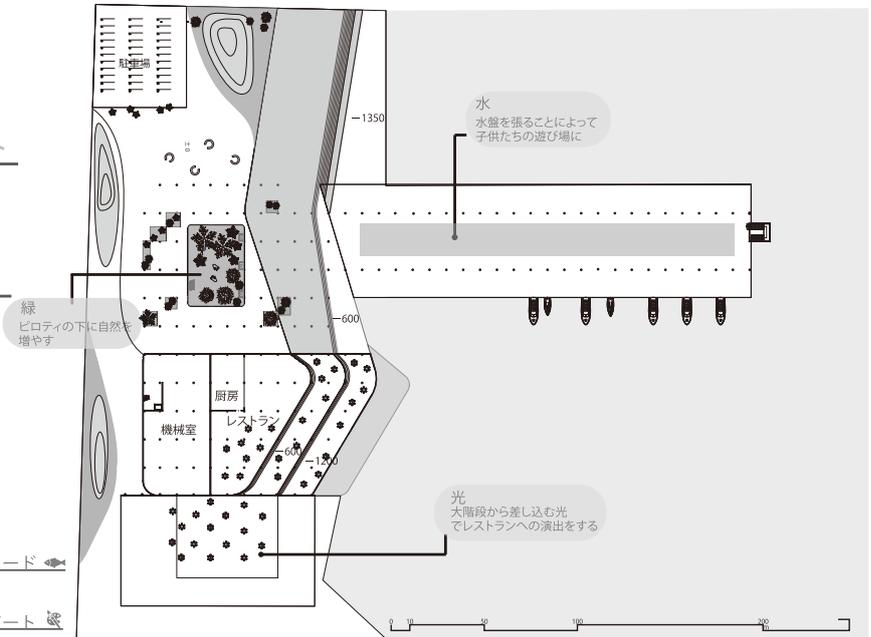
客室棟

家族と過ごすホテル × たまり場  
↓  
巣のような居場所 × 遊べる共同スペース  
↓  
宿泊者が遊べる客室



|    |      |
|----|------|
| 5F | フード  |
| 4F | アート  |
| 3F | スポーツ |
| 2F | カフェ  |
| 1F | 四季   |

配置図兼1階平面図



中村美月・金子 真・宮本大河  
■コンセプト

市は今後のさらなる成長を目指し、IRを始めとした観光産業の強化に大きな力を注いでいる最中である。全国的に見ても観光開発の需要とポテンシャルが非常に高い都市だからこそ、私たちは強力な集客力を持った新たな観光スポットを生み出すことを提案する。しかしその際、多くの観光地が陥りがちなように、目先の観光開発だけに囚われた計画は行うべきではないと考え

た。観光客を誘致するだけでなく、すべての人にとって心地よい空間を生み出すべく計画名を「ポケットオアシス」とし、計画設計を行った。主要施設は、広大な庭園を内包するリゾートホテル、仮想の海にダイブする・新型地下水族館、そして海上交通の要となる海の駅の3つである。それらを大きく包み込み、滲み出すようにして緑地が広がる。さらに敷地全体が境界壁の役割を果たす背の高い木々にぐるりと囲われており、敷地全体で囲まれた海への求心性を生み出している。陸地には極めて自然的な輪郭を持つ緑地が滲み出し、海岸の人工的な直線とは対称的に際立つ。コンテナや工場が立ち並び周辺海岸地域とは一線を画した、小

さな癒しの別世界がそこに生まれるだろう。

■講評

社会に出るとある程度の大きなプロジェクトは数名で設計を行う傾向がある中、プロジェクト内の異なる意見をどのように纏め上げていくかが重要になってくる。海も含めた敷地内外のランドスケープ計画で、如何に各案を昇華させるかがキーポイントである。そういう意味では評価できる提案が行われている。産業、流通機能を有している無機質なエリアに「ポケットオアシス」のキーワードで海と陸の領域を平面的に、断面的に内包させた。陸領域は緑を有した2層構成のランドスケ

ープで、海の駅の屋上庭園と大アトリウム空間で覆われた都市型リゾートホテルの内部の空中庭園とを結び付けている。また、水族館を特徴のある地中型にすることで、地上部分に接した水槽をランドスケープの水盤としての機能にも両立させ、それをランドスケープおよび水族館デザインに反映している。横浜中心街につながる現状未整備の遊歩道と、湾内の防潮堤を再整備しポケットオアシスの陸・海の融合を図っている。敷地内に貫通する水路に回遊性を持たせればさらなるオアシス化を目指せたと思われる。実際のプレゼンテーションは当案の良さが明確に伝わったことがさらなる評価を高めた。

(小林直明)



提案内容

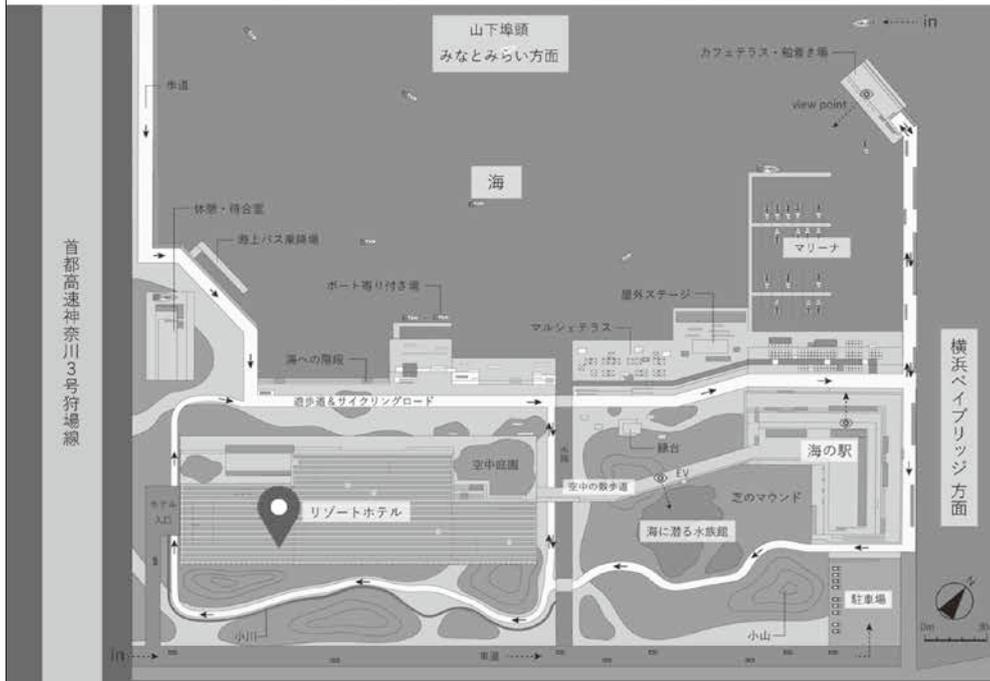
観光産業都市・横浜を敷地とし、強力な集客力を持つ新たな観光スポットでありながら、人々の癒やしとなる小さなオアシスを生み出す。

= 主要施設 =

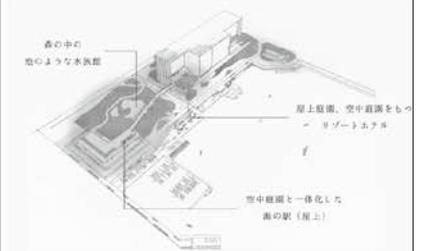
- ・庭園を内包するリゾートホテル
- ・地下に潜る新型水族館
- ・海上交通の要となる海の駅

POKET 切り離された孤島のような  
+  
OASIS 砂漠の中の緑地、憩いの場  
||  
POKET OASIS

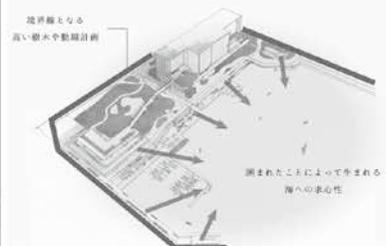
ダイアグラム



緑と融け合う建築



緑に囲まれ、海に向かう 囲まれた別世界



中村数基・郎 敬萬  
・西村寿々美

「attractive bay ～楽しい空間を湾で包む～」

■コンセプト

本計画地に観光客が訪れ、滞在し、楽しめるようなさまざまなエンターテインメントの要素を持った賑わいの場になるような空間を提案します。計画地の海岸線を緩やかな曲線で敷地を削ることによって、ここだけの特別な湾内空間を作り出します。そこに、陸地

側からのアクセスと海側からのアクセスを考えて行き帰りの変化がある2つの道、湾内空間の海岸線を海を感じながら歩く「海の道」と緑豊かな木々や小高い丘に囲まれながら歩く「森の道」を作り、まったく景色の異なる2つの道により、景色の変化をもたらします。そして、この2つの道のゴールとなるようにレストランとマリナーを道の端点に配置します。また、「森の道」に沿うように海からの玄関口となる形が特徴的な海の駅、家族みんなで楽しめる水族館、癒される自然を持つリゾートホテルの3つの主要施設を配置することで、人々が訪れ滞在できるような空間を作り、敷地の中心となる場所には、陸のステージと海のステー

ジを配置することでさまざまなエンターテインメントを楽しめる空間を作り出します。

■講評

敷地前面の水景を緩やかな円形の道によって包み込み、森の道と海の道に沿ってさまざまなアクティビティを配置したにぎわいあふれる楽しい案である。円弧状の軸の東端にはマリナーと海の駅を配置し、西端には飲食施設と文化施設を配置して、賑わいのデスティネーションをきちんと作っている。道の中間部には屋外イベントスペースと水族館、そしてホテルを配置して、道に沿って賑わいが連続するように丁寧に計画されている。海の道にはマリ

ーナや屋外 BBQ スペース、食の屋台村、花見の丘、そして岩礁で遊べる空間が配置されていて具体性のあるレベルの高いデザインソリューションが示されている。

課題は3者のデザインを持ち寄って1つの複合開発として、それぞれのデザインの個性、全体の統一感を生み出そうとするものであるが、この作品はそれを超えて、人の目線からの賑わい、ヒューマンスケール、行動、などをオーバーレイさせて複合開発としての総合力を最大限に引き出した秀作となっている。開発を面で考えることが、これからの街づくりでは一段と重要になってくるが、その思考の好例をこの案は示している。 (光井 純)



石川敦大・藤島健英・山本裕貴  
「表情のある建築」

■コンセプト

新山下埠頭だけでなく山下埠頭へつながる道から間の海までが一体となる地域とし、その先駆けとなるような新山下を計画した。「自然」をテーマに各施設に役割を持たせた。この場所は、時間や季節によって情景が変わり、来るたびに違った体験を得ることができる。「風」がテーマの海の駅は、特徴的な風車を持ち風向きにより向く方向

が変わる。「水」がテーマの水族館は、岩礁をイメージした建築物になっており通りがかる人はその迫力に上を見上げるだろう。また、水族館前は潮の満ち引きによって道が見え隠れする面白さがある。岩礁の形をしたホテルは、客室によって向きが変わるため、泊まるたびに違う景色が広がる。そのまま陸の方へ進むと少しずつ「森」がテーマのエリアになっている。ショップやレストランは宿泊者以外も入ることができ、緑道公園へと続く道に並ぶ草木は、四季によって花や葉がさまざまに色づく。このように、来るたびに違う景色を映し出し、訪れる人に新鮮さを与え続けることのできる場所として計画した。

■講評

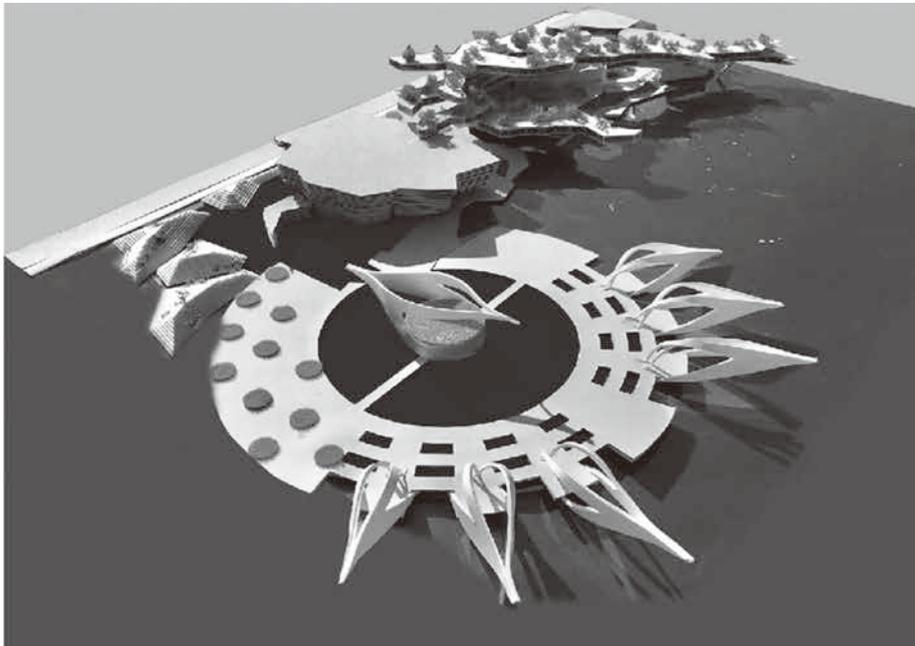
3つの個性ある海の駅、水族館、ホテルの力作を水辺のデッキによって連結して、一体感を持たせながらまとめた案である。

海の駅には強い円形の幾何学をベースに構成されているが、この円形のデッキに連結した船の帆を模したパースは風によってゆっくりと動くデザインとなっていて、風力によって発電を行い、ゆったりと表情を変えていく姿はなんともロマンチックである。中央部には水盤があってその中心に展示空間やレストランが配置されておりとても楽しそうである。水族館は地層をイメ

ージした積層の表現となっていて強い存在感を放っている。逆三角形のダイナミックな形態はその中にある水族館を表現しているが、足元は開放されて岩礁の道の賑わいと連続している。ランドスケープとホテルは岩礁のイメージによってデザインされている。荒削りの多角形の形態が海と接し、また空中にダイナミックに展開して、非常に個性的な景観を作り上げている。海に向かって迫り出す岩礁の形態の屋上部には植栽を施して、人工物と自然との共存を大胆に表現している。ランドスケープが豊かにデザインされていると もっと良かったとは思いますが個性の形態を全体の一体感を合わせてまとめた秀作である。(光井 純)

## 表情のある建築

石川敦大・藤島健英・山本裕貴



### 海の駅



『風』をテーマにした海の駅は、中央が風によって回ることによって時間帯によって海から見たときの情景が変わる。

### 水族館

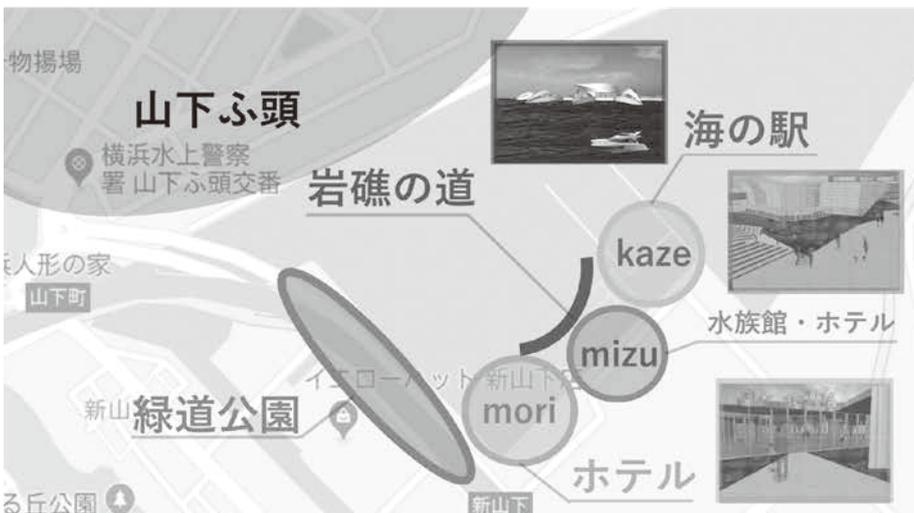


『水』をテーマにした水族館は、岩礁をイメージした形であり、潮の満ち引きにより道が見え隠れする楽しさがある。

### ホテル



『森』をテーマにしたホテルは、水族館から続く岩礁から徐々に木々が増え、四季により色の変わる緑道公園へつながる。



後に開発されていく山下埠頭へ伸びていき、周辺エリア一体となるような場所として『海の駅』、『水族館』、『ホテル』を位置づけた。海から陸までの自然の要素を各施設のテーマとして割り当て、表現した。

# 4年生（総合演習）

【担当】 佐藤 信治  
小林 直明  
穴澤 順子

桜井 慎一  
山本 和清  
菅原 遼  
吉田 郁夫

## 総合演習

### デザイン系

「住宅に住む、そしてそこで稼ぐ  
（日本建築学会設計競技）」  
（担当：佐藤信治、小林直明、  
穴澤順子）

#### 【応募要領】

今、供給されている「1住宅＝1家族」という形式の住宅は、単に家族のプライバシーを守るための住宅である。マンションであろうと戸建て住宅であろうと、隣の住宅に住んでいる人とは無関係に住むことができる。そんな住宅ばかりになってしまった。

住宅は孤立している。それぞれに孤立したそんな住宅が集まってもコミュニティをつくることは極めて難しい。それが現実である。

その最大の原因が、用途地域制によって住居専用地区が経済圏から切り離されたことだった。住宅は単に消費のための（子供を産んで育てる、あるいは高齢者の介護の）場所でしかなくなってしまったのである。それでいいのだと思い込んでしまった私たち建築家は、そんなプライバシーのための住宅をせせせと設計してきたのである。

そこで、である。住宅が経済活動に参加するにはどうしたらいいのか考えたいと思う。単純に言うとうみながら

稼ぐ。もしそうした住宅が集まったら、従来までの住居住宅地区の風景とは劇的に変わると思うのである。その集合の風景と共に考えてください。

審査委員長 山本理頭

#### 【応募規定】

##### A. 課題

「住宅に住む、そしてそこで稼ぐ」

##### B. 条件

実在の場所（計画対象）を設定してください。現行の法規に適合する必要があるものとしします。

##### C. 提出物

###### ① 応募申込書

下記より応募申込書をダウンロードのうえ、必要事項を入力したものを印刷してください。

<http://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2018/compe.doc>

###### ② 計画法

下記1)～3)をA2サイズ2枚(420×594mm)に収めてください。模型写真等を自由に組み合わせ、わかりやすく表現してください。

- 1) 設計主旨（文字サイズ10ポイント以上とし、600字以内の文章にまとめる。）
- 2) 計画条件・計画対象の現状（図や写真等を用いて良い）
- 3) 配置図、平面図、断面図、立面図、透視図（縮尺明記のこと）

※用紙サイズは厳守。変形不可、2枚

つなぎ合わせることは不可です。裏面には、No.1、No.2と番号を付けてください。仕上げは自由としますが、パネル、ボード類は使用しないでください。写真等を貼り付ける場合は剥落しないように注意してください。模型、ビデオ等は受け付けません。

###### ③ 作品名・設計主旨

「②計画法」の作品名と設計主旨（図表、写真等は除く）を記載したものをA4判1枚に印刷してください。

###### ④ データ

下記1)～4)をCDまたはDVD1枚に収めてください。

CDまたはDVDには、代表者の氏名と所属を明記してください。

- 1) 「①応募申込書」のWordファイル
- 2) 「②計画法」のA3サイズのPDFファイル（画質は350dpiを保持し、容量は100MB以内とする。）
- 3) 作品名および設計主旨の要約（200字以内）のテキストデータ
- 4) 顔写真（横4cm×縦3cm以内、顔が写っているものに限る。）

※④は審査対象の資料としては使用せず、入選後に刊行される『2018年度日本建築学会設計競技優秀作品集』（技報堂出版）および『建築雑誌』11月号入選作品紹介の原稿として使用いたします。

### 計画系

「海老川調節池の多目的利用と東葉高速線新駅周辺地区の開発計画」

（担当：桜井慎一、山本和清、  
菅原 遼、吉田郁夫）

#### 【課題趣旨】

横メディカルタウン構想では、新駅から海老川調節池までのつながりを意識した魅力的なまちづくりを目指し検討を進めている。海老川上部利用の設計にあたっては、メディカルタウン構想での調節池上部利用活用イメージとして以下の点をポイントとしている。

- ・コミュニティ活動が活性化するような施設やイベント広場などの設置。
- ・医療センター移転も検討していることから、医療センターの患者に方にも喜ばれるような空間整備。
- ・自然豊かな地区であり、自然（川、緑）との調和を意識した空間整備。
- ・新駅を誘致する予定であり、市外からも利用したくなるような空間整備。
- ・身体を動かすことが楽しくなる空間整備。

海老川ジョギングロードとの連携。  
なお、設計の注意事項として、調節池は、出水時に河川の流水を一時的に貯め、下流部の洪水軽減を図ることを目的としており、多目的利用を考える際には、その目的を阻害することがないように考慮する必要性が挙げられる。

山本淳樹・吉本麗音・  
 Lunenkova Anastasia・  
 渡辺真理恵・三枝 晃

■コンセプト

日本では急激な人口増加による深刻な住宅不足が起り、その需要を受け大量の住宅が作られた。結果として2,000を超える数のニュータウンが日本に誕生した。そして人口は減り始め、日本中に空き家が増え住宅の空洞化が表面化した。さらにニュータウンの老朽化が一斉に押し寄せるなど、同時多

発的にニュータウンの問題が表面化した。存在価値が薄れた住宅の歴史を語る2,000を超える遺産は産業廃棄物として処理されようとしている。

本提案はニュータウンの特性と空洞を資源と捉え、最も一般的な例として愛知県春日井市の高蔵寺ニュータウンをモデルケースとして選定しこの場所に提案する。住む空間と働く空間を一体化し、暮らす空間と働く空間がお互いにインキュベータとして機能する職住一体のまちをつくる。

かつての日本人の憧れだった団地は、時代の移ろいに従いその役目を終えようとしている。役目を終えたニュータウンを有効資源と捉え、リノベーションにより、現代とその先を生きる人の

求めるかたちに変わりながら使われ続ける姿を示すことで、日本の未来の暮らし方を提示する。

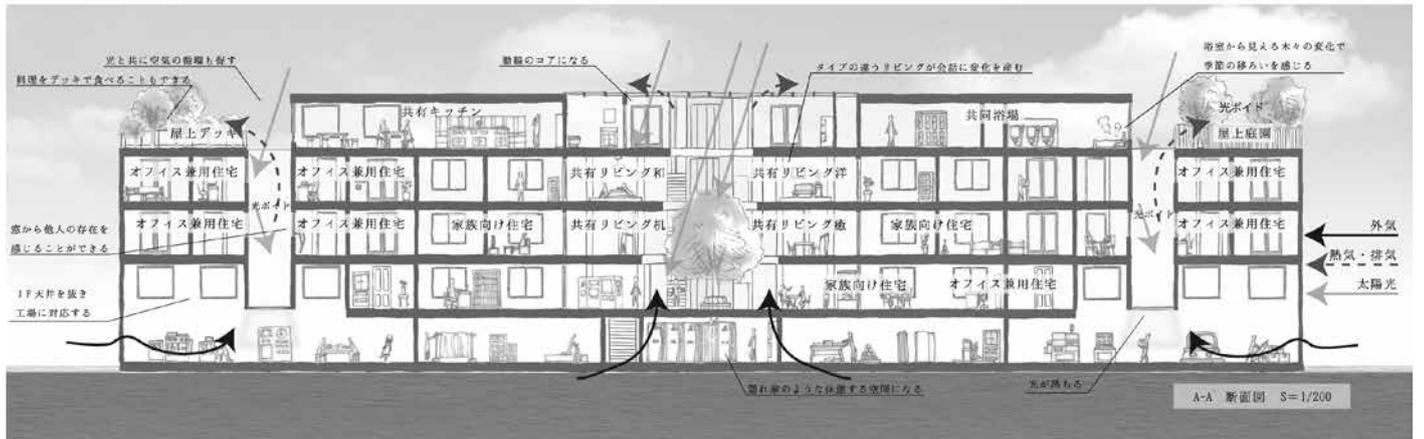
■講評

2018年度の総合演習（デザイン）は日本建築学会設計競技の課題「住宅に住む、そしてそこで稼ぐ」をテーマに行った。具体的には、実在の場所と住宅を設定し、その建築内で何らかの商行為つまり「稼ぐ」ことを構築することであった。本計画では、愛知県の企業城下町である地域に設定している。選んだ建築は企業城下町に隣接する階段室型の団地が並ぶ地区にある一棟をリノベーションすることで稼ごうとしている。その具体策は、大手企業の下

請けに甘んじていることなく、技術を持った中小企業やこれから起業しようとする人を応援する施設を内包した住宅団地を作ろうということである。まずは、使いにくい階段室型の住棟を真ん中に全体を見渡すことのできる吹き抜け空間を設置した。さらに、技術開発やインキュベータスペースを空き住戸の中に設置し、その空間と先に挙げた吹き抜け空間とを連携させることで、稼ぐ仕組みをもっと活性化しようとするモノである。しかしながら、住むということと稼ぐということのどちらに力点を置かかということに逡巡しており、稼ぐ目的や利点などが図面表現からはうまく伝わらないことが残念である。（佐藤信治）



1 暮らしに働く空間が溶け込む



# 福産漁耕

—工業温排水を熱源とした都市型一次産業の提案—

根本一希・山本壮一郎・桜井南実・服部立・吉住文登

## ■コンセプト

住宅街を流れる工業温排水を熱源として、漁業や農業を営み稼ぐ住居地区を提案する。工場が流す排水を熱資源へと転換することで、環境問題は住民が稼ぐ手段へと姿を変える。新たな職住近接モデルは今まで見向きもされなかった川を包むように立ち上がり、従来のプライベートな住居を営みの場としてまちに開いていく。近隣工場の副

産物がまちにもたらす一次産業を起点とし、名古屋の住宅地に緑と水辺が広がる活気ある風景を作り出す。

## ■講評

近隣の製造工場から年間を通して一定温度で排出される温かく水質基準が保たれた水源を基に、「住みながら稼ぐ」の命題を既成の技術で解決した。人工による一定温度の河川は本来の生態系バランスが崩れる可能性がある。また住居地域内の工場立地はマイナスイメージが付き物だが、それらの問題を逆手にとって近隣住民の内陸養殖・

温室植物栽培により地域エリア内の生産施設と居住施設の両立化を図った案である。負の副産物となっている一次産業を起点とすることで、昨今の副業を認める社会状況にさらなる推進を促す。さらに地方活性化だけでなく都市部においても両立の可能性を示している。住居エリアにおける水路・河川は暗渠化される傾向があるが、それらの水利用は必然的に親水感情を導き、街と水路の係わりが過去の原因風景にあったような親水空間領域のランドスケープデザインにも導き、同時に自然も回復できるであろう。それらの産業と街、人と水の融合が、新たな社会の在り方に結び付くことを彷彿とさせることも高い評価につながった。(小林直明)

日本建築学会設計競技2018 東海支部入選

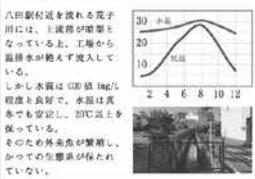


# 福産漁耕

—工業温排水を熱源とした都市型一次産業の提案—

住宅街を流れる工業温排水を熱源として、漁業や農業を営み稼ぐ住居地区を提案する。工場が流す排水を熱資源へと転換することで、環境問題は住民が稼ぐ手段へと姿を変える。新たな職住近接モデルは今まで見向きもされなかった川を包むように立ち上がり、従来のプライベートな住居を営みの場としてまちに開いていく。近隣工場の副産物がまちにもたらす一次産業を起点とし、名古屋の住宅地に緑と水辺が広がる活気ある風景を作り出す。

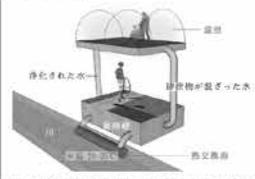
## 1 住宅地を流れる温水



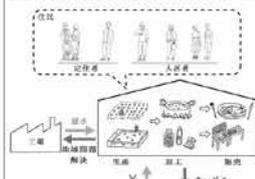
## 2 養殖技術の発展

一方、近年養殖技術の進歩とともに内陸部での養殖業が注目されている。水耕栽培と組み合わせることで植物と微生物の力で水を浄化し、循環利用する手法も確立されている。水温を20℃以上に保つことができれば養殖は可能とされ、屋敷地でのアブダビ事例もある。温排水はこの条件を充分に満たしていると考えられる。

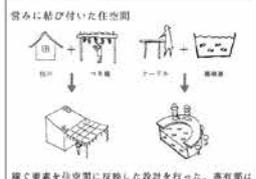
## 3 循環システム



## 4 住みながら稼ぐ仕組み



## 5 住むと稼ぐの関係



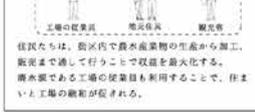
## 6 設計過程



## 7 養殖する魚の種類



## 8 住居と稼働の関係



## 9 時間による活用部の使い分け



総合演習 デザイン系  
**コネクト**  
 一価値を交換するまち

勝部秋高・篠原 健  
 ・高橋遼太郎・笹川雄基

■コンセプト

稼ぐとはつまり『価値の交換』である。価値とは経験の積み重ね、可能性などさまざまであり、子どもも大人もお年寄りもすべての人が持っている。そこでそれらの人が集まっていたが今はいない、しかし復興の意思はあるという場所を敷地とし、それに寄り添う形で新しい考え方を追求していく。香川県丸亀市の閑散としたシャッター街

は現在再生を目指し復興活動を行っている。私たちはそれに対する1つのアイデアとして『価値の交換』から始めるコミュニケーションを用いて街を活性化させていくというものを提案する。それにはまず街に住む子ども、大人、お年寄りがそれぞれの世代で固まって完結してしまっている現状を変えていかなければならない。まず、住宅街・商店街の1階部分の壁を一部取り払い改築し、そこへ商店の他にコワーキングスペース、学校の特別教室などを新たに配置する。2階部分はそれぞれの住宅を回廊でつなぎ、最低限のプライバシーを確保しつつパブリックな場としても利用できるようにする。これによってバラバラだったそれぞれの居場

所を一部にまとめる。

■講評

本計画では、「稼ぐ」ことを商店街とその周辺地域だけで通用できる地域通貨を導入するという「システム」であると定義している。

地域通貨の具体的な流通方法としては、この地を訪れる観光客が使用する一般的案通貨と地域住民が使用する地域通貨とを等価交換できる仕組みを構築することにある。普通の生活においては、通貨価値のない行為、たとえば子どものお使いや、お年寄りの話し相手、肩たたきなどがある。こうした行為に価値を与え、地域通貨としてお年寄りや子どもたちに商店街で使用して

もらう。

商店街では、観光客が落としたお金と地域通貨とを交換することで、おみやげなどの開発資金に充てることができる。そうして稼いだ資金で商店街をよりよく改築していこうとするモノである。商店街の空きスペースには新しく商売を始めようとする地域の方を入居させ、稼ぐ仕組みをもっと活性化しようとしている。

しかしながら、図面を見ると元々あった商店街は影も形もなくなっており、これではあまりにも夢物語に終始している。この計画は、現実と虚像をいかに融合させるかにかかっているため、そうしたことが図面から伺うことができない点は残念である。(佐藤信治)

コネクト

一価値を交換するまち

稼ぐとはつまり『価値の交換』である。価値とは経験の積み重ね、可能性などさまざまであり、子どもも大人もお年寄りもすべての人が持っている。そこでそれらの人が集まっていたが今はいない、しかし復興の意思はあるという場所を敷地とし、それに寄り添う形で新しい考え方を追求していく。香川県丸亀市の閑散としたシャッター街は

現在再生を目指し復興活動を行っている。私たちはそれに対する1つのアイデアとして『価値の交換』から始めるコミュニケーションを用いて街を活性化させていくというものを提案する。それにはまず街に住む子ども、大人、お年寄りがそれぞれの世代で固まって完結してしまっている現状を変えていかなければならない。まず、住宅街

・商店街の1階部分の壁を一部取り払い改築し、そこへ商店の他にコワーキングスペース、学校の特別教室などを新たに配置する。2階部分はそれぞれの住宅を回廊でつなぎ、最低限のプライバシーを確保しつつパブリックな場としても利用できるようにする。これによってバラバラだったそれぞれの居場所を一部にまとめる。さらに

地域通貨というシステムを街に組み込むことにより、大田ショッピングモールやオキタリ通販での買い物と同じく商店街でも買い物を通していくという目的、その可能性から今までと違った観光地作りも出来る。これらの期待、システムを推し進めたい世代が持つ価値を交換していく、新しい街を築いていく。



1 静謐な住宅街、閉じた商店街

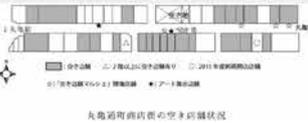
昔から住宅街は学校を中心に形成されている。中には子供の遊び場である公園が点在し、買い物場であると同時に地域住民のコミュニケーションの場となっている商店街が存在している。しかし先年ショッピングモールやネット通販の急激な増加により商店街の店は次々と閉まり、今ではシャッター街となってしまうものも少なくない。それに伴い地域住民のコミュニケーションの場がなくなっていき、近所付き合いというものが消えていった。さらに学校が若い活気一つの場所に集ってしまったため、住宅街はまるでゲストタウンのように静かになってしまう空間になってしまった。



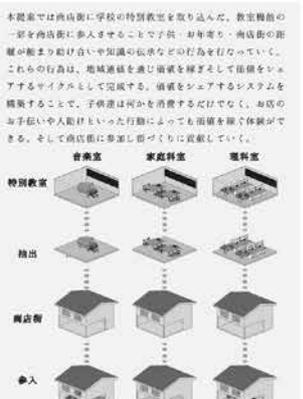
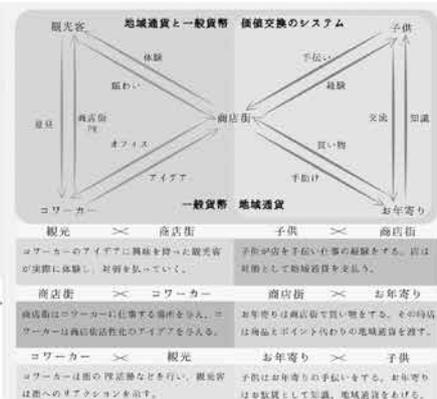
2 敷地選定

敷地は香川県丸亀市丸亀通町商店街である。丸亀城を核とする歴史的景観が多く点在しているが認知度は低く、ポテンシャルは高いはずなのにそれを活かされていない。また過去、町おこしに失敗し、若年層が退去したままの道路のようなシャッター街と化してしまっている状況が把握された。

しかし今そのシャッター街は再生を目指し復興活動を行っている。この活動に寄り添う形で提案をすることによって実現性が高まる。また本提案は周辺の街を吸収して改築を繰り返す、拡大していく計画なので大きなシャッター街を対象にする必要がある。



3 価値を稼ぐ



吉澤果南・秋元千秋・佐藤緋里・藤城佑里花・藤田優美

■コンセプト

車に依存している社会からの脱却、健康への意識、計画地の立地が近隣の駅から徒歩20分圏内であることに着目し、歩いて楽しく暮らせる街のきっかけとなる調節池と近隣の提案である。

歩いて楽しい環境づくりは、計画地周辺の住民のニーズ、馴染みやすいゆかりのもの、居心地の良さが需要であると考え、ゆかりの作家に関連した二

ーズを満たす居心地の良い空間を作ることとした。また、NPO 法人船橋マルシェを設立し、産公民学を採用することで、計画地周辺に選定した公共空間で農地とマルシェを行うことで幅広い年齢層に目的を与え、調節池内で定期的にイベントを行うことで近隣以外からも人が集まり賑わいをもたらす。

これからの時代に合った、街に住む人が家から外に出て身体を動かし街の人と楽しく会話する、そんな豊かな生活を歩くことが可能にする考える。

■講評

計画地のある船橋市は健康寿命日本一を目指して「健康増進都市ふなば

し」として健康につなげる都市環境づくりを目指している。そして、人との交流や社会参加が生活を豊かにし、心と身体に良い影響を与えるとしてコミュニティ活動の活性化を目指している。計画地は市の中央部に位置し、中心市街地にも近い。また、海老川が北から南に流れ、海老川調整池を囲む自然環境豊かな地区でもある。

そのような中で、本チームは「歩く」をテーマに調整池を中心にした「楽しく暮らせるまちづくり」に取り組んでいる。チームによる現地調査の結果、計画地は徒歩での生活が可能であると分析し、「歩いて楽しく暮らせるまち」を提案し計画案に反映させている。評価されるのは、このチームの

提案が課題の計画地だけでなく周辺も含めて楽しく歩ける仕掛けが提案されている点である。地元ニーズとしてのマルシェと現地ゆかりの著名な作家の作品を組み合わせた仕掛けを点在させ、これらをめぐりながら計画地に歩いていく楽しいアイデアが具体的に提示されている。そして計画地内の調整池のデザインも作家の小説をモチーフとし、それを囲むように歩かせる工夫をしている。これらのアイデアにより人々が楽しくコミュニティ活動をする姿が目に見え、さらに、調整池は洪水時に水位が増加するが、浮体式で水位の変化に対応する施設を提案するなど、自然環境の変化もうまく取り入れている。(吉田郁夫)

# WALK UP

WALK + STEP UP

①ゆかりを街全体に

PocketPark

船橋市にゆかりのある著者

本に登場する象徴的な食べ物・代表的なメニューを提案する

②PocketPark でマルシェと農業

高齢や高齢者が定額で毎日買えるものを導入する

高い物に楽しさがあるものを、高単価があるものも取り入れる

WEB を用いた専用メニューの掲載・販売を導入する

自然が豊かになり、農産物も買えることができる

健康な運動は健康につながる

駅から短時間で移動可能なメニューが提案される

## Background

① 高齢化社会

高度経済成長期により効率化追求の時代へ変化 移動手段の早い車を国民は手にした。足腰の弱い高齢者は日常生活を車での移動を余儀なくされている。高齢者による交通事故が多発している。

② 立地のポテンシャル

計画地からは徒歩10分で電車に乗ることが出来る上、加えて20分圏内には船橋駅や飯山満駅が存在。計画地付近は徒歩で移動可能

③ メディカルタウン 構想

地権者の75%の人が賛成するメディカルタウン構想。健康が維持出来る街はどんな街か

## Proposal

“歩いて楽しく暮らせる街”

街に必要なポイント

ニーズ × ゆかり × 心地の良さ



## Keypoint

ニーズ

ゆかり

心地の良さ

## Function

貯水容量

中央池 (A-A' 断面) 面積 133,053 m<sup>2</sup> 深さ 5 m

谷の池 (B-B' 断面) 面積 54,342 m<sup>2</sup> 深さ 8 m

A-A' 断面 B-B' 断面

# 海老川の水を使い倒して 健幸なまちに。

— FUNABASHI  
HEALTH TOWN PLAN —

D班 / 田中孝登・野中康太郎・  
中田佳宏・鈴木海人・坂口翔太  
■コンセプト

本提案は、自然環境を活かした「健幸まちづくり」をコンセプトとし、自然と共存した人々の生活を取り戻し、暮らす人、訪れる人が健康と幸福（健幸）を感じられる街を目指すものである。そこで私たちは、「舟運」や「農業」などの過去の生活風景に着目し、

自然や人々との触れ合いを通して健幸を感じられる「水路の街」を提案する。街中には水路を張り巡らせ、舟での移動を前提とすることで車に頼らない人中心の動線計画を施した。この水路網に沿って、畑を備えた「地産地消型商店街」や水辺のコミュニティ空間となる「海老川ジョギングロード」、カヌーを利用した自然体験が楽しめる「海老川調節池」等の自然と共存した施設を配することで、市民の心と身体双方における健幸増進を図る計画とした。

■講評

新駅予定地の北側では、船橋市医療センターを中心として、各種医療施設

やその関連施設の集積が進み、市の整備方針としても、医療や健康に特色をもった地区形成を目指している。本提案は、以上の市の方針に沿って、海老川調整池および海老川沿線の多目的利用として、健康回復やリハビリに供する空間として整備することをテーマに掲げ、体と心の健康で幸福な生活がとれる「健幸」タウンづくりを標榜している。

調整池の中心は、広大な水面を残して、ボートやカヌーのレクリエーション空間を提供し、それを取り囲む外部は散歩散策やジョギングができる公園スペースとして健康増進に役立つ空間をつくっている。また、水面の一部は、水性生物や植物が繁茂するピオト

ープとし、自然環境の再生と観察に貢献するよう配慮した。

船橋漁港につながる海老川は、水量は少ないものの、両岸は桜並木となっていて開花の時期には美しい景観を作り出している。そこで海老川に沿ってサイクリングとジョギングができる遊歩道を整備し、花見や散策時に休憩をとれるリバーサイドカフェや近隣で収穫した新鮮な野菜などを購入できる店舗を設けて、賑わいを誘導している。途中に水門等を設ける必要があるが、小型の遊覧船を就航させて、南北方向に弱い船橋の交通を補うことも意図するなど、水面の多目的利用で地区の快適性と利便性の向上も狙っている。

(桜井慎一)

## 海老川の水を使い倒して健幸なまちに。

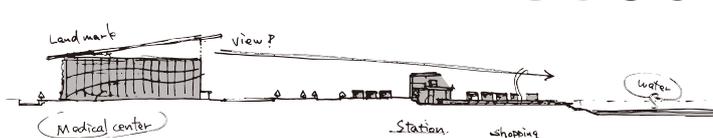
### FUNABASHI HEALTH TOWN PLAN

#### 「健幸」の源となる4要素

- 🏃 運動で「健幸」
- 🌿 水と緑で「健幸」
- 🍴 食で「健幸」
- 👥 人と人との繋がりで「健幸」

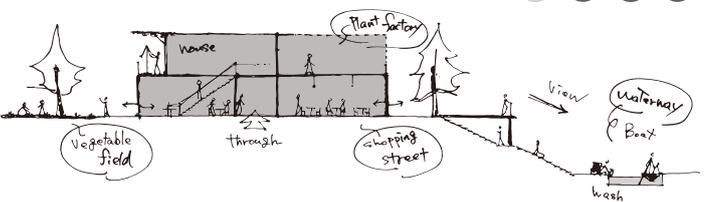
人が「健幸」であるためには、適度な運動や栄養満点な食事をとることで[健康な身体]をつくることに加え、水や緑の自然環境や様々な人と触れ合うことで[健康な心]をつくっていくことが大切なのではないか。

#### 1 まちのシンボル“自然派メディカルセンター”



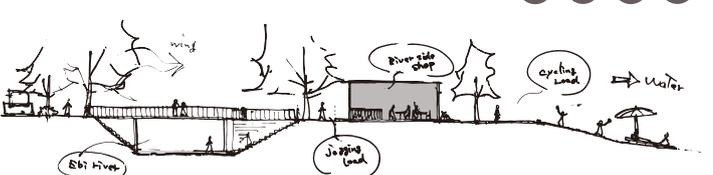
病院は自然豊かな公園内に立地させ、自然環境がもたらすリラックス効果を活用した自然派医療を提供する。公園内には、入院患者や診察待ちの患者がストレスを感じにくいように「水辺のさんぽロード」や「水と親しむ待合所」を整備する。公園は病院利用者以外の人も利用することから、患者が一般の人と交流する機会が増え、入院患者が感じやすい疎外感の低減にもつながら、精神的な健幸に貢献する。一般の人も患者と関わる機会を持つことで、自身の健康に気を使うようになる。また、病院は周辺環境と調和する木造の外観デザインとし、ランドマークとして機能させる。病院の屋上は誰でも利用可能な展望台となっており、まちを一望することができるようになっている。

#### 2 水路と畑と賑わいの“地産地消型商店街”

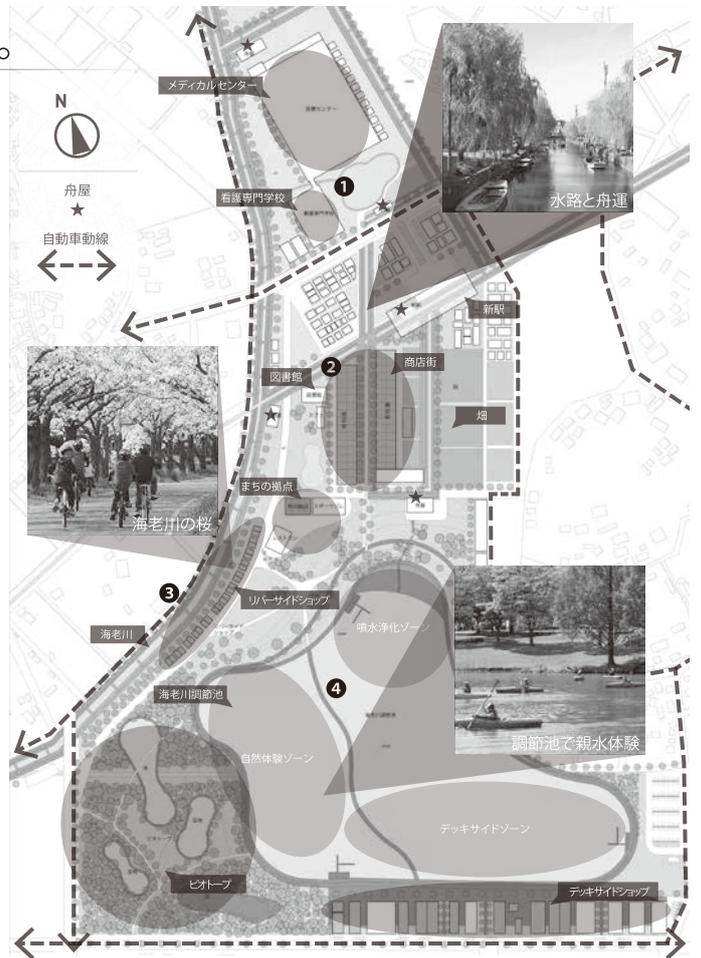


商店街は地元へ根付いた地産地消を基本とし、まちの中心を通る水路を挟んで立地させることで舟の利用者が気軽に店舗に立ち寄れるようになっている。店舗の裏手には畑が併設されており、店舗オーナーはこの畑と海老川や調節池の豊富な水源を利用して自家栽培を行うことができるようになっている。また、2階は賃貸住宅に加え、農業を使わない安全な食料を年間を通じて供給できる植物工場が併設されている。植物工場は、従来の農業のような重労働を強いられないことから、高齢者の雇用問題の解決にも貢献する。

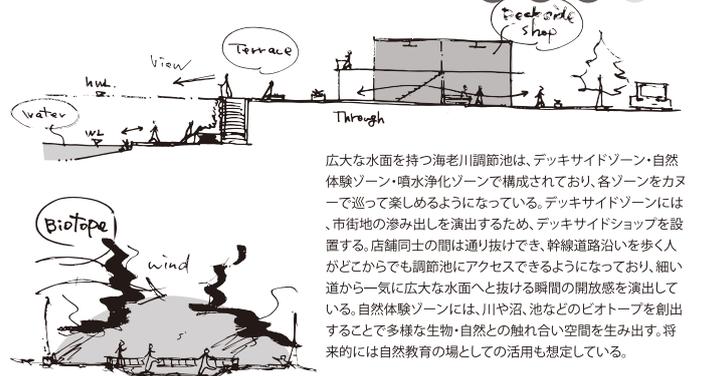
#### 3 水辺の憩いの場“海老川ジョギングロード”



豊富な自然が残る海老川は水と触れ合うことのできる親水護岸形状とし、ジョギング・サイクリングロードとして舗装の改修を施すことで、自然に囲まれた中で気持ちよく運動することができる空間を創出する。さらに、川沿いにはカフェやレストラン、日用品店や雑貨店など、地元の人が営むリバーサイドショップを設置することで川遊びをする人やジョギング・サイクリングをする人、買い物に来る人など、様々な人が交わる憩いの空間を創出する。店舗同士の間は通り抜けられ、海老川沿いから店舗を抜けた先は広大な海老川調節池の水辺空間が視界に広がる仕掛けとなっている。



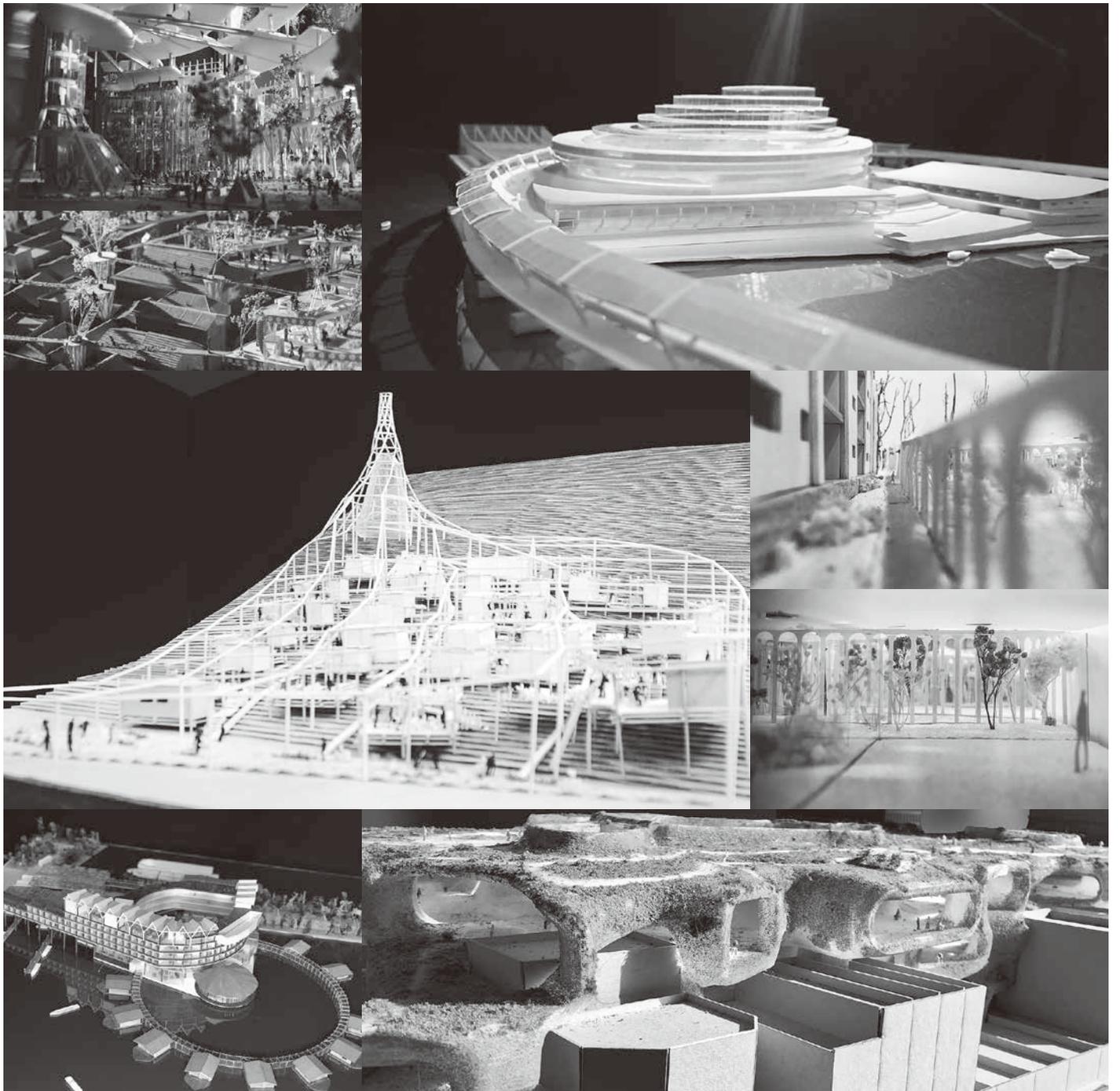
#### 4 多様な活動を受容する“海老川調整池”



広大な水面を持つ海老川調節池は、デッキサイドゾーン・自然体験ゾーン・噴水浄化ゾーンで構成されており、各ゾーンをカヌーで巡って楽しめるようになっている。デッキサイドゾーンには、市街地の参み出しを演出するため、デッキサイドショップを設置する。店舗同士の間は通り抜けでき、幹線道路沿いを歩く人がどこからでも調節池にアクセスできるようになっており、細い道から一気に広大な水面へと抜ける瞬間の開放感を演出している。自然体験ゾーンには、川や沼、池などのピオトープを創出することで多様な生物・自然との触れ合い空間を生み出す。将来的には自然教育の場としての活用も想定している。

# 卒業設計

【担当】 佐藤 信治  
小林 直明  
小野 和幸  
安藤 亮  
金子 太亮  
桔川 卓也  
玉上 貴人  
木内 厚子  
穴沢 順子  
川久保智康  
勝又 洋



勝部秋高

はじめに

浸水をただ待つ街、江東区。海水面よりも低い地盤に下町文化が根づいた街が形成されている。この地帯すべての住民が区内にある高台へ避難する必要がある。住民が避難できるポケットパークを積層した建築の提案。この提案は土木的ではなく建築的な手法を用いて問題を解決し、街の里山的存在として経年変化していく。生物的に成長してゆき、文化と共生していく場を創り出す。

1.

海水面より低い土地に街が広がる江東区は、歴史的に常に水と関わりを持って発展を遂げてきた。そこには江戸

時代から受け継がれてきた文化や精神が息づいている。しかしスーパー堤防計画によりこの街が地盤ごとまったく違うものに塗り替えられようとしている。風情あふれる街が常に浸水のリスクに怯えているのである。

2.

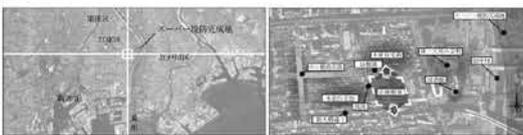
海拔ゼロメートル地帯では集中豪雨や高潮、台風、津波などの水害時に対処することが厳しいとされている。とくにこの江東区は江戸川と隅田川に挟まれた場所に位置しており、災害時にゼロメートル地帯から避難する際、江東区や墨田区の主要な橋が崩落すれば、避難が不可能になる。約100万人が暮らす江戸川区西部と江東区東部などでは、2、3週間以上浸水が続き、一部



スイートノジュカン  
水都の樹冠

浸水をただ待つ街、江東区。海水面よりも低い地盤に下町文化が根づいた街が形成されている。この地帯全ての住民が区内にある高台へ避難する必要がある。住民が避難できるポケットパークを積層した建築の提案。この提案は土木的ではなく建築的な手法を用いて問題を解決し、街の里山的存在として経年変化していく。生物的に成長してゆき、文化と共生していく場を創り出す。

01 風情あふれる街が常に浸水のリスクに怯えている



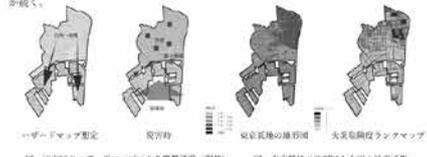
東京臨江東区大島  
海水面より低い土地に街が広がる江東区は、歴史的に常に水と関わりを持って発展を遂げてきた。そこには江戸時代から受け継がれてきた文化や精神が息づいている。

|  |  |   |
|--|--|---|
| <p><b>人情あふれる街の賑わい</b></p> <p>大島中の橋本商店街をはじめ活気ある街が数多く残っている。昼目には賑やかな町歩きが楽しめる。江戸時代から賑わいと歴史を継いで受け継がれてきた大島の「伝統」を感じることができる。</p> | <p><b>伝統・文化・江戸情緒</b></p> <p>三年に一度行われる深川八幡祭りでは、大小あわせて120数箇の町神輿が町内を練り歩き、江戸時代から賑わいと歴史を継いで受け継がれてきた大島の「伝統」を感じることができる。</p> | <p><b>魅力あふれる水都都市</b></p> <p>東西南北を貫かれた街で、区内には18もの川や運河があり、その長さは合計で約25kmにもなる。常に水と関わりを持って発展を遂げてきた地域で観光資源も「水」に関連が深いものが数多くある。</p> |
|--|--|---|

02 2-1 留まることしかできない現状



2つの川に挟まれた東京低地  
海抜ゼロメートル地帯では集中豪雨や高潮、台風、津波などの水害時に対処することが厳しいとされている。災害時にゼロメートル地帯から避難する際、江東区や墨田区の主要な橋が崩落すれば、避難が不可能になる。約100万人が暮らす江戸川区西部と江東区東部などでは、2、3週間以上浸水が続き、一部



02 2-2 400年かけて壊されていく街

**スーパー堤防計画**  
スーパー堤防の安全な完成には約400年かかると言われている。これを守っているのは、いざ災害に見舞われた場合、本来敷地である。歴史にある住宅や商店街といった街を構成する要素がスーパー堤防計画によりタワーマンションやビルディング等に置き換えられようとしている。しかしこうした機械的な建築は地震したり被害をもたらすという調査が不可能である。それに対して期成法が可能な生物的な建築を守り、増やしていくべきである。

**日常とともに成長して行く防災計画が必要である**

のエリアではその場所に留まることを余儀なくされる。

3.

ハザードマップによれば江東区の住民はお台場へ避難すると示されている。しかし避難時には交通渋滞や暴風雨、橋の崩落によりこの危険な地域から脱出することが困難になると推測されている。木密地域でもあり、火災等のさまざまな二次災害も予想される、総合的に災害時の活動が困難となる場所を対象地に選定。

4.

スーパー堤防の完全な完成には約400年掛かるといわれている。これを待っている、いざ災害に見舞われた場合、本末転倒である。低地にある住

宅や商店街といった街を構成する要素がスーパー堤防計画によりタワーマンションやビルディング等に塗り替えられようとしている。しかしこういった無機的な建築は増築したり減築したりという調節が不可能である。それに対して増築が可能な生物的な建築を守り、増やしていくべきである。

5.

対象敷地のコミュニティは範囲が小さくて、人と人が近い。平面的な計画ではこれを疎かにしてしまいがちである。小さなスケール感で構成されているまちを壊してしまいかねない。スクラップアンドビルドではなく、必要な要素の積層により問題を解決していく。

6.

スラブに土を乗せ公園化しポケットパークを作っていく、これを1ユニットとする。ユニットとユニットの間には建築空間が生まれ、積層されるごとにさまざまな形の空間が生まれる。

7. ネットワークの構築

現在の住宅街ではそれぞれの家で個々の生活を完結してしまっている。生活の一部を街の外部へ開放することで集合の空間を創り出す。例えば、洗濯物を干す場所を共同にしてしまったり、趣味の情報交換の場を設けたりといった+αの機能を点在させる。こうした生活空間が屋外に分散され、それぞれの+αとしての機能が布置されることで地域住民のネットワークが構成され、徐々に拡大していく。

8. 災害時に機能が変換される建築

街に必要とされている+αの機能がこの建築に反映され、ユニットが増築を繰り返し周辺環境に呼応して植物のように成長していく。例えるならば、木の根のように水インフラを張り巡らせ、ツルのように空中回廊を絡ませる。ユニットが集合しタワーが出来上がる。ユニットから成る空間には多種多様なサイズが存在し、水脈・空中回廊とともに街へネットワークしていく。そして街の文化を継承し、生物的に成長する防災インフラとしての建築となるのだ。この建築が来世へと受け継がれ、50年、80年、100年先と姿を変えながら街と共生していける、都市の裏山的存在になる。

第31回千葉県建築学生賞 最優秀賞(地域一)、市民賞(地域二)

03 3-1 生物的に成長する防災インフラとしての建築

必要ものを補う

対象敷地のコミュニティは範囲が小さくて、人と人が近い。平面的な計画ではこれを疎かにしてしまいがちである。小さなスケール感で構成されているまを壊してしまいかねない。スクラップアンドビルドではなく、必要な要素の積層により問題を解決していく。



ポケットパークをつくる

スラブに土を乗せ、公園化する。ユニットとユニットの間には建築空間が生まれ、積層されるごとに新たな空間が生まれる。



ネットワークの構築

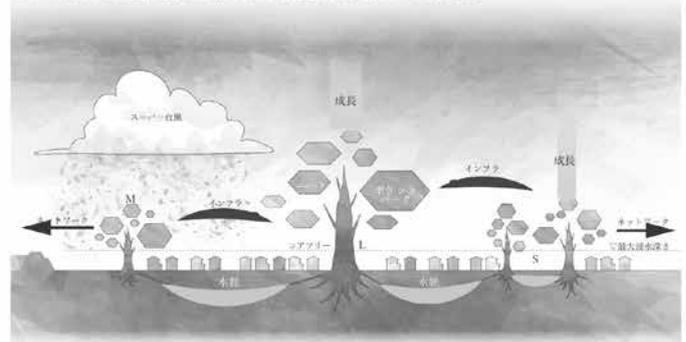
現在の住宅街ではそれぞれの家で個々の生活を完結してしまっている。生活の一部を街の外部へ開放することで集合の空間を創り出す。生活空間が屋外に分散されることで地域住民のネットワークが徐々に拡大していく。



03 3-2 生物的に成長する防災インフラとしての建築

生物的に変化していく

街に必要とされている機能がこの建築に反映され、ユニットが増築を繰り返し周辺環境に呼応して、さらに、木の根のように水インフラを張り巡らせ、ツルのように空中回廊を絡ませる。これにより水資源の浸水も防ぐことができる。コアタワーを中心にポケットパークを基本としたユニットが集合することでタワーが出来上がる。このタワーには多種多様なサイズが存在し、水脈・空中回廊とともに街へネットワークしていく。そして、この建築が地域の歴史的な存在となり町文化を次世代に継承している場所となる。

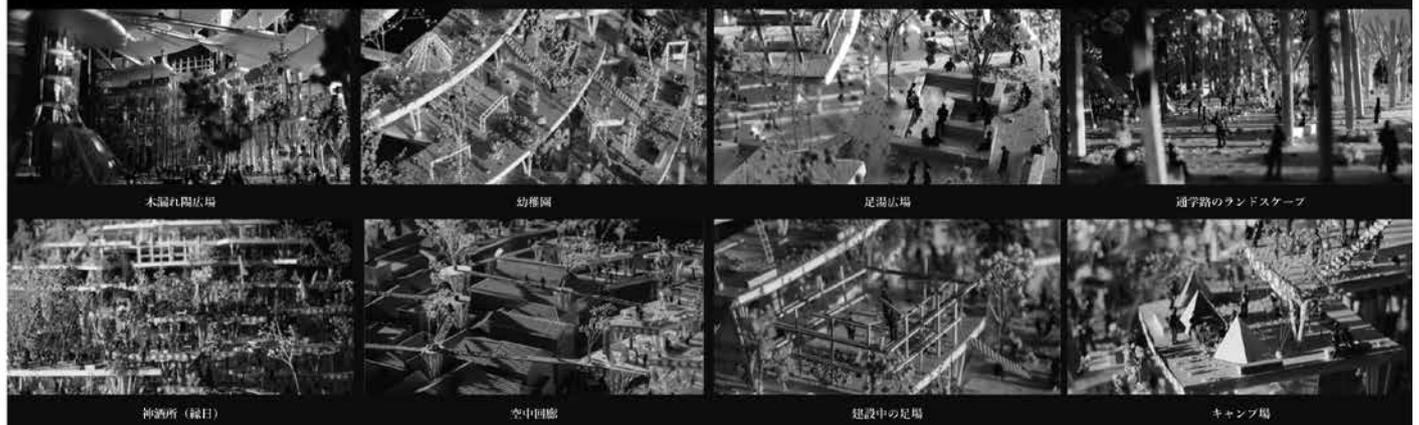


コア部

05 災害時に機能が変換される建築



災害時・平常時 断面図



# 痕跡の行方

生を具現化した風景がつくる  
死と人との新しい距離

## 根本一希

私は死についてよく考える子どもだった。死という果てしない概念は難しく、子どもの私は一人悩んだ。

しかし、それを大人や友達に話すことはできなかった。死を考えると悪いことのように感じた。墓の管理や無縁墓地の増加などといった問題の根底には、人々の「死への無関心」があると感じる。その原因は現在の聖域のような墓や、死が見えないように作られたまちが死を考える機会を奪ってしまっているためであると考えた。

そこで、「人がいなくなった空間」に残された「人がかつて居た痕跡」を頼りに、生の具現化を行う。すると自らが死について考え、死との距離を選

び取れる場ができるのではないかと。

### 1. 死と人との新しい距離感

現在の聖域のような墓ではなく、日常として死を感じられる場所を計画する。そこでは人々の活動と死を顕在化させ、生と死が同時にある風景をつくる。その風景は人々の死に対しての価値観を変え、死との向き合い方を変える力を持つ。

### 2. 計画敷地

計画敷地が含まれる松戸市常盤平団地は築60年になり、空き部屋の増加が顕著だ。孤独死の現場でもあり、松戸市では年間200人の孤独死が起こる。その敷地に残された、痕跡から立ち上がる集合墓地を計画する。団地に残る生活感、人が居た当

## 痕跡の行方

生を具現化した風景がつくる死と人との新しい距離

私は死についてよく考える子どもだった。死という果てしない概念は難しく、子どもの私は一人悩んだ。しかし、それを大人や友達に話すことはできなかった。死を考えると悪いことのように感じた。

墓の管理や無縁墓地の増加などといった問題の根底には、人々の「死への無関心」があると感じる。その原因は現在の聖域のような墓や、死が見えないように作られたまちが死を考える機会を奪ってしまっているためであると考えた。そこで、「人がいなくなった空間」に残された「人がかつて居た痕跡」を頼りに、生の具現化を行う。

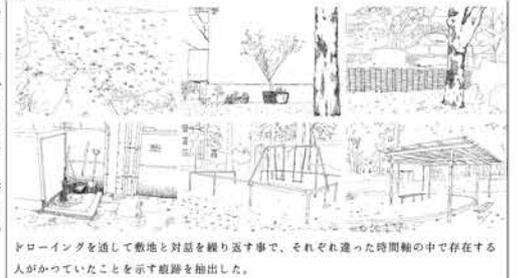
すると自らが死について考え、死との距離を選び取れる場ができるのではないかと。

### 計画敷地



計画敷地が含まれる松戸市常盤平団地は築60年になり、空き部屋の増加が顕著だ。孤独死の現場でもあり、松戸市では年間200人の孤独死が起こる。その敷地に残された、痕跡から立ち上がる集合墓地を計画する。団地に残る生活感、人が居た当時の強度を持つ。

### 痕跡のスケッチ

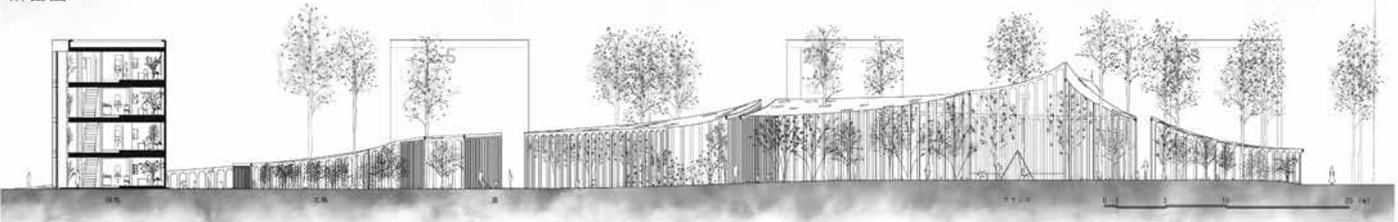


## 痕跡の抽出と変換

抽出した痕跡を、建築に変換する。人がかつていたことを示す痕跡は生を具現化し、当時の記憶を甦る。対象は道や広場、ブランコ、団地などといった既存から、けもの道を作ることや見上げる、見下ろす走るなどといった目には見えない人の行為や生活の中でのパターンまで様々である。それらを読み取り、痕跡として等価に捉え、空間操作の頼りに用いる事で、死と向き合う場所を形成する。



## 断面図



時を想起させ、死を考える場としての強度を持つ。

### 3. 痕跡の抽出と変換

土地に残された痕跡を抽出し、変換する。抽出された痕跡は生を具現化し、当時の記憶を語る。対象は道や広場、ブランコ、団地などといった既存から、けもの道を作ることで見上げる、見下ろす、走るなどといった目には見えない人の行為や生活の中でのパターンまでさまざまである。それらを摘み取り、痕跡として等価に捉え、空間操作の頼りに用いることで、死と向き合う場所を形成する。

#### 3-1. 道

敷地内に張り巡らされたアスファルトの道。今では土や草に飲まれ荒れ地

化し、道は姿を消そうとしている。新たに道のへりから壁面が立ち上がることで、道と空間の関係が再認識される。

#### 3-2. 広場

殺風景なアスファルトの広場。広場のへりをガラスで囲い、周辺を樹木葬の木々で囲うことで死者と向き合う静かな空間に再生する。

#### 3-3. ブランコ

誰にも使われず寂しそうに佇んでいた。ブランコが子どもを押し上げていた動作は屋根を開ける建築操作に変わる。照らされたブランコは再びかつての求心力を取り戻す。

#### 3-4. 砂場とパーゴラ

新たに樹木葬の木々による屋根がか

かり、砂場の周りで遊ぶ子どもたちとパーゴラに墓参りに訪れる人とが混在する。生と死の新しい距離感が生まれる。

#### 3-5. けもの道

設計者が意図しない中で生まれるけもの道。これは生々しい人がいた痕跡であり、人々の日常がそこにあったことを指し示すものでもある。これらも計画された道と同等に扱う。

#### 3-6. 行為

暮らしの中のパターンなどといった身体的な記憶。生活の中で生じる、見上げる、見おろす、走る、といった行為。目には見えないこれらも痕跡として抽出し、重要な要素として取り入れる。

### 4. 団地を弔う

建築の死を迎えつつある団地を死者の住居として再編する。方法として、樹木葬、土葬、風葬、水葬などといった葬いを団地を再編する際の建築操作の頼りに用い、各団地に当てはめていく。再編された各団地は、それぞれ異なった死との向き合い方ができる空間を持つ。

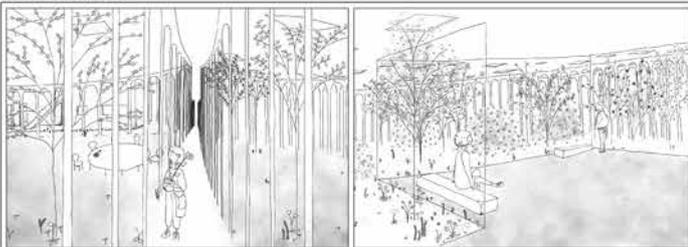
### 5. 建築の死

再編された各団地は、建築が役割を終えて解体されるまでの各フェーズになっている。

それぞれの空間体験を通して、人の死と建築の死を感じ考えることで、死に対しての価値観と向き合い方を見つめ直す機会をつくる。

## 第30回千葉県建築学生賞 特別賞

### 痕跡の建築化

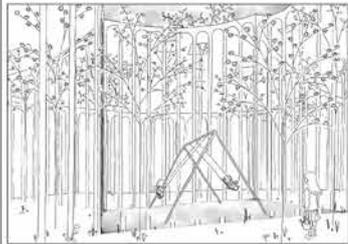


道

敷地内に張り巡らされたアスファルトの道。今では土や草に飲まれ荒れ地化し、道は姿を消そうとしている。新たに道のへりから壁面が立ち上がる事で、道と空間の関係が再認識される。

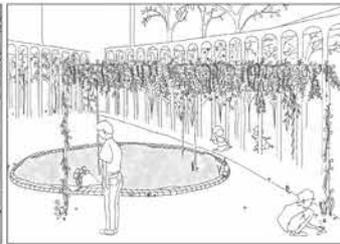
広場

殺風景なアスファルトの広場。広場のへりをガラスで囲い、周辺を樹木葬の木々で囲う事で死者と向き合う静かな空間に再生する。



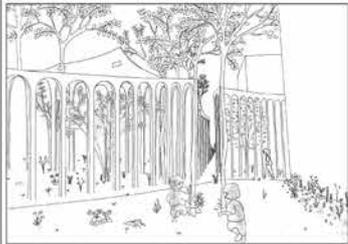
ブランコ

誰にも使われず寂しそうに佇んでいた。ブランコが子供を押し上げていた動作は屋根を開ける建築操作に変わる。照らされたブランコは再びかつての求心力を取り戻す。



砂場とパーゴラ

新たに樹木葬の木々による屋根がかかり、砂場の周りで遊ぶ子どもたちとパーゴラに墓参りに訪れる人とが混在する。生と死の新しい距離感が生まれる。



けもの道

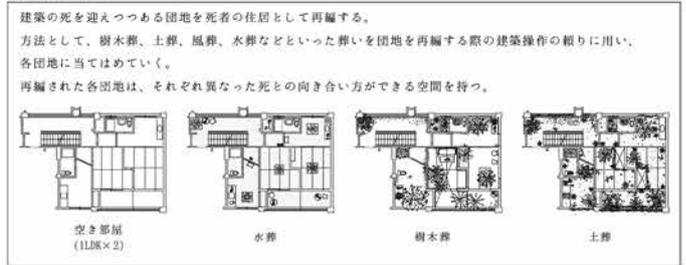
設計者が意図しない中で生まれるけもの道。これは生々しい人がいた痕跡であり、人々の日常がそこにあったことを指し示すものでもある。これらも計画された道と同等に扱う。



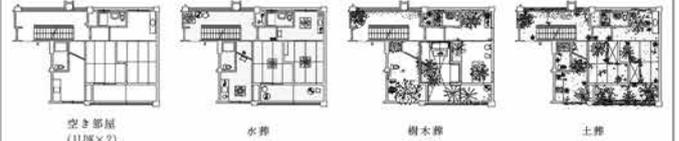
行為

暮らしの中のパターンなどといった身体的な記憶。生活の中で生じる、見上げる、見おろす、走る、といった行為。目には見えないこれらも痕跡として抽出し、重要な要素として取り入れる。

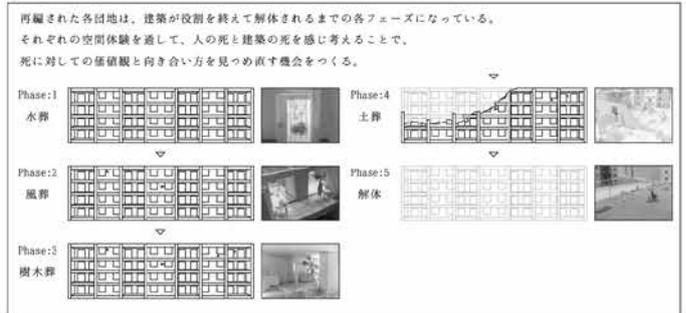
### 団地を弔う



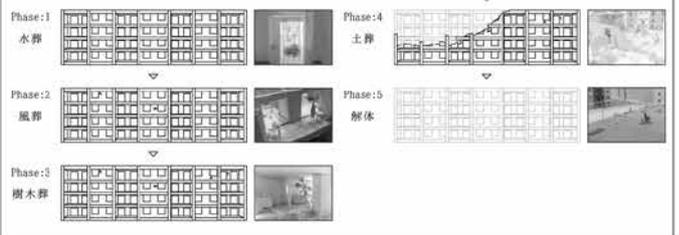
建築の死を迎えつつある団地を死者の住居として再編する。方法として、樹木葬、土葬、風葬、水葬などといった葬いを団地を再編する際の建築操作の頼りに用い、各団地に当てはめていく。再編された各団地は、それぞれ異なった死との向き合い方ができる空間を持つ。



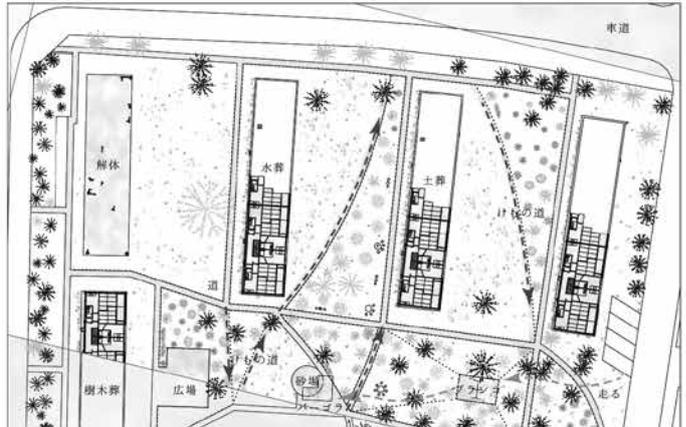
### 建築の死



再編された各団地は、建築が役割を終えて解体されるまでの各フェーズになっている。それぞれの空間体験を通して、人の死と建築の死を感じ考えることで、死に対しての価値観と向き合い方を見つめ直す機会をつくる。



### 平面図



服部 立

国土の保水力が乏しく水の自給率が低いシンガポールには、貯水池が数多く建設されている。しかし巨大な貯水池は市民の生活から隔離され、そのスケールは狭い国土と高密度な都市から逸脱している。そこで高強度線維を用いて貯水池を立体化し既存建物上に連ね、複合文化施設とすることで、都市と貯

水池の共存を図った。貯水量に応じて変化する建築がシンガポールの伝統的空間を拡張し、都市にある隔たりを溶かしていく。

シンガポールは、年間降水量が約2,400mmに達する多雨地域に位置するものの、国土が狭小かつ平坦な地形であるため保水能力が乏しく、水源として利用できるような大きな河川もない。一方で、シンガポールは狭い国土に500万人余りが暮らす超過密都市であり、政府の積極的な産業誘致もあって水需要は増加の一途をたどっている。シンガポールでは、1965年の独立以来、国内の水源だけでは全ての消費量を賄うことができないため、供給の大部分を隣国のマレーシアからの輸入に依存

してきた。しかしながら、水の安定的な供給は国家の命運に関わる問題であり、政府は、水源の開発や循環利用の推進に積極的に取り組んでいる。

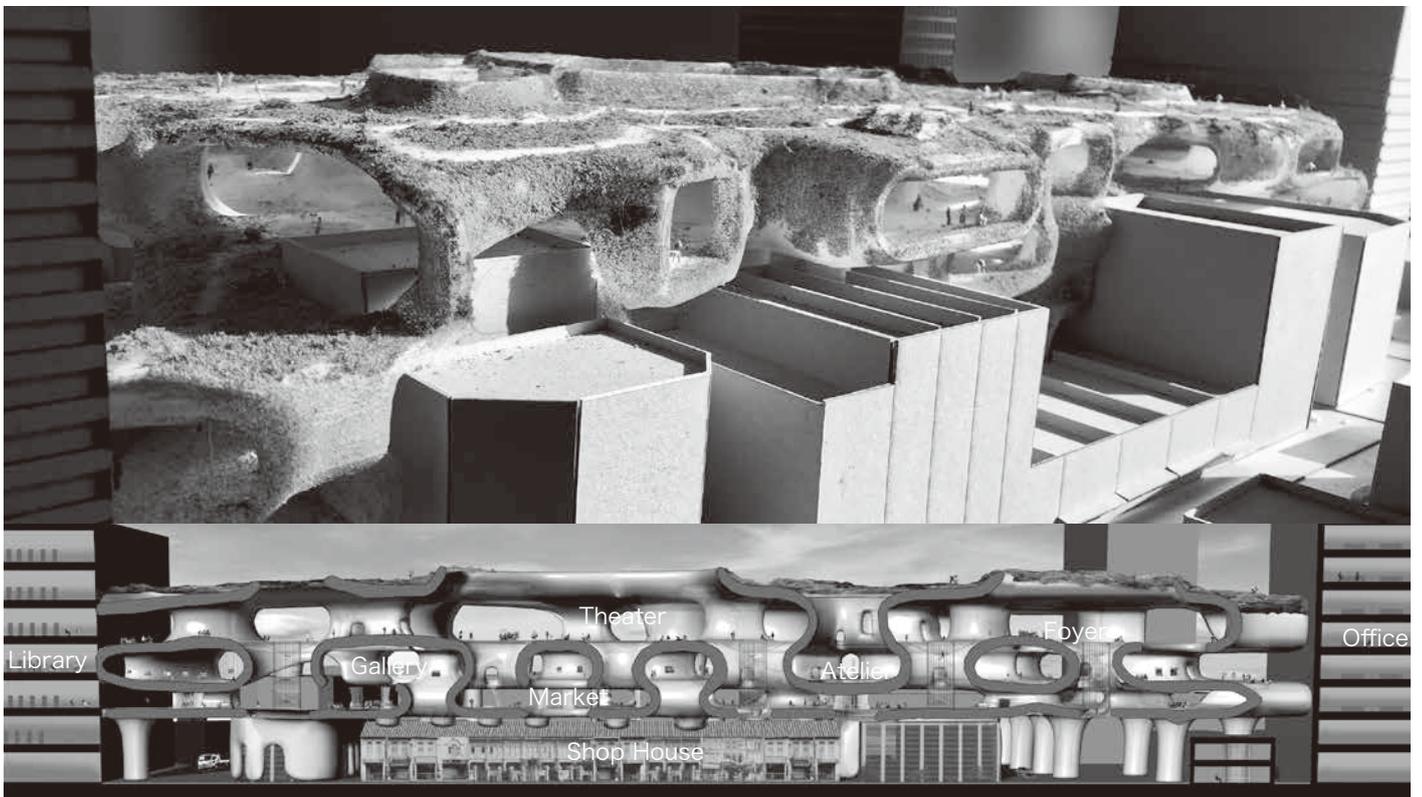
そこで、郊外の貯水池に親水空間を作るといった限定的な提案ではなく、貯水池自体を建築として都市部に入れ込めなかと考えた。

そこで線維によって構成され、水が入ることで成立する構造、Aquitectureを考案した。最新の繊維技術を用いれば、理論上は水圧に十分耐えうる構造体を作ることができる。圧縮荷重を水が、引っ張り荷重を高強度線維が担う構造体は、水量によって空間を変化させる特徴を持つ。

シンガポールの伝統建築であるショ

ップハウス。名前の通り店舗住宅であり、1階部分を店舗、2階部分を住宅として使われている。道路側から見ると1階部分が2m程オフセットされ、アーケード状の空間が家同士を結んでいる。このシンガポールならではの文化溢れる伝統的空間を立体化し、ショップハウス上に展開することで、さらに自由な動線と店舗進出を実現する。

更新が著しいシンガポールでは、規模の異なる建築物が混在する光景が見られる。規模や利用者層の違いにより、隣り合っていても関わりの薄い建物。雑多な建物群を跨ぐ貯水建築が境界を溶かしていく。スクラップ&ビルドに代わる新たな更新のかたちの提案でもある。

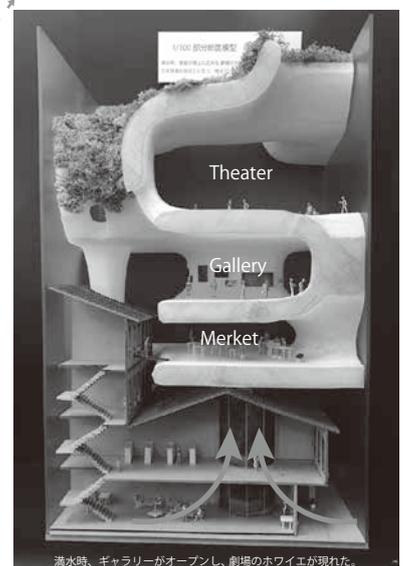
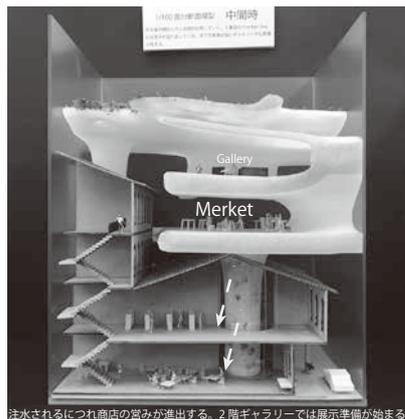


本提案の最大の特徴は、空間が貯水量に応じて可変することだ。水が貯まるにつれ出現する空間に、既存建築の営みが滲み出していく。しかし渇水時には撤収を余儀無くされる。そうして人々は今まで認識のなかった水資源の増減を空間体験をもって実感する。

貯水池の化身として存在し、絶対的な自然のリズムに逆らわない建築は、今まで自然に抗うことで成立してきた建築へのアンチテーゼとなる。

水が貯まるにつれて成長する建築。変化する空間

部分断面模型



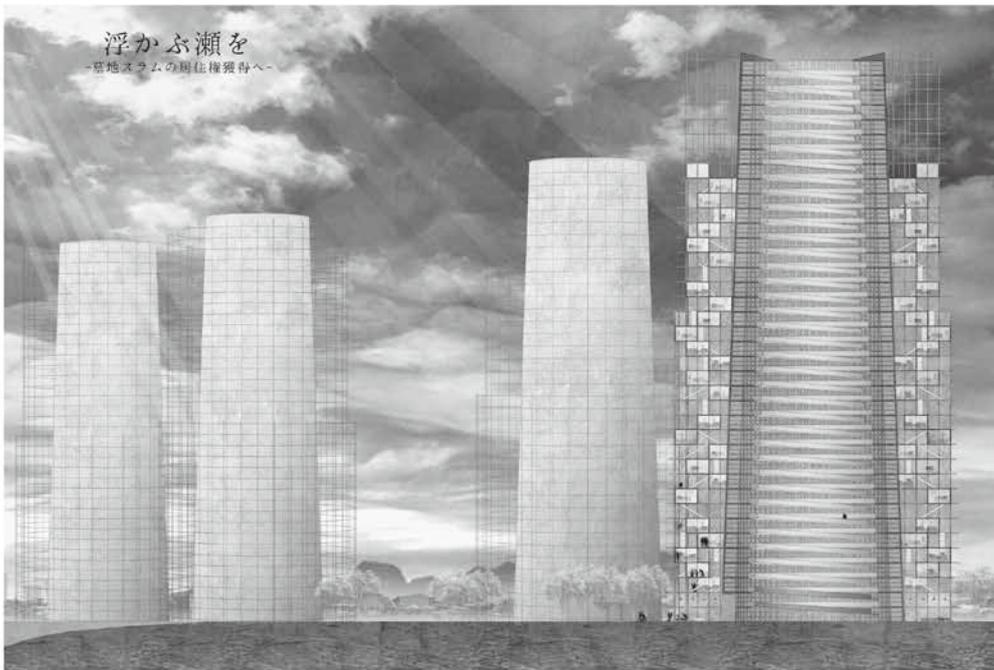
は人口の37%と400万人以上がスラム  
居住者であるといわれている。

中でも「ナボタス墓地スラム」は有  
名だ。彼らは墓地に住み、無数の骨の  
山とともに暮らし、スクラップをマニ  
ラまで売りに出向くなど墓の管理を  
して生活している。このような生活は  
世界でも数少なく貴重な文化といえる  
だろう。だが政府は立ち退きを検討し  
ており貴重な文化が失われそうになっ  
ている。

数少ない生きる術を見つけ、汚いと  
される仕事の中、必死で生きる彼ら  
の姿は他の誰よりも美しいはずだ。そ  
んな彼らの文化を守るため地域に認め  
られる存在へ近づき成長する建築を提  
案する。

三枝 晃

先進国へ追いつこうとめまぐるしい  
発展を遂げる途上国。彼らの多くは発  
展とともに貧困層をつくり格差を広げ  
てしまった。そして貧困層の最たる  
スラムが都市近郊に形成されることにな  
ってしまった。とくにフィリピンのス  
ラム化が深刻な問題とされ、マニラで



Basic plan 01  
墓地スラムに「生産性」を生み出すことで保護していく

**既所得者のための高層墓地施設**

経済成長に伴う人口増加、増える遺体。都市近郊に住む既所得者の「死の受け皿」を墓の拡張により受け止める。

**1時産業を担う肥料加工施設へ**

契約切れの遺骨をゴクとして扱うのではなく骨粉化し海への肥料として活用する。遺骨量の増加によってフィリピンの市場が活性化化する。

**墓地スラムの文化を保護する**

一つの生活文化として形成された墓地スラムを壊さず墓と共に暮らしてきた歴史を伝わり方と形状に残しコミュニティ形態を継承していく。

このような貧しい地域が社会の一部を支えている現実をナボタスという地からは感じられる。

**現状**

人→遺体→骨 人から墓へと逝く儀式的行為を終て人の価値は終わってしまう。

**提案**

人→遺体→骨→肥料化

骨粉化 海に散骨 海洋生物の活性化

農業 肥沃な土壌 農作物

肉

食として人々に還元される

**Basic plan 02**  
「墓地スラムの生活水準」を段階的にあげられる施設へ

生活文化を残しつつも、彼らには安定的な収入の確保と人としての尊厳を取り戻す必要があると考える。そこで既存の墓関連の職に加え、海岸沿いという地理的環境から漁業関連の職の場を与える。さらに住民同士のつながりが生まれることでスラム全体の生活水準向上を段階的に目指していく。

**Phase 1** 安定した収入の確立

**Phase 2** 街の再生環境の向上

**Phase 3** 住民の他へ関心と交流のきっかけを作る

**Building plan 01**  
墓地にまで広がる「スラム化」

既存の墓と住宅

墓ヴォリュームの集合体が無数の列となり敷地に敷き詰められている

**提案**

Phase 1 Phase 2 Phase 3

墓を植層させるための基礎部を掘った塔を足場を建設する。

足場は解体せず構造体として活用する。住民は足場を破壊しながら層を重ねていく。

**Building plan 02**  
墓地の上に伸ばし「未来への余地空間」を生む

現状のナボタス墓地

新たなナボタス墓地

平面へ限界まで広がり私設性が失われた

墓地を立体的に展開する

新たに活用できる余地空間が形成。住民は農業など新たな職の場を得る

**Building plan 03**  
死臭を上空へ逃す

日射熱により塔は暖められ上昇気流が発生し、近隣住民に影響がでていた腐敗臭を上空へ拡散させる。

**Floor plan**  
セルフビルドが塔を開き込む

1階 商業エントランス

2-3階 住宅ヴォリューム

1-3階 セルフビルド足場

一階には店舗が並び、住居の屋根は次の階の市場が形成。求心的な動線で落ち着きを与える。

住居の屋根は次の階の市場が形成。求心的な動線で落ち着きを与える。また共同体として自然に動線ができる。

塔を建てる際に組まれた足場が建てられる際に使われる。外装を穿うように現れる。

足場を使い住居はセルフビルドされる。

渡辺真理恵

1. はじめに—フクシマから福島へ。—

2011年3月11日14時46分に東北地方太平洋沖地震が起こった。3月12日には福島県第一原子力発電所での水蒸気爆発がおこった。その結果放射性物質が飛び散った。福島県は避難指示を出し近隣住民をすべて他の地域へと移動

させた。他の地域へ避難の際に津波被害を受けたままの形で住宅を放置した。そのため避難指示が解除された現在、復興が遅れている。

本計画では、帰る意思がありながらも諦めている人々に向け、住まい方と職の復活を見据えた施設を有した、復興集落を提案するものである。

2. 計画背景—住宅問題による帰宅のためらい—

津波による被害も凄まじいものであった。しかし、現在の問題は個人住宅の放置による老朽化である。そこで帰還に対して意欲を示している高齢者が入居できる住宅が必要とされている。

3. 敷地選定—福島県富岡町—

敷地は富岡川の河口に位置している。漁師や農家が本計画を中心として、発

展していけるようどちらへも伸びることが可能な土地である。

4. 基本計画—多世代に合わせた時間スパン—

4.1 1期(現在)

高齢者のニーズに合わせ、即座に入居でき、低コストである住宅を築く。また、この集落でできたものを発信することを目標に農家や漁師、特産である桜染めを作る機能をもたせた施設を生業家として配置する。生業家は高齢者のライフルーティーンとして活気をもたせ、自治に頼らない組織ができる。

4.2 2期(1~2年後)

集落から発信された作物を発信することで、この集落にフォロワーが増える。また、1期で入居した高齢者の家族がお盆やお正月などで訪れ宿泊する

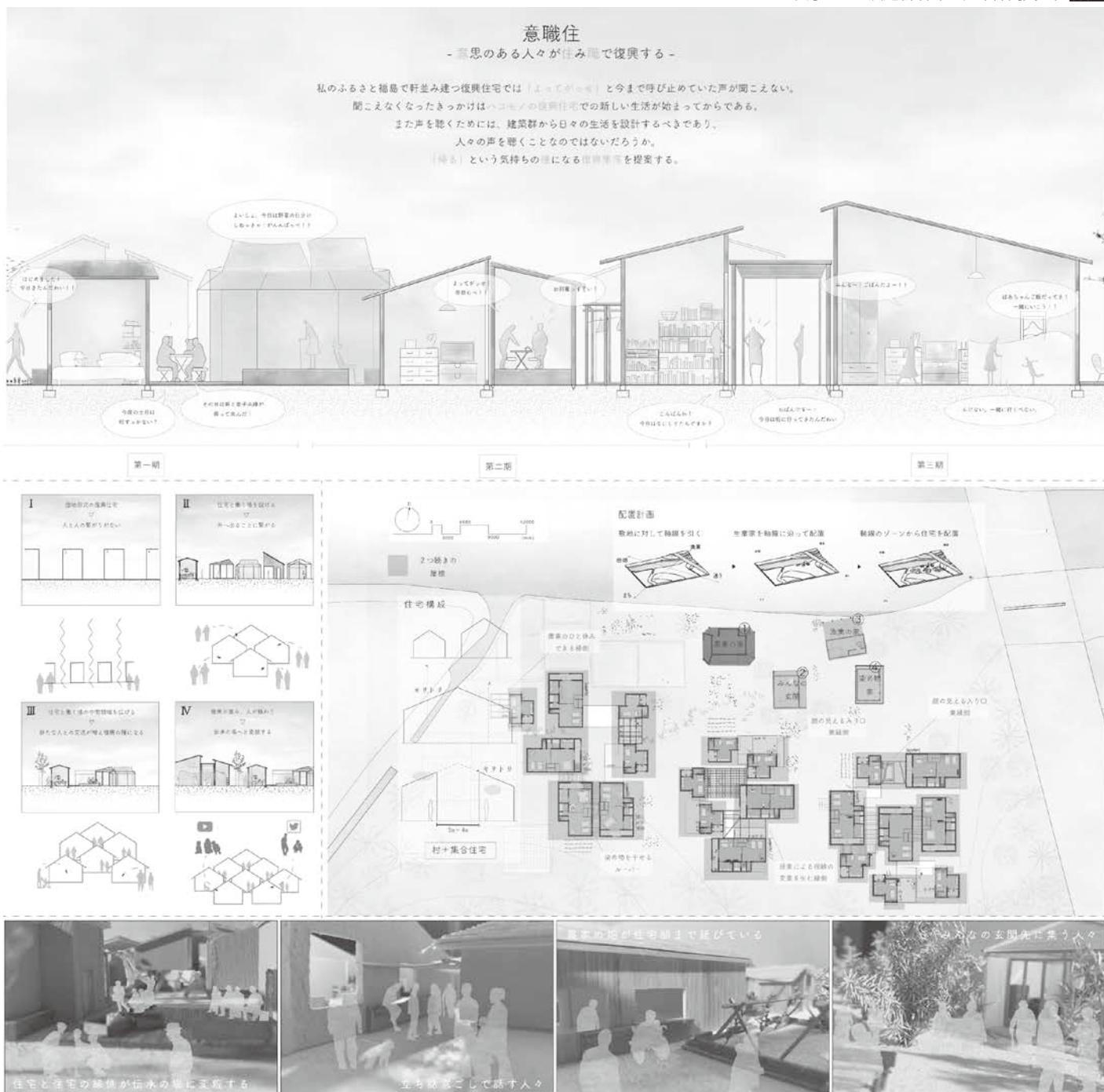
ための家ができれば始める。その際に生業家で採れた作物を食べ自分の目で帰還を現実的に捉えることが可能となる。

4.3 3期(2~4年後)

帰還の意思のある人々が帰還を果たす。そして、この集落は外のフォロワーが農家や漁師、染め物を体験できる場として変貌する。

5. 建築計画—シェアハウスの集落—

コミュニティが分断されてしまった、復興住宅ではなく、顔の見える集落を築く。手法としては日常的相手を感じることができる位置に開口を設ける。また屋根の一部が路地までかかり、外と内を曖昧にし、住宅は必要最低限の面積にすることで外に出る意欲をもたせる。



# 雫の紡ぎ手

—ソマリアに建つ水を自給自足するウェルネスクャンプの提案—

しかし近年の地球温暖化により、世界は深刻な水不足に陥っている。

地球が温暖に保たれているのは地球を取り巻く大気層が存在しているからである。しかし、近年この大気層の温室効果ガスの濃度が急激に増加し、地球の平均気温が上昇している。これが地球温暖化と呼ばれる現象である。さらに気温が上昇して水資源が蒸発してしまうことによって大気中の水分量が増加している。それにより地球の平均気温が上昇し、さらに地球温暖化と水不足を加速させるという悪循環に陥っている。

水不足による被害は甚大で、とくに干ばつに見舞われている地域ではその被害が顕著に現れている。ある国では、

国民の7割以上が感染症の危険がある水を飲まざるを得ない状況にある。また、作物の収穫量が減少し、食料の物価が上がり食べ物に有り付くことができない人も大勢発生している。

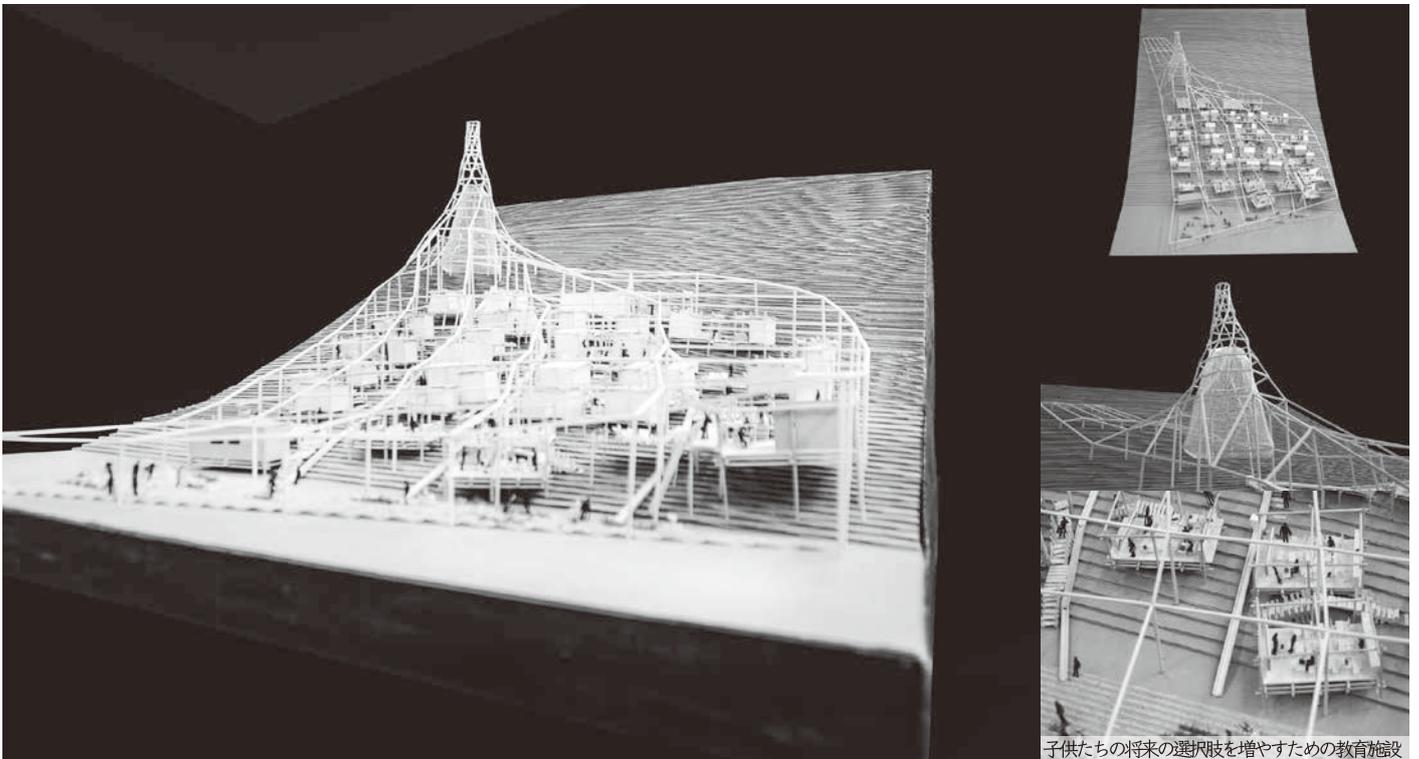
このような状況を受けて、水不足で苦しんでいる人たちに、十分な量の清潔な水を供給する必要があると考えられる。

本提案では清潔な水を得るために、大気中から集水するシステムを建築内に設置する。さらに難民に対し医療措置を施す医療施設と、学校に行くことができない子どもに、教育を受ける機会を与えるための学校施設を設計する。本計画では、大気中の水分と共存する生活手法を提案する。

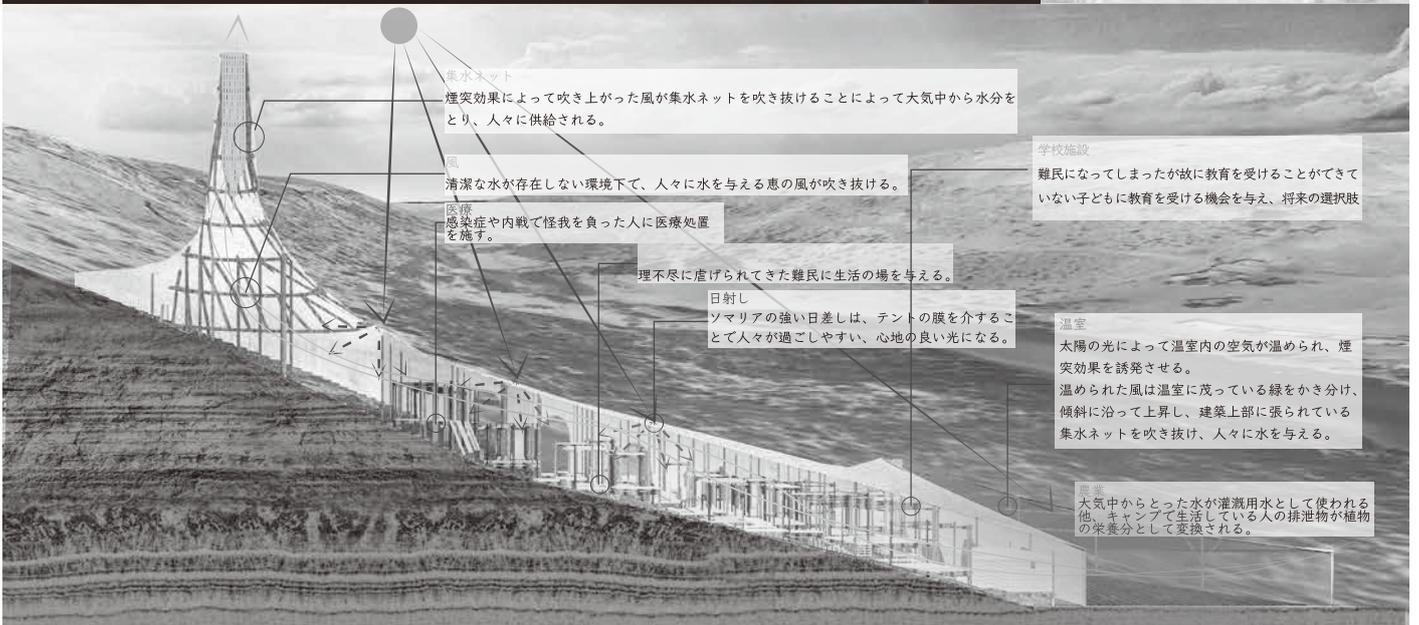
高橋遼太郎

水がなくては生きることができない。

赤レンガ卒業設計展2019 審査員賞



子供たちの将来の選択肢を増やすための教育施設



修士設計

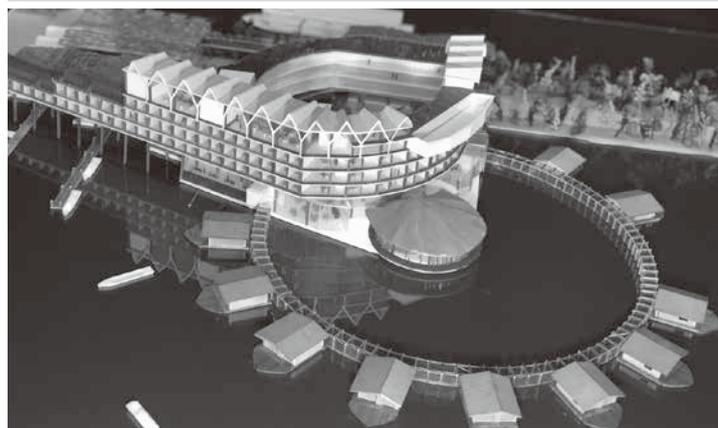
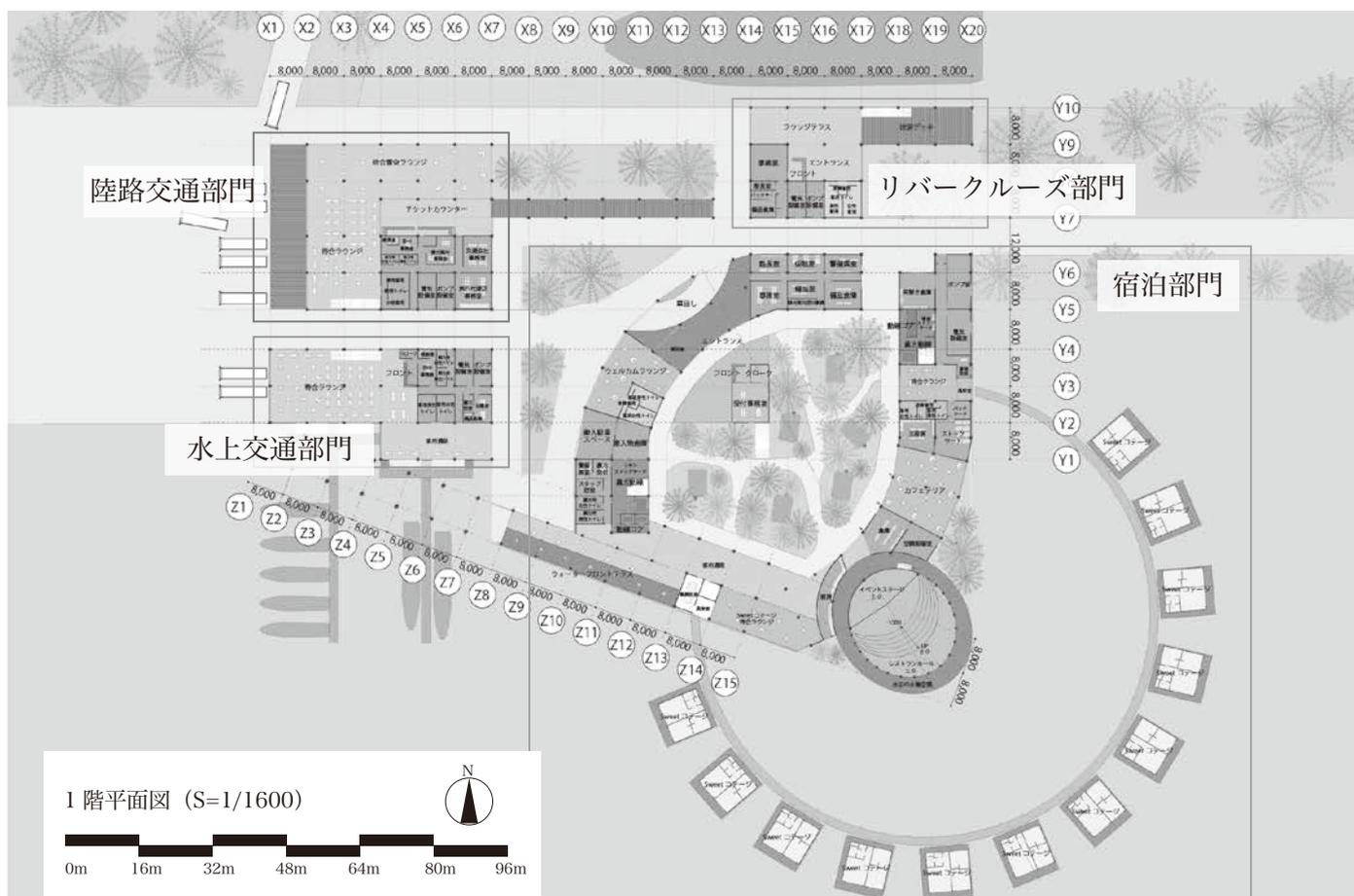
## カンボジア王国シュムリアップ州における観光施設計画

— トンレサップ湖の複合水上交通拠点の設計 —

カンボジア王国は東南アジアにおいて経済成長が著しい国の1つである。カンボジア王国の実質 GDP 成長率は2011年以降6.8%以上を維持し続けており、安定的な経済成長を実現している。この高成長率はカンボジア国内における製造業と観光業の拡大によって牽引されている。カンボジア王国は1991年にカンボジア内戦が終結、1992年にアンコール遺跡が UNESCO 世界文化遺産に登録されたことで世界中から注目された。また治安の安定化や観光開発が進むことで、今後の経済成長をますます進める要素となると考えられる。

カンボジア政府は2020年までに観光客数を700万人、観光収入額を50億ド

上田紗矢香



全体俯瞰



コテージ内部からの見え

ルに引き上げる目標を設定している。これに対してフン・セン首相はリゾートホテル建設やカンボジア王国と各国を結ぶ直行便の誘致活動に尽力し、政策を進めてきた。

とくにカンボジア王国第二の都市であるシェムリアップではアジアを代表する観光都市として外国人観光客を積極的に誘致している。一方で現在のカンボジア観光において、多くの観光客はシェムリアップのアンコール遺跡のみを周遊することで完結してしまっている。観光収入額の引き上げに向けてカンボジア観光はアンコール遺跡のあるシェムリアップだけでなく、複数の都市へ観光客を誘引していく必要がある。そのためカンボジア政府はアンコ

ールワット遺跡以外の観光資源として、トンレサップ湖のフローティングヴィレッジ、バタンパンのグリーンツーリズム、プノンペンのキリングフィールドなどより広いエリアへの観光誘致を呼びかけている。

そのためには観光資源の開拓と並行して、国内における年中安定した交通の整備が課題となっている。熱帯モンスーン気候に属するカンボジアでは、雨季になるとスコールと呼ばれる強い雨に悩まされる。激しい豪雨によって遅延する空路や、水はげが悪くぬかるみやすい道を通過しなければならない陸路は雨季の安定した交通の供給が困難である。そのため今後既存の交通と並行して新たな交通が必要とされてい

る。そこで雨季の交通手段として水上交通を提案する。水上交通が普及することで、スコールの影響を受けずに国内を移動することが可能となる。さらに陸路交通と水上交通の連携が大切である。そのためには水と陸の異なる2つの交通を相互に乗り換えられる場所が必要である。連携を取り合う2つの交通が普及することで、乾季と雨季にとらわれずカンボジア国内を周遊することが可能となる。

以上を踏まえ、本提案では5つの州にまたがるトンレサップ湖沿岸部の主要都市をつなぐ湖水上交通のための施設を計画する。こうした水上交通の普及によってシェムリアップ、バタンパン、プノンペンの3つの都市に観光

客を誘致していく。そのため本提案ではトンレサップ湖沿岸部に3カ所の乗船場を設置する。その中で本計画ではアンコール遺跡との連携を図ることが可能なシェムリアップ地域の乗船場についての設計を行う。

水上交通に加えて本施設に宿泊機能や観光機能を併設することにより、観光客は滞在を通じてカンボジア文化に触れることができる。また本施設がトンレサップ湖沿岸に建設されることで、地元住民にとっての新たな雇用の場所となる。さらにトンレサップ湖沿岸に広がる水上居住文化が観光資源として活用されることで、カンボジアの風土に対応した建築形態の保存を目指すものである。

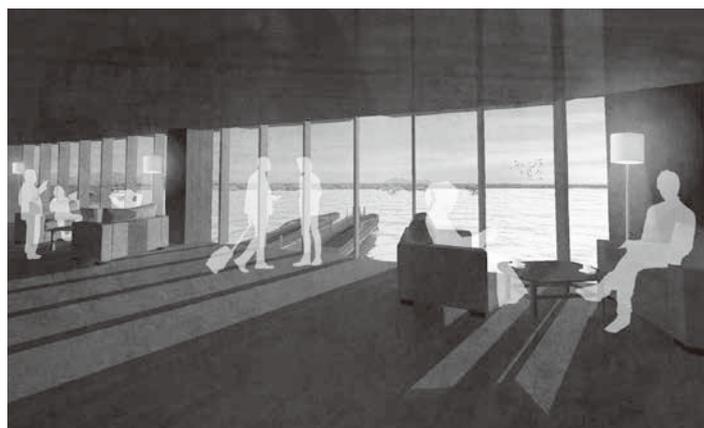
第42回レモン展 出展



A-A' 断面図 (S=1/1400)



B-B' 断面図 (S=1/1400)



水上交通エリアからの見え



ホテルエリア中庭からの見え

修士設計

## 統合型リゾートとしての 横浜市山下ふ頭開発計画 —日本文化をテーマとした複合観 光施設的设计—

蒲生良輔

日本のMICE施設は稼働率が高く、5年先の開催予定まで埋まっているMICE施設も存在している。しかしながら、MICE施設は立地が都市部から離れていたり、周辺に観光施設のない地域に位置している場合が多い。MICEの「C (Convention)」と「E (Exhibition)」のための施設は整備されているが、「I (Incentive)」と「M

(Meeting)」のための施設が不足しているのが現状である。結果として、MICE参加者が二次的な観光を行うことができず、波及効果が薄れてしまうという欠点を持っている。つまり日本のMICE施設は宿泊業等の関連産業との連携・併設がない単独で運営しているものが多く、利用者は周辺から離れた宿泊施設まで移動しなくてはならない。

さらに、MICE参加者の中には超富裕層と呼ばれる超高所得階層が一定数存在するが、日本の都市部において5つ星ホテルはほとんど存在していない。これらは世界と比較しても圧倒的に不足している状態である。こうした要因により、経済的波及効果の高い超富裕

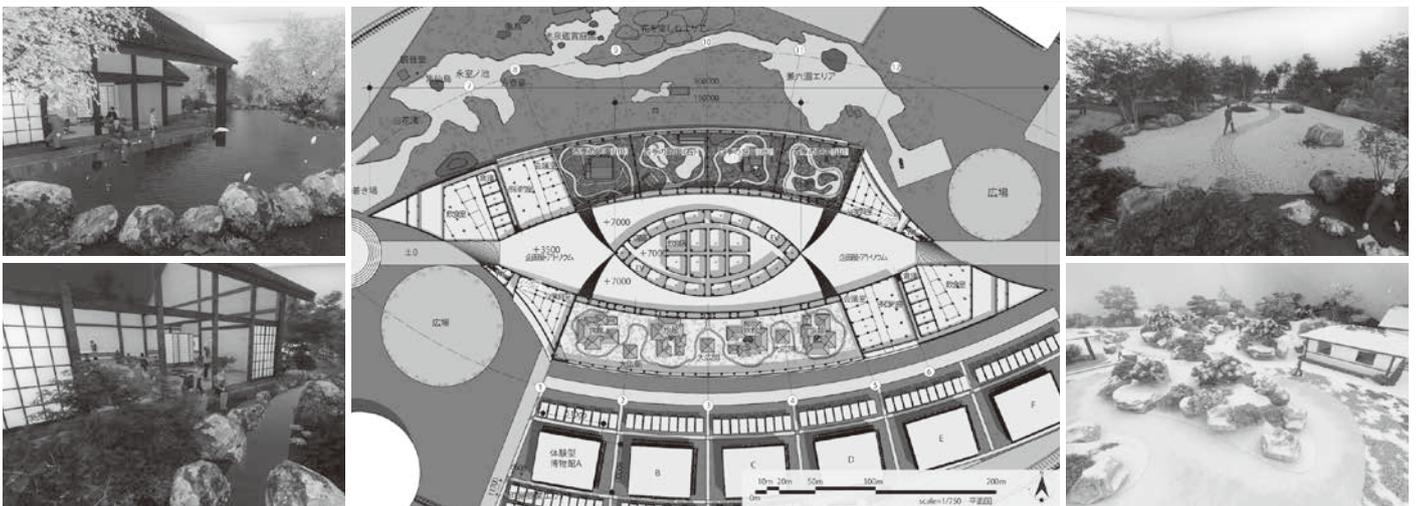
層を呼び込む絶好の機会であるにも関わらず、MICE施設と周辺環境の解離により、機会損失が発生している。

本提案では、MICE施設の経済的波及効果を有効に周辺地域に還元すべく、ケーススタディとして横浜の山下埠頭に統合型リゾートの計画を行う。山下埠頭は日本を代表するMICE施設であるパシフィック横浜のそばに位置しており、さらには東京湾に面しているため、周辺地域と連携した運営を行うことが可能である。また、周辺には観光名所となっている三溪園やカップヌードルミュージアム、中華街などがあり、MICE参加者の二次的な観光を促し、周辺地域に波及効果を促すことが可能となる。一方で訪日外国人に人気

の高い、日本的文化財が横浜には少ないのが現状である。

そこで提案では、MICE施設および日本文化を体験できる商業・文化・宿泊施設を計画する。具体的には高級旅館・日本庭園・四季の植物園・日本文化博物館・伝統工芸店舗を中心に構成し、海沿いにはシーバスターミナル・マリナー・高級ホテル等を有する総合複合施設とする。そうすることで、利用者に長期滞在の快適性と文化体験を提供し、パシフィック横浜に足りないインセンティブを付加するものとする。また宿泊業観光業研修施設を併設することで日本の観光業を国際化するための人材不足を補うことも目的とした複合観光拠点を提案する。

## 統合型リゾートとしての横浜市山下ふ頭開発計画 —日本文化をテーマとした複合観光施設的设计—



修士設計

## 沖合漁業を対象とした浮体式水産基地の提案

—小笠原諸島父島沖における物流及び観光拠点の設計—

### 永富 快

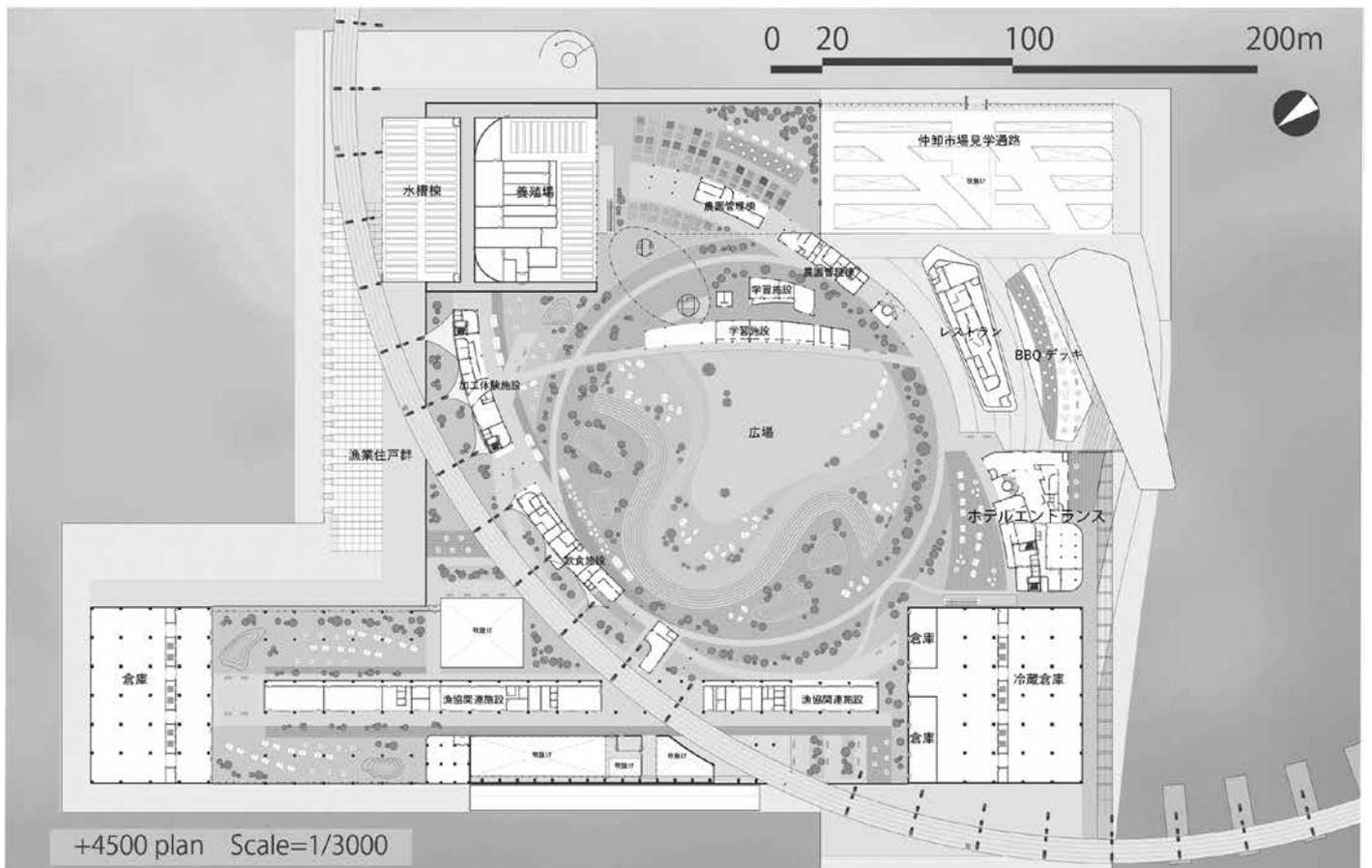
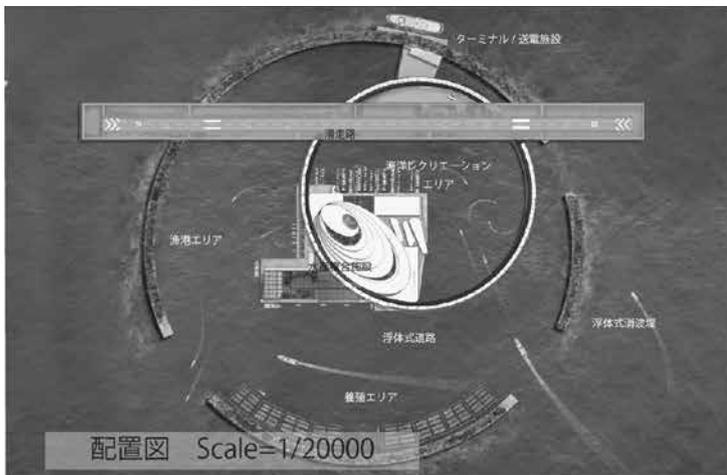
わが国は領海と排他的経済水域を合わせた面積は世界6位の広さを有しており、海洋資源のポテンシャルが高い国である。世界的に水産生産量が増加する中、わが国の水産業は衰退が進んでいる。とくに沖合遠洋漁業の漁獲量の減少は顕著である。わが国の漁港数は平成30年4月時点で2,823港であり水揚げから加工まで行える拠点漁港は101港となっている。本土を離れて豊かな漁場に隣接する離島などには拠点漁港は少ない。そのため、水産物が消費地に届くまで複数の市場を経るため漁価が高騰する。水揚げ時点では安い

値段で取引され、消費者には何倍もの値段がつく現状がある。そのため豊かな漁場に囲まれた沖合において生産から流通まで一体的に行える流通拠点漁港が必要であると考えます。

農林水産省は2019年末までの農林水産物の輸出目標として1兆円を掲げている。それに伴い、成田空港に隣接する成田市公設地方卸売市場では産地市場から水産物を集積し海外への空輸を迅速に行う整備を進めている。水産物の輸出にあたっては、水産加工・流通施設が輸出先国の求める衛生条件を満たすことが必要である。そのため世界に通用する HACCP 基準を満たすための施設が海外への輸出促進のために求められている。

本計画では小笠原諸島周辺海域に離島産業振興施設のケーススタディとして水産物の流通拠点となる浮体式水産基地を提案する。本提案では大きく4つの計画を行う。1つ目として、沖合における漁場を活用するための最前線となる漁業基地として計画する。2つ目に施設内において生産から流通まで一体となった計画を行う。3つ目として海洋再生エネルギーを活用することで自律的な建築を計画する。4つ目としてメガフロートでの滑走路を計画するものである。

本提案の浮体式水産基地を通じて沖合から鮮度の保持された水産物を海外へ輸出することで日本が水産物の輸出大国となることを目指す。



## ■コンペ受賞歴一覧

**日本一** 33作品 (卒業設計 22作品、建築学会コンペ 1作品、その他のコンペ 10作品)

**日本二** 21作品 (卒業設計 2作品、建築学会コンペ 4作品、その他のコンペ 15作品)

**日本三** 12作品 (卒業設計 1作品、建築学会コンペ 5作品、その他のコンペ 6作品)

その他受賞数 347作品

| 年度    | 卒業設計(●)/修士設計(○)  | 建築学会コンペ   | その他のコンペ   |
|-------|--|---|---|
| 昭和52年 | ●第10回毎日・DAS 学生デザイン賞<br>・最優秀賞「金の卵」賞/石渡孝夫(建築学科海洋コース) <b>日本一</b>  |   |   |
| 53    | ●第11回毎日・DAS 学生デザイン賞<br>・最優秀賞「金の卵」賞/富田善弘(建築学科海洋コース) <b>日本一</b>  |   |   |
| 54    | ●第12回毎日・DAS 学生デザイン賞<br>・最優秀賞「金の卵」賞/小林直明(建築学科海洋コース) <b>日本一</b>  |   |   |
| 56    | ●第14回毎日・DAS 学生デザイン賞<br>・最優秀賞「金の卵」賞/吉本宏 <b>日本一</b><br>・同入選/松本康治   |   |   |
| 57    | ●第15回毎日・DAS 学生デザイン賞<br>・建築部門賞/稲村健一 <b>日本一</b>  | ●「地場産業振興のための拠点施設」<br>・支部入選/鈴木洋一   |   |
| 58    | ●第16回毎日・DAS 学生デザイン賞<br>・最優秀賞「金の卵」賞/遠藤卓郎 <b>日本一</b><br>○(財)日本港湾協会主催マリノポリス計画コンテスト<br>・優秀特別賞/川口利之                   | ●「国際学生交流センター」<br>・全国入選佳作/稲村健一<br>・支部入選/大久保豪、杉田祐之、花岡豊、星野博史   |   |
| 59    | ○第17回毎日・DAS 学生デザイン賞<br>・入選/稲村健一  |   | ●第11回日新工業設計競技「ノアの箱船」<br>・3等/遠藤卓郎、岩崎博一 <b>日本三</b><br>●R.I.B.A 英国王立建築家協会国際学生デザインコンペ<br>・入賞/中村耕史、秋江康弘、稲村健一<br>●第19回セントラル硝子国際設計競技「グラスタワー」<br>・佳作/秋江康弘<br>●三井ホーム住宅設計競技「2×4による新しい住まい」<br>・佳作/川口利之、菅沼徹、高井毅<br>●桜門建築会第1回学生設計コンクール「建築学生交流センター」<br>・佳作/稲村健一 |
| 60    | ●第18回毎日・DAS 学生デザイン賞<br>・入選/富田誠   | ●「商店街における地域のアゴラ」<br>・全国入選3等/藤沢仲佳、柳泰彦、林和樹 <b>日本三</b>   | ●A.I.A アメリカ建築家協会国際学生コンペ<br>・2等/秋江康弘 <b>日本二</b>  |
| 61    | ●第19回毎日・DAS 学生デザイン賞<br>・入選/小野正人  | ●「外国に建てる日本文化センター」<br>・全国入選3等/小林達也、佐藤信治、小川克巳 <b>日本三</b><br>・支部入選/渋谷文幸<br>・支部入選/林和樹、鶴飼聡(建築)、高橋義弘(建築)                            | ●桜門建築会第2回学生設計コンクール「桜門校友クラブ」<br>・1等/山崎淳一、松尾茂<br>・佳作/小林達也、佐藤信治<br>●第6回ホクストン建築装飾デザインコンクール「まちなかの公共トイレ」<br>・佳作/小林達也  |
| 62    | ●第20回毎日・DAS 学生デザイン賞<br>・入選/海老澤克  | ●「建築博物館」<br>・支部入選/松尾茂、横堀士郎、石川仁、鳥海清二(建築)<br>・支部入選/小野正人、小沢一実、渡邊俊幸   | ●ミサワホーム住宅設計競技<br>・入選/小林達也   |
| 63    | ●千葉県建築三学生会賞<br>・銅賞/近藤陽次 <b>地域三</b><br>・奨励賞/毛見究   | ●「わが町のウォーターフロント」<br>・全国入選1等/新岡英一、橋本樹宜、丹羽雄一(建築)、毛見究、草薙茂雄 <b>日本一</b><br>・全国入選佳作/團部智英、石川和浩、原田庄一郎<br>・支部入選/松尾茂、山本和清<br>・支部入選/岩川卓也 | ●'88膜構造デザインコンペ<br>・佳作/山口明彦<br>●第2回千葉ふるさと住宅設計コンクール<br>・佳作/川村佳之<br>●桜門建築会第3回学生設計コンクール「ゲストハウス」<br>・1等/山口明彦、原利明(建築)、渡辺一雄(建築)<br>・2等/加藤麻生<br>・3等/飯田隆弘、丹羽雄一(建築)、有馬哲也(建築)<br>・佳作/小堀泰毅、伊藤剛<br>・佳作/長谷川晃三郎、佐久間明   |
| 平成1年  | ●第22回毎日・DAS 学生デザイン賞<br>・建築部門賞/長谷川晃三郎 <b>日本一</b><br>・入選/佐久間明<br>●千葉県建築三学生会賞<br>・金賞/佐久間明 <b>地域三</b><br>・奨励賞/長谷川晃三郎 | ●「ふるさとの芸能空間」<br>・全国入選2等/新岡英一、長谷川晃三郎、佐久間明、岡里潤 <b>日本二</b><br>・全国入選3等/丹羽雄一(建築)、益田勝郎 <b>日本三</b>                                   | ●石川県建築士会設計競技「垂直複合体」<br>・1等/矢野一志、佐藤教明、菊池貴紀、廣川雅樹、安田友彦、鈴木宏佑 <b>日本一</b><br>●第1回横浜アーバンデザイン国際コンペ<br>・選外入選/長谷川晃三郎<br>●第3回千葉ふるさと住宅設計コンクール「安全で魅力ある三世代住宅」<br>・入選/山本和清   |

| 年度   | 卒業設計(●)・修士設計(○)  | 建築学会コンペ   | その他のコンペ   |
|------|--|---|---|
| 平成2年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第23回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・入選/山口哲也</li> <li>●千葉県建築四会学生賞</li> <li>・金賞/矢野一志 <b>地域二</b></li> <li>・銅賞/山口哲也 <b>地域三</b></li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「交流の場としてのわが駅わが駅前」</li> <li>・全国入選2等/植竹和弘、根岸延行(建築)、中西邦弘(建築) <b>日本二</b></li> <li>・全国入選3等/飯田隆弘、佐藤教明、山口哲也 <b>日本三</b></li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●石川県建築士会設計競技「海に浮かぶ市場」</li> <li>・3等/川久保智康、野沢良太 <b>日本三</b></li> <li>●第2回横浜アーバンデザイン国際コンペ「ウォーターフロントの再生に向けて」</li> <li>・佳作/矢野一志、佐藤教明、大坪一之、屋田直樹、佐藤滋晃、菊池貴紀、菅野聡明、門脇桂子、馬場昭光</li> <li>●BAY'90デザインコンペ (BAY'90開催記念学生建築設計競技)</li> <li>・優秀賞/佐久間明 <b>日本二</b></li> <li>・佳作/益田勝郎</li> <li>●桜門建築会第4回学生設計コンクール「建築家ギャラリー」</li> <li>・2等/岡里潤、寺尾浩康、馬場昭光</li> <li>・佳作/植竹和弘、白石充、根岸延行(建築)</li> <li>・佳作/山口哲也、佐藤教明</li> <li>・佳作/広部剛司、佐藤岳志、菅浩康</li> <li>●第10回ホクストン建築装飾デザインコンペ「都市公園に建つフォーリー」</li> <li>・佳作/武田和之、岡里潤</li> </ul>   |
| 3    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第24回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・建築部門賞/高橋武志 <b>日本二</b></li> <li>●千葉県建築三会学生賞</li> <li>・金賞/高橋武志 <b>地域二</b></li> <li>・奨励賞/廣川雅樹</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「都市の森」</li> <li>・1部全国入選2等/山口哲也、河本憲一、廣川雅樹、日下部仁志、伊藤康史、高橋武志 <b>日本二</b></li> <li>・2部全国入選最優秀/片桐岳志</li> <li>・2部支部入選/布川亨、八代国彦(建築)、堤秀樹</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●JIA オープンデザインコンペ「都市の解体と再構築」</li> <li>・1等/佐藤教明、山口哲也、木口英俊 <b>日本一</b></li> <li>・佳作/川久保智康、野沢良太</li> <li>●'91メンブレインデザインコンペ「アーバンビルとメンブレイン」</li> <li>・最優秀賞/河本憲一、石井昭博、関戸浩二、福田昌弘 <b>日本一</b></li> <li>●第2回長谷エイメージデザインコンペ「現代の夢殿」</li> <li>・入選/川添隆史、渡辺千香子</li> <li>●第18回日新工業建築設計競技「都市空間の再生計画」</li> <li>・入選/川久保智康、野沢良太、花沢真哉、高山一頼、伊藤裕、森泉尚之、額村康博、布川亨、八代国彦(建築)</li> <li>●第3回タキロンデザインコンペ「時代の風をほらむ都市装置」</li> <li>・3等/降旗恭子、黒田佳代 <b>日本三</b></li> <li>・入選/木口英俊</li> <li>●第5回千葉ふるさと住宅設計コンクール「共働き家族のための住宅」</li> <li>・奨励賞/川添隆史</li> <li>●第2回学生のためのフレッシュデザインコンペ</li> <li>・フレッシュデザイン賞/木口英俊、渡辺昇</li> <li>●1991第1回 BUFF 国際建築デザインコンペ「東京の住まい」</li> <li>・佳作/佐藤教明</li> </ul>   |
| 4    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第25回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・建築部門賞/片桐岳志 <b>日本二</b></li> <li>・入選/寶田陵</li> <li>●千葉県建築三会学生賞</li> <li>・金賞/片桐岳志 <b>地域二</b></li> <li>・銅賞/寶田陵 <b>地域二</b></li> <li>●東京ガス・銀座ポケットパーク「卒業設計制作展」</li> <li>第10回記念『1993卒業設計制作大賞』</li> <li>・金賞/寶田陵 <b>日本一</b></li> <li>・銅賞/片桐岳志 <b>日本三</b></li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「わが町のタウンカレッジをつくる」</li> <li>・1部全国入選3等/佐藤教明、木口英俊 <b>日本三</b></li> <li>・1部全国入選佳作/廣川雅樹、寶田陵</li> <li>・1部支部入選/山口哲也、河本憲一</li> <li>・1部支部入選/木口英俊、高橋武志</li> <li>・2部支部入選/関谷和則、石渡義隆</li> <li>・2部支部入選/平崎彰、望月喜之</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●盛岡・水辺のデザイン大賞</li> <li>・専門部門佳作/佐藤信治、河本憲一、廣川雅樹、伊藤康史、日下部仁志、高橋武志、伊藤賢</li> <li>●奈良・TOTO 世界建築トリエンナーレ</li> <li>・佳作/川久保智康、野沢良太、永島元秀</li> <li>●'92メンブレインデザインコンペ「オートキャンプ場」</li> <li>・2等/片桐岳志 <b>日本二</b></li> <li>・佳作/高橋武志、関戸浩二</li> <li>●桜門建築会第5回学生設計コンクール「わがヒーローとの出会い」</li> <li>・2等/片桐岳志、岡田和紀</li> <li>●アーキテクチュア・フェア KOBE 学生設計競技「神戸・学園東地域福祉センター」</li> <li>・佳作/吉田幸正</li> <li>●川鉄デザインコンペ'92</li> <li>・佳作/三輪政幸</li> <li>●第3回学生のためのフレッシュデザインコンペ</li> <li>・フレッシュデザイン賞/佐藤教明</li> <li>●第19回日新工業建築設計競技「記憶の住む家」</li> <li>・佳作/野沢良太</li> <li>●1992第2回 BUFF 国際建築デザインコンペ「東京屋台空間」</li> <li>・佳作/竹内大介、高山一頼、穴倉尚行</li> <li>●DYNAX 第2回建築学生・設計大賞'92「〈太陽・月・炎〉の家」</li> <li>・奨励賞/竹内大介、高山一頼、穴倉尚行</li> <li>・奨励賞/石井昭博、寶田陵、西上順久</li> <li>●第4回タキロン国際デザインコンペ「風の道・水の道」</li> <li>・3等/山口哲也、川久保智康、木口英俊、永島元秀、布川亨 <b>日本三</b></li> <li>・3等/高橋武志、石井昭博 <b>日本三</b></li> <li>●1992新建築住宅設計競技「スタイルのない住宅」</li> <li>・佳作/川久保智康、高山一頼</li> <li>●「(仮称)中原中也記念館公開設計競技」</li> <li>・佳作/山口哲也、木口英俊</li> </ul> |
| 5    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第26回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・洋々賞/吉田幸正 <b>日本二</b></li> <li>・入選/関谷和則</li> <li>●千葉県建築三会学生賞</li> <li>・金賞/関谷和則 <b>地域二</b></li> <li>・銀賞/吉田幸正 <b>地域二</b></li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「川のある風景」</li> <li>・1部全国入選佳作/片桐岳志、小野和幸</li> <li>・1部支部入選/石井昭博、林正輝、福田昌弘、山口泰永</li> <li>・2部全国入選佳作/橋本廉太郎、神蔵良隆、藤生利道</li> <li>・2部全国入選佳作/関谷和則、三輪政幸</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●石川県建築士会設計競技「21世紀の公園」</li> <li>・佳作/片桐岳志</li> <li>●第4回長谷エイメージデザインコンペ「現代のさや堂」</li> <li>・入選/片桐岳志</li> <li>●JIA 東海・北陸支部第10回設計競技「磐座〜いわくら〜」</li> <li>・銀賞/田中宏、岡田和紀、澤田憲子、倉川友紀 <b>日本二</b></li> <li>・佳作/岡田和紀、田中宏、澤田憲子、倉川友紀</li> <li>●新知的生産環境1993デザインコンペティション「グループによる新しい知的生産環境の在り方」</li> <li>・優秀賞/小野和幸 <b>日本二</b></li> <li>●第4回学生のためのフレッシュデザインコンペ</li> <li>・フレッシュデザイン賞/岡田和紀、田中宏、木口英俊、川久保智康</li> </ul>   |

| 年度   | 卒業設計(●)/修士設計(○)  | 建築学会コンペ   | その他のコンペ   |
|------|--|---|---|
| 平成6年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第27回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/清水信友</li> <li>・入選/戸國義直</li> </ul> </li> <li>●千葉県建築三会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・金賞/清水信友 <b>地域三</b></li> </ul> </li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「21世紀の集住体」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1部支部入選/小野和幸、田村裕彦、高野勇治(建築)、國武陽一郎(建築)</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●まちづくりコンクール'94「都市を水からデザイン」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/関谷和則、石渡義隆、館吉保 <b>日本二</b></li> <li>・佳作/田村裕彦、岡田和紀、小野和幸、鳥居延行</li> <li>・特別賞/井上真樹、馬淵晃</li> </ul> </li> <li>●桜門建築会第6回学生設計コンクール「磯野家のすまい」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/小野和幸、井上真樹、小山貴雄</li> </ul> </li> <li>●川鉄デザインコンペ'94 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生大賞/関谷和則、石渡義隆、館吉保 <b>日本一</b></li> </ul> </li> <li>●小山市城東地区街角広場デザインコンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/坪山幸王、佐藤信治、石井昭博、林正輝、福田昌弘、石渡義隆、関谷和則、館吉保、清水信友</li> </ul> </li> <li>●新知的生産環境1994デザインコンペティション「高齢者のための新しい知的生産環境の在り方」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入賞/小野和幸</li> </ul> </li> <li>●第1回 ARCASIA 学生賞1994「永続性ある発展を目指した都市居住と住宅改革」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/小野和幸、高野勇治(建築)、岡田和紀、山越寧(建築) <b>日本二</b></li> </ul> </li> </ul>  |
| 7    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第28回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/田村裕彦</li> </ul> </li> <li>●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・銅賞/浦野雄一 <b>地域三</b></li> <li>・奨励賞/田中厚三</li> </ul> </li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「テンポラリー・ハウジング」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1部支部入選/清水信友</li> </ul> </li> </ul>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●JIA 東海支部第12回建築設計競技「紙〜紙で街に仕掛ける〜」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・銀賞/井上真樹、馬淵晃 <b>日本二</b></li> </ul> </li> <li>●第9回千葉ふるさと住宅設計競技「ライフサイクルを見据えた安全で快適な住まい」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励賞/田中厚三</li> </ul> </li> <li>●第5回 BUFF 国際建築デザインコンペ「東京水空間」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・選外優秀作品賞/広瀬倫恒</li> </ul> </li> <li>●世界の民族人形博物館国際学生アイデアコンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/梶原崇宏、村松保洋</li> </ul> </li> <li>●第3回札幌国際デザイン賞「雪の生活文化」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/馬淵晃</li> </ul> </li> <li>●第6回学生のためのフレッシュデザインコンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品展示/下平将也</li> <li>・作品展示/川崎拓二</li> </ul> </li> </ul>   |
| 8    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第29回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/富永恒太</li> </ul> </li> <li>●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・銀賞/中村武晃 <b>地域二</b></li> <li>・奨励賞/小川太士</li> </ul> </li> </ul>       |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●石川県建築士会設計競技「インテリジェンスファクトリー」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・選外優秀作品賞/小山貴雄</li> </ul> </li> <li>●第10回千葉県街並み景観賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・準特選/鳥居延行 <b>地域二</b></li> </ul> </li> <li>●桜門建築会第7回学生設計コンクール「キャンパスコア」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパス賞/田中厚三、松元理恵</li> </ul> </li> <li>●第10回千葉県ふるさと住宅設計競技「増改築を考慮したロングライフの住宅」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励賞/田中厚三</li> </ul> </li> <li>●第10回建築環境デザインコンペティション「東京湾内のエコシティー」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/小山貴雄</li> </ul> </li> <li>●第2回九州デザインコンペティション「バリアフリーデザイン」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・協賛企業賞/小山貴雄、田中厚三、安藤亮、北田紀子、峰村亮(生産建築)</li> </ul> </li> <li>●第6回優しい食空間コンテスト「食空間デザイン」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/馬淵晃</li> </ul> </li> <li>●第9回ゆとりある住まいコンテスト「住まいの収納」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1等/田中厚三 <b>日本一</b></li> </ul> </li> <li>●'97GREEN DESIGNING IN YAMAGATA「地球環境にやさしいデザイン」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励賞/馬淵晃</li> </ul> </li> </ul> |
| 9    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第30回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/市原裕之</li> <li>・入選/針生康</li> </ul> </li> <li>●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励賞/市原裕之</li> <li>・奨励賞/針生康</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「21世紀の学校」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1部全国入選2等/村松保洋、渡辺泰夫 <b>日本二</b></li> </ul> </li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>●石川県建築士会設計競技「ヒーリング・プレイス」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/富永恒太 <b>日本二</b></li> </ul> </li> <li>●第8回学生のためのフレッシュデザインコンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品展示/宮下新</li> <li>・作品展示/佐藤洋、木村太輔、村松可奈子、北田紀子</li> </ul> </li> <li>●桜門建築会三学部建築学生交流フォーラム <ul style="list-style-type: none"> <li>・審査員特別賞/長井厚、田中啓一、寺内学、関香織、村田昌彦</li> </ul> </li> <li>●運輸省「みんなで作ろう海洋国日本 未来のアイデア大募集」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校部門 フロンティア賞/鳥居延行、若山喜信、金田岩光</li> </ul> </li> <li>●日本大学理工学部建築学科「TEMPORARY SPACE COMPETITION(DOME COMPE)」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/石川阿弥子、大野貴司、桶川嘉子、山田博栄</li> </ul> </li> <li>●第5回秀光学生コンペティション 新知的生産環境1997「挑戦するオフィス」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入賞/富永恒太</li> </ul> </li> <li>●東京建築士会第33回建築設計競技「コミュニティコアとしての小学校の再生」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/佐藤信治、市原裕之、田中克典、長井厚</li> </ul> </li> </ul>  |
| 10   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第31回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/大野貴司</li> </ul> </li> <li>●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・金賞/大野貴司 <b>地域二</b></li> </ul> </li> </ul>                          |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第4回北陸の家づくりコンペ「環境共生住宅」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最優秀賞/田中克典 <b>日本一</b></li> <li>・優秀賞/長井厚 <b>日本二</b></li> </ul> </li> <li>●第2回太陽電池を用いた創造的構築物「太陽の恵みと建築との調和」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励賞/市原裕之</li> </ul> </li> <li>●壁装材料協会主催「第6回 明日のインテリア・アイデア・コンクール」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員企業賞/伊藤昌明</li> </ul> </li> </ul>  |
| 11   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・銀賞/寺田健 <b>地域二</b></li> <li>・特別賞/江橋亜希子</li> </ul> </li> </ul>  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第5回北陸の家づくり設計コンペ「60年住む家」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/塙貴宏 <b>日本二</b></li> </ul> </li> </ul>   |

| 年度    | 卒業設計(●)/修士設計(○)   | 建築学会コンペ   | その他のコンペ  |
|-------|---|---|--|
| 平成12年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第33回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・入選/渡邊昌也</li> <li>●千葉県建築四会学生賞</li> <li>・奨励賞/原香菜子</li> <li>・奨励賞/渡邊昌也</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「新世紀の田園居住」</li> <li>・タジマ奨励賞/青山純、岡田俊博、岡部敏明、木村輝之、斉藤洋平、重松研二、秦野浩司</li> </ul>  |  |
| 13    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第34回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・建築部門賞/秦野浩司 <b>日本一</b></li> <li>●千葉県建築四会学生賞</li> <li>・奨励賞/秦野浩司</li> <li>・奨励賞/木村輝之</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「子どもの居場所」</li> <li>・関東支部入選/齋藤洋平、木村輝之</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●栃都市開発技術サービス「坪井地区を対象としたエコ・テクノロジーの活用によるまちづくり計画の提案」</li> <li>・優秀賞/山端俊也 <b>日本二</b></li> <li>・佳作/大工原洋充、舟岡徳朗</li> <li>●(財)東京建築士会「住宅課題賞」</li> <li>・入選/羽根田治</li> </ul>   |
| 14    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第35回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・入選/丸山貴広</li> <li>・入選/山下忠相</li> <li>●千葉県建築四会学生賞</li> <li>・奨励賞/栗田耕史</li> <li>・奨励賞/長坂悠司</li> </ul>   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第2回仏壇デザインコンペティション2002 森正</li> <li>・審査員長特別賞/篇淵正憲、渡邊昌也、伊藤麻也、坂元晋介</li> <li>●福山大学建築会デザインコンペティション2002</li> <li>・佳作/白砂孝洋</li> <li>●(財)東京建築士会「住宅課題賞」</li> <li>・入選/清水大地</li> <li>●第8回飛騨・高山学生家具デザイン大賞</li> <li>・入選/丸山貴広</li> </ul>  |
| 15    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第36回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・入選/川崎未来生</li> <li>●千葉県建築四会学生賞</li> <li>・奨励賞/川崎未来生</li> <li>・奨励賞/白砂孝洋</li> </ul>   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●新建築住宅設計競技2003</li> <li>・2等/川崎未来生 <b>日本二</b></li> <li>●福山大学建築会デザインコンペティション2003</li> <li>・金賞/片桐雄歩 <b>日本一</b></li> <li>・入選/白砂孝洋</li> <li>●(財)東京建築士会「住宅課題賞」</li> <li>・入選/中村智裕</li> </ul>   |
| 16    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第37回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・入選/永嶋順一</li> <li>・入選/佐藤俊介</li> <li>●千葉県建築四会学生賞</li> <li>・特別賞/稲垣直秀</li> <li>・奨励賞/勝又洋</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「建築の転生・都市の転生」</li> <li>・全国入選佳作/丸山貴広、鈴木貴之、塚本哲也、長坂悠司、吉田健一郎</li> <li>・東海支部入選/土井涼恵、内田真紀子</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●福山大学建築会デザインコンペティション2004</li> <li>・佳作/土井涼恵</li> <li>・入賞/勝又洋</li> <li>・入賞/奥田祥吾</li> <li>・佳作/三村舞、勝間田洋子、望月菜生</li> <li>・佳作/渡辺秀哉</li> <li>●(財)東京建築士会「住宅課題賞」</li> <li>・入賞/賀山雄一</li> </ul>   |
| 17    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第38回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・入選/鈴木啓史</li> <li>・入選/渡辺秀哉</li> <li>●第18回千葉県建築学生賞</li> <li>・優秀賞/渡辺秀哉 <b>地域二</b></li> <li>・奨励賞/鈴木啓史</li> <li>○第4回JIA大学院修士設計展</li> <li>・出展/京野宏亮</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「風景の構想—建築をとおしての場所の発見」</li> <li>・関東支部入選/金子太亮、勝又洋、中村智裕</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●9坪ハウスコンペ2005</li> <li>・佳作/金子太亮</li> <li>●TEPCOインターカレッジデザイン選手権</li> <li>・優秀賞/金子太亮、京野宏亮 <b>日本二</b></li> <li>●福山大学建築会デザインコンペティション2005</li> <li>・入賞/桔川卓也</li> <li>・佳作/河原一也、信戸佑里</li> <li>●(財)東京建築士会「住宅課題賞」</li> <li>・入選/五十嵐大輔</li> </ul>   |
| 18    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第39回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・入選/桔川卓也</li> <li>●卒業設計日本一決定戦</li> <li>・日本三/桔川卓也 <b>日本三</b></li> <li>●卒業設計裏日本一決定戦</li> <li>・裏日本一/桔川卓也 <b>日本二</b></li> <li>●第19回千葉県建築学生賞</li> <li>・特別賞/河原一也</li> <li>・奨励賞/丹沢裕太</li> <li>●第30回学生設計優秀作品展</li> <li>・レモン賞/桔川卓也</li> <li>○第5回JIA大学院修士設計展</li> <li>・出展/勝又洋</li> <li>・出展/金子太亮</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「近代産業遺産を生かしたブラウンフィールドの再生」</li> <li>・関東支部入選/金子太亮、勝又洋、中村智裕</li> <li>・関東支部入選/鈴木啓史、三村舞、渡辺秀哉</li> <li>●「美しいまちをつくる むらをつくる」</li> <li>・最優秀賞/渡辺秀哉</li> <li>・足立区長賞/鈴木啓史、三村舞、渡辺秀哉</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●SMOKERS' STYLE COMPETITION 2006「パブリックスペースと分煙」</li> <li>・佳作/勝又洋</li> <li>●TEPCOインターカレッジデザイン選手権「現実を虚構化する住宅/虚構を現実化する住宅」</li> <li>・最優秀作/勝又洋 <b>日本一</b></li> <li>●(財)ナムラコンチネンタルホーム事業本部・(財)日本住研</li> <li>第3回住まいのデザインコンテスト「わたしが暮らす家」</li> <li>・優秀賞/勝又洋、金子太亮 <b>日本二</b></li> <li>●(財)東京建築士会「住宅課題賞」</li> <li>・入選/島田かおり</li> </ul> |
| 19    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第40回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・入選/赤澤知也</li> <li>・入選/丸山大史</li> <li>●第20回千葉県建築学生賞</li> <li>・優秀賞/小松崎博敏 <b>地域二</b></li> <li>・奨励賞/西村秀勇</li> <li>○第6回JIA大学院修士設計展</li> <li>・出展/三村舞</li> </ul>   |   |  |
| 20    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第41回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・建築部門賞/椎橋亮 <b>日本一</b></li> <li>●第21回千葉県建築学生賞</li> <li>・奨励賞/上條経伍</li> <li>・奨励賞/爲季仁</li> <li>●第32回学生設計優秀作品展</li> <li>・出展/椎橋亮</li> </ul>  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●木愛の会 第1回設計競技「新しい木の建築—魅了する木造都市へ—」</li> <li>・入賞/大西慧</li> </ul>   |

| 年度    | 卒業設計(●)/修士設計(○)  | 建築学会コンペ   | その他のコンペ  |
|-------|--|---|--|
| 平成20年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第49回全国大会・高専卒業設計展示会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/椎川恵太</li> </ul> </li> <li>○第7回 JIA 大学院修士設計展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/五十嵐大輔</li> </ul> </li> </ul>  |   |  |
| 21    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第42回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築部門賞/細矢祥太 <b>【日本一】</b></li> <li>・出展/下泉宏記</li> </ul> </li> <li>●卒業設計日本一決定戦 <ul style="list-style-type: none"> <li>・100選/鴨志田航</li> </ul> </li> <li>●第22回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民賞/永田陽子 <b>【地域二】</b></li> <li>・奨励賞/永田陽子</li> <li>・奨励賞/鴨志田航</li> </ul> </li> <li>●第33回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/鴨志田航</li> </ul> </li> <li>●第50回全国大会・高専卒業設計展示会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/細矢祥太</li> </ul> </li> <li>●全国合同卒業設計展「卒、10」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・7選入選/大西慧</li> </ul> </li> <li>○第8回 JIA 大学院修士設計展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/小松崎博敏</li> </ul> </li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「アーバンフィジックスの構想」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・関東支部入選/鴨志田航、本多美月</li> </ul> </li> <li>●「美しくまちをつくる むらをつくる」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最優秀賞/朽木健二 <b>【地域二】</b></li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第1回日本大学校門建築会学生設計コンペティション「未来の住処をデザインする」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ガス SUMIKA 賞/細矢祥太、益山未樹</li> <li>・佳作/細矢祥太、益山未樹</li> <li>・佳作/椎橋亮</li> </ul> </li> <li>●第7回「真の日本のすまい」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本建築士会連合会会長賞/爲季仁、鈴木啓史 <b>【日本一】</b></li> </ul> </li> <li>●(株)東京建築士会「住宅課題賞」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/増田佳菜子</li> </ul> </li> </ul>   |
| 22    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第43回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最優秀賞「金の卵」賞/杉田陽平 <b>【日本一】</b></li> <li>・入賞/松井創斗</li> </ul> </li> <li>●第23回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/杉田陽平 <b>【地域二】</b></li> <li>・特別賞/松井創斗</li> </ul> </li> <li>●JIA 東海学生卒業設計コンクール2011 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/杉田陽平</li> </ul> </li> <li>●赤レンガ卒業設計展2011 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般賞 8位/杉山洋太</li> </ul> </li> <li>●JIA 全国卒業設計コンクール2011 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/松井創斗</li> </ul> </li> <li>●第34回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/古明地雲母</li> </ul> </li> <li>●全国大学・高専卒業設計展示会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/杉山洋太</li> </ul> </li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●大きな自然に呼応する建築 <ul style="list-style-type: none"> <li>・関東支部入選/大西慧、菅原遼</li> </ul> </li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●ハンサムプレゼンテーションコンペ2010 <ul style="list-style-type: none"> <li>・アーキテクタ賞/小川雅人</li> </ul> </li> <li>●第6回「新・木造の家」設計コンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/嶋真史</li> </ul> </li> <li>●第2回文化遺産防災アイデアコンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/爲季仁、平山雄基</li> </ul> </li> <li>●第2回日本大学校門建築会学生設計コンペティション <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/増田佳菜子、小山勇気</li> </ul> </li> <li>●建築新人戦 <ul style="list-style-type: none"> <li>・100選/小山勇気</li> </ul> </li> <li>●椅子のある風景 北の創作椅子展2010 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/永田陽子、椎橋亮</li> </ul> </li> <li>●ハンスグローエ ジャパン パスルーム デザインコンペ2010 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/椎橋亮、永田陽子</li> </ul> </li> </ul> |
| 23    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第44回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築部門賞/石原幹太 <b>【日本一】</b></li> <li>・入賞/渡部亘</li> </ul> </li> <li>●第24回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/石原幹太 <b>【地域二】</b></li> <li>・市民賞/石原幹太 <b>【地域二】</b></li> <li>・奨励賞/渡部亘</li> </ul> </li> <li>●赤レンガ卒業設計展2012 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別賞/石原幹太</li> </ul> </li> <li>●JIA 全国卒業設計コンクール2012 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/渡部亘</li> </ul> </li> <li>●第35回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/井上彩花</li> </ul> </li> <li>●卒業設計日本一決定戦2012 <ul style="list-style-type: none"> <li>・20選/菅原雅之</li> <li>・100選/渡部亘</li> </ul> </li> <li>●全国合同卒業設計展「卒、12」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・7選/菅原雅之</li> </ul> </li> <li>●DIPLOMA 2012 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科代表掲載作品/菅原雅之</li> </ul> </li> <li>●日本建築学会 建築デザイン発表会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・部門優秀賞/菅原雅之</li> <li>・部門優秀賞/石原幹太</li> </ul> </li> <li>●Vectorworks 教育支援プログラム OASIS <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀研究賞/菅原雅之</li> </ul> </li> <li>●MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2012 <ul style="list-style-type: none"> <li>・都築響一賞/菅原雅之 <b>【日本一】</b></li> </ul> </li> <li>●全国大学・高専卒業設計展示会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/渡部亘</li> </ul> </li> </ul> |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第17回北陸の家づくり設計コンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・北日本新聞社賞/杉田陽平、菅原雅之、渡部亘</li> </ul> </li> <li>●第3回日本大学校門建築会学生設計コンペティション <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/渡部亘</li> <li>・佳作/浦井匠、海藤航、齊藤亮介</li> </ul> </li> <li>●キルコス国際建築設計コンペティション2011 <ul style="list-style-type: none"> <li>・満田衛賞賞佳作/浦井匠、福田雄太</li> </ul> </li> </ul>  |
| 24    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第45回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入賞/浦井匠</li> </ul> </li> <li>●第25回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別賞/浦井匠</li> <li>・奨励賞/海藤航</li> </ul> </li> </ul>  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第10回 R&amp;R 設計アイデアコンテスト <ul style="list-style-type: none"> <li>・入賞/松井創斗、斎藤亮介、山川大喜、川崎将</li> </ul> </li> <li>●FUTURE DESIGN 2012 未来エレベーターコンテスト <ul style="list-style-type: none"> <li>・審査員賞/田原拓、川崎将、山川大喜、善財寛之</li> </ul> </li> <li>●建築新人戦 <ul style="list-style-type: none"> <li>・100選/山川大喜</li> </ul> </li> </ul>  |

| 年度    | 卒業設計(●)/修士設計(○)  | 建築学会コンペ   | その他のコンペ   |
|-------|--|---|---|
| 平成24年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2013</li> <li>・佳作/涌井匠 <b>日本一</b></li> </ul>   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第4回ハーフェレ学生デザインコンペティション</li> <li>・妹尾賞/石原幹太、伊藤春樹、古江志人、遠洞躍斗</li> <li>● ALA 建築 Project 建築学生の挑戦「都市と空き地」Vol.2</li> <li>・優秀作品/松井創斗、堤昭文、辻普</li> <li>● 第4回文化遺産防災アイデアコンペティション</li> <li>・佳作/榎本翔太、涌井匠、杉田陽平</li> <li>● 歴史的空間再編コンペティション2012</li> <li>・入選/杉田陽平、涌井匠、川崎将、徳永尚亮</li> <li>● 平成24年度「横須賀市の海を活かしたまちづくり」コンペ</li> <li>・最優秀賞/梅田淳、海藤航、福田雄太、涌井匠 <b>地域一</b></li> <li>・企画賞、デザイン賞/伊藤春樹、斉藤亮介、中山淳雄、望月堅二</li> <li>● キルコス国際建築設計コンペティション2012</li> <li>・永山祐子賞佳作/涌井匠</li> </ul>  |
| 25    | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第26回千葉県建築学生賞</li> <li>・奨励賞/山川大喜</li> <li>・奨励賞/川崎将</li> </ul>  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 歴史的空間再編コンペティション2013</li> <li>・入選/菅原雅之、遠洞躍斗、樋浦直紀、井出健、鶴田亜有美、中山博貴</li> <li>● 建築新人戦</li> <li>・100選/出山亮</li> <li>● 平成25年度「横須賀市の海を活かしたまちづくり」コンペ</li> <li>・最優秀賞/遠洞躍斗、田原拓、堤昭文、岩本桃果、阿部紘樹 <b>地域一</b></li> <li>・企画賞、デザイン賞/山川大喜、森浩平、徳永尚亮、善財寛之、鈴木彩美、大谷涼</li> <li>● キルコス国際建築設計コンペティション2013</li> <li>・遠藤秀平賞銀賞/山川大喜、辻普、藤本幸汰、白坂真</li> <li>・古谷誠章賞佳作/菅原雅之</li> </ul>  |
| 26    | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第47回毎日・DAS デザイン賞</li> <li>・入賞/滝村菜香</li> <li>・入賞/出山亮</li> <li>・入賞/藤本幸汰</li> <li>● 第27回千葉県建築学生賞</li> <li>・特別賞(JIA 全国出展)/山影悠時</li> <li>・奨励賞・市民賞2位/志萱侑太</li> <li>● 全国合同卒業設計展「卒、15」</li> <li>・審査委員賞(藤村龍至賞)/山影悠時</li> <li>● 卒業設計日本一決定戦2015</li> <li>・100選/山影悠時</li> <li>・100選/志萱侑太</li> <li>● 福岡デザインレビュー2015</li> <li>・最優秀賞/堤昭文 <b>日本一</b></li> <li>● 赤レンガ卒業設計展2015</li> <li>・審査委員賞(中山英之賞)/滝村菜香</li> <li>● 第38回学生設計優秀作品展</li> <li>・レモン賞/堤昭文</li> <li>● 日本建築学会 建築デザイン発表会</li> <li>・審査委員賞(篠原聡子)/山影悠時</li> <li>● MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2015</li> <li>・入選/志萱侑太</li> <li>・入選/山影悠時</li> </ul> |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 建築新人戦</li> <li>・101選/高橋翔</li> <li>● 第8回 JACS 住宅設計コンペ2014</li> <li>・佳作/川崎将、志萱侑太、高橋翔</li> <li>● キルコス国際建築設計コンペティション2014</li> <li>・五十嵐淳賞(銅賞)/遠洞躍斗、森浩平、浅見花</li> <li>● 第6回日本大学校門建築会学生設計コンペティション</li> <li>・審査委員賞/山川大喜、滝村菜香、斉藤賢司</li> <li>・佳作/涌井匠、遠洞躍斗、山影悠時</li> <li>● 歴史的空間再編コンペティション2014</li> <li>・20選/涌井匠、出山亮、森浩平、樋浦直樹、染谷萌衣、高橋政頼</li> <li>● 平成26年度「よこはまの海を活かしたまちづくり」コンペ</li> <li>・デザイン賞/出山亮、井出健、宇山浩和、戸田寛康、樋浦直樹</li> <li>・佳作/志萱侑太、亀田宏樹、滝村采香、福島弘明、増田顕弘</li> </ul>   |
| 27    | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第48回毎日・DAS 学生デザイン賞</li> <li>・建築部門賞/高橋翔 <b>日本一</b></li> <li>● 第28回千葉県建築学生賞</li> <li>・市民賞2位・奨励賞/高橋翔</li> <li>・奨励賞/重田秀之</li> <li>● 第39回学生設計優秀作品展</li> <li>・出展/高橋翔</li> <li>○ 第39回学生設計優秀作品展</li> <li>・出展/山川大喜</li> <li>○ 第14回 JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展2016</li> <li>・出展/川崎将</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本建築学会建築文化週間学生グランプリ2015</li> <li>・入選/志萱侑太、重田秀之、高橋翔、千葉雄介、中西宏直、濱嶋杜人</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本造園学会90周年記念全国大会 U-30国際アイデアコンペティション</li> <li>・佳作/森浩平、杉田陽平、松井創斗</li> <li>● Floating City Project Architectural Design Contest</li> <li>・佳作/佐藤信治研究室</li> <li>● シェルターインターナショナル学生設計競技2015</li> <li>・一次予選通過/出山亮、森浩平、蒲生良輔</li> <li>● 第9回 JACS 住宅設計コンペ2015</li> <li>・特別賞(長谷川豪賞)/遠洞躍斗、滝村菜香、小貫笑美依、佐々木秀人</li> <li>・佳作/志萱侑太</li> <li>● 平成27年度「よこはまの海を活かしたまちづくり」コンペ</li> <li>・最優秀賞/高橋翔、千葉雄介、中西宏直、今村夏波 <b>地域一</b></li> <li>● 公共施設オープンリノベーションマッチングコンペティション</li> <li>・実施採択/川崎将</li> <li>● 第7回日本大学校門建築会学生設計コンペティション</li> <li>・佳作/出山亮、森浩平、蒲生良輔</li> <li>● 歴史的空間再編コンペティション2015</li> <li>・10選/出山亮</li> <li>・20選/遠藤躍斗、山影悠時、森浩平、上田紗矢香、小貫笑美依</li> <li>・50選/川崎将、滝村菜香、高橋政頼、中西宏直、門口稚奈、蒲生良輔、濱嶋杜人</li> <li>● 第13回主張する「みせ」学生デザインコンペ</li> <li>・審査委員特別部門賞/志萱侑太、山本雄太郎</li> <li>● 第1回学生・コンペティション「共のレシピ」</li> <li>・特別賞/山川大喜、志萱侑太、千葉雄介</li> <li>● キルコス国際建築設計コンペティション2015</li> <li>・近藤哲雄賞銀賞/志萱侑太</li> </ul> |

| 年度    | 卒業設計(●)/修士設計(○)   | 建築学会コンペ   | その他のコンペ  |
|-------|---|---|--|
| 平成28年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第29回千葉県建築学生賞</li> <li>・市民賞/蒲生良輔 <b>地域</b></li> <li>・奨励賞/蒲生良輔</li> <li>・奨励賞/濱嶋杜人</li> <li>●せんだいデザインリーグ</li> <li>卒業設計日本一決定戦</li> <li>・100選/上田紗矢香</li> <li>・100選/宮嶋悠輔</li> <li>●全国合同卒業設計展「卒、17」</li> <li>・総合資格学院賞/上田紗矢香</li> <li>●第40回学生設計優秀作品展</li> <li>・出展/蒲生良輔</li> <li>○第40回学生設計優秀作品展</li> <li>・出展/志萱侑太</li> <li>○第15回 JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展2017</li> <li>・出展/出山亮</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●日本建築学会設計競技</li> <li>・タジマ奨励賞/宮嶋悠輔、門口稚奈、谷醒龍、濱嶋杜人</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●ERI学生デザインコンペ2016</li> <li>・佳作/蒲生良輔、小貫笑美依、福富大真</li> <li>●歴史的空間再編コンペティション2016</li> <li>・50選/佐々木秀人、新部瑠介、加藤毅三</li> <li>●都市のパブリックスペースデザインコンペ</li> <li>・佳作/志萱侑太、金井亮祐</li> <li>・佳作/永富快、上田紗矢香、山本雄太郎</li> <li>●(社)東京建築士会「住宅課題賞」</li> <li>・入賞/黄起範</li> </ul>   |
| 29    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第49回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・金の卵賞/黄起範 <b>日本</b></li> <li>●第30回千葉県建築学生賞</li> <li>・特別賞/黄起範</li> <li>・奨励賞/赤堀厚史</li> <li>○第41回学生設計優秀作品展</li> <li>・出展/千葉雄介</li> <li>○第16回 JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展2018</li> <li>・出展/高橋翔</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●日本建築学会設計競技2017「地域の素材から立ち現れる建築」</li> <li>・全国入選佳作・タジマ奨励賞/赤堀厚史、中村圭佑、佐藤未来、加藤柚衣</li> <li>・四国支部入選/松下知可、青木絵子、島田将武、浅野健</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●建築新人戦</li> <li>・16選/服部立</li> <li>・100選/勝部秋高</li> <li>・100選/山本壮一郎</li> <li>・100選/笹川雄基</li> <li>●歴史的空間再編コンペティション2017</li> <li>・50選/重田秀之、宮嶋悠輔、金井亮祐、山本淳樹、Lunenkova Anastasia、渡辺真理恵、三枝晃、笹川雄基</li> <li>●シェルターインターナショナル学生設計競技</li> <li>・34選/蒲生良輔、山本淳樹</li> <li>●都市のパブリックスペースデザインコンペ2017</li> <li>・佳作/永富快、山本雄太郎、上田紗矢香</li> <li>・佳作/志萱侑太、金井亮祐</li> </ul>  |
| 30    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第50回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・金の卵賞/服部立 <b>日本</b></li> <li>●第31回千葉県建築学生賞</li> <li>・最優秀賞/勝部秋高 <b>地域</b></li> <li>・特別賞/根本一希</li> <li>・市民賞/勝部秋高 <b>地域</b></li> <li>●赤レンガ卒業設計展2019</li> <li>・審査員賞/高橋遼太郎</li> <li>●デザイン女子 No.1 決定戦</li> <li>・都市・建築部門賞1位/渡辺真理恵 <b>日本</b></li> <li>○第42回学生設計優秀作品展</li> <li>・出展/上田紗矢香</li> <li>○第17回 JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展2019</li> <li>・出展/佐々木秀人</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●日本建築学会設計競技2018「住宅に住む、そしてそこで稼ぐ」</li> <li>・東海支部入選/山本壮一郎、根本一希、桜井南実、服部立、住吉文登</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●建築新人戦</li> <li>・8選/中村美月</li> <li>・100選/西遼</li> <li>●歴史的空間再編コンペティション2018</li> <li>・第5位/佐々木秀人、金井亮祐、根本一希、桜井南実、小林陽太、中村美月、松下将也</li> <li>●キルコス国際建築設計コンペティション2018</li> <li>・金賞/蒲生良輔、山本淳樹、三枝晃、山内颯、西村寿々美、郎敬萬 <b>日本</b></li> <li>・銀賞/勝部秋高、篠原健</li> <li>●桜建デザイン・コンクール2018</li> <li>・入選/佐々木秀人、山本壮一郎、渡辺真理恵、西村寿々美</li> <li>●住宅課題賞2018</li> <li>・入選/小山田駿志</li> <li>●ひろしま建築学生チャレンジコンペ2018</li> <li>・9選/西遼、小山田駿志、山内颯</li> </ul> |